

# 『こうりんていせい交隣提醒』について—その5

—「韓国国史編纂委員会所蔵本」と「雨森芳洲文庫所蔵本」との異同

呉 満

[まえがき]

雨森芳洲著『交隣提醒』(1728年、<享保13>)は著者が61歳の時、永年に亘る対朝鮮外交の体験を踏まえ、当時の対馬藩主宋義誠に献じた朝鮮外交の指針であり、氏の代表著作の一つとして知られている。現在、同書は「滋賀県高月町立観音の里歴史民俗史料博物館所蔵」(芳洲会所有)は重要文化財として指定されている。なお、同書には5種の異本が伝わるが、本稿は筆者が1997年8月、「韓国国史編纂委員会(韓国果川市)を訪れ、当委員会のマイクロフィルムから撮影した『交隣提醒』を原典とする史料を完全解読したものである。

本稿に先立ち、既に本書の影印と現代語訳をそれぞれ『大阪経済法科大学論集』の第90号(2006年2月)、第92号(2007年2月)、第94号(2008年3月)、第96号(2009年1月)に発表した。本稿は他の写本活字版『交隣提醒』、即ち「雨森芳洲文庫所蔵本」(関西大学東西学術研究所史料集刊11-3)との異同を考察するのが課題である。

[キーワード] : 雨森芳洲・交隣提醒・1728<享保13>・対朝鮮外交指針・  
韓国国史編纂委員会所蔵本・雨森芳洲文庫所蔵本

## 1. はじめに

本稿で扱う『こうりんていせい交隣提醒』は、1728年(享保13)、雨森芳洲が61歳の時に氏の長年に亘る対朝鮮外交の体験を踏まえ、当時の対馬藩主そうよしのみ宗義誠に献じた朝鮮

## 『交隣提醒』について—その5 (呉)

外交の心得書で、格調高い内容を有する芳洲の代表作の一つである。

筆者はこれまで『交隣提醒』について鋭意注目し雨森芳洲著『交隣提醒』について—その1 (大阪経済法科大学論集、第90号<2006年2月>)、雨森芳洲著『交隣提醒』(韓国立国史編纂委員会所蔵本について—その2) <同書第92号<2007年2月>、雨森芳洲著『交隣提醒』(現代語訳) —その3 <同書第94号<2008年3月>及び『交隣提醒』(韓国立国史編纂委員会所蔵本)《原典解説》—その4 <同書、第96号、2009年1月>を論述した。本稿はこれらに続く論考である。本書の完全な原典解説は本稿が嚆矢であることを記しておく。

ところで、現在、伝えられている『交隣提醒』には5種の異本(①滋賀県高月町の「雨森芳洲文庫所蔵本」②「東京大学史料編纂所所蔵本」③対馬の旧厳原町の「中央公民館所蔵本」④韓国の「韓国国史編纂委員会所蔵本」⑤「韓国国立中央博物館所蔵本」)が伝わる。

まず、「高月町立観音の里歴史民俗資料館所蔵」(「芳洲会」所有)で、重要文化財に指定されている「雨森芳洲文庫所蔵本」の『交隣提醒』について考察しよう。

本書の体裁は、25.7cm×19.5cmで、76張紙の<sup>こうぞし</sup>格紙、袋綴冊子装、堅張、紙綴四針眼で原表紙は茶地。外題、内題とも“交隣提醒”とある。奥書には、“享保十三年戊申年十二月二十日、雨森東五郎”と記され、原装見返しに“雨森顕允と鵬海が並書され直筆”とある。因みに、顕允は芳洲の長男であり、鵬海(1698～1739)は芳洲の二代目清元の雅号である。つまり顕允も鵬海も同一人物である。

先の「芳洲会」は昭和62年春、本史料を底本にして『交隣提醒・抜粋・現代語訳』を45頁の冊子にして刊行した。因みに本書は公刊されていない。同書の「前書き」に、次のように記されている。参考のためにそのまま列挙してみよう。

- 五十四段に分かれた本文中から十五段を選び、現代語文を添えました。
- 芳洲書院よりお借りした芳洲直筆全文のコピーを更に50%縮小コピーしたものを上段に置きました。

## 『交隣提醒』について—その5 (呉)

○現代語文のテキストとしたのは原文を活字になおした「雨森芳洲全集三」  
関西大学東西学術研究所刊行です。(以下、略)

次に、韓国の「韓日関係史学会」から原典を現代韓国語で刊行された『訳注交隣提醒』(韓日関係史学会編、国学資料院刊、2001年2月初版発行)を見てみる。

本書の発刊辞(韓国語文)には概ね次のように記されている。

“まず、「韓日関係史学会」が1992年に設立されたこと、本書の刊行が韓日関係史分野の基礎研究に多くの寄与をなすであろうとの期待のもとに刊行されたこと、『交隣提醒』は書体と文体がとても難解で、まだ日本でも訳注本が未刊行であること、このような状況の中で、我が研究者の数年間に亘る情熱と労苦によって訳注本が刊行されるのは実に意義深いことだと言わざるをえない”  
(日本語訳は筆者)と、記述されている。

ところで、筆者(呉)は、韓国国史編纂委員会所蔵本の『交隣提醒』を底本として原典の現代日本語訳に努めた。訳出の過程で、芳洲文庫所蔵本の『交隣提醒』とは内容的に見て、漢字表記、単語など、大小の相違があることが判明した。

ところで筆者が入手したマイクロフィルム撮影の『交隣提醒』の1頁には、「撮影指示書」とあり、1994年9月の日付で「次のごとくマイクロフィルム文書撮影を指示する」(韓国文)と国史編纂委員会資料管理室長宛の一文に始まり、撮影文書が「對馬島宗家文書」であること、使用カメラは、「富士M2」、使用フィルムは「35m/m」、撮影日時は、「1994.9」と明記され、次頁目の撮影目録には、図書名が『交隣提醒全』1728年(英祖4、享保13)17×23.5、と記載されている。

以上のことから、筆者が入手した同史料は筆者が同委員会を訪問した以前にマイクロフィルム撮影されていたこと、雨森芳洲文庫所蔵本『交隣提醒』が76張紙の格紙、袋綴冊子装、堅張、紙綴四針眼、原表紙茶地、外題、内題とも交隣提醒、原装見返しに、雨森顕允と鵬海が並書され直筆と記録されており、

## 『交隣提醒』について—その5（呉）

体裁が25.7×19.5であるのに対して、韓国国史編纂委員会所蔵本『交隣提醒』は、雨森芳洲文庫所蔵本『交隣提醒』とは明らかに相違する。それは、韓国国史編纂委員会所蔵本『交隣提醒』は四針眼61張の縦線罫紙12行の袋綴冊子装であること、奥書には、享保十三年戊申十二月廿日雨森東五郎撰、と記録され、各袋綴中央の下段には「菰涯堂」の三字が確認できることである。したがって、同所蔵本は、当時、「菰涯堂」なるところで作成された用紙を用いて記録されたことが分る。また、本書の最後の部分には、「交隣提醒」に続き「朝鮮風俗之事」（七張半）と「武器之事」（一張）と記載されて『交隣提醒』が終結するところから、記述の「雨森芳洲文庫所蔵本」、「中央公民館所蔵本」、および「韓国国立中央博物館所蔵本」とは異同があることが分る。

『交隣提醒』の書誌に関しては、現在伝わる5種のバージョンの異同の究明が今後の課題となる。次に、本稿を閲覧、解読する際の留意点をいくつか上げておきたい。

- ① 現在、雨森芳洲著の『交隣提醒』の写本5種の中、いずれが原本であるかは目下、解明されていない。しかし、写本は原本を参考にしたはずである。伝本される過程で読みやすく理解しやすいように改定された形跡が見られる。
- ② 原典は筆写本、縦書きであるが、編集の便宜上、横書きとし、可能な限り正確を期した。
- ③ 原典は18世紀初の作成であること、著者独自の筆者本であることから筆跡に筆者の癖と特長が見られる。
- ④ 候文で書かれている上に、所々に漢文交じりの表現があること。ひらがな表記は草書体で書かれているほか、カタカナ交じりの混交である。
- ⑤ 略字が所々に見られ、当時の日本語文に相当に熟読していなければ解読は困難である。
- ⑥ 原典には各項目ごとに「一」と記し、区分しているのみで、各項目の番号と題目が付されていない。そこで、理解を期すため内容上、54の項目に便宜上区分した。
- ⑦ 原典の解読で明らかなる表記上の間違いが散見される個所があったが、その

ままとした。

- ⑧ 原典注釈は、雨森芳洲著『交隣提醒』（現代語釈）—その3〈大阪経済法科大学論集第94号、2008年3月〉に公表した。参照されたい。
- ⑨ 本稿で考察の原典は韓国国史編纂委員会所蔵のマイクロフィルムからの映しのため、解読が不明な個所があるところは、●で処理した。
- ⑩ 所々に文字の大小が見られるので、小文字表記が明白な場合は意識して便宜上小文字表記とした。

### 【凡例】

- 1) 本稿は、『交隣提醒』（韓国国史編纂委員会所蔵本）《原典解読》を底本とし、『雨森芳洲所蔵本』に見られない文字は○の囲みで文字の大小を表した。また、所所に見られる表記上の異なりはそれぞれの文字の上部にルビを附し表記した。
- 2) その際、それぞれの漢字（文字）の真上のルビは、それぞれの漢字（文字）を、また、それぞれの漢字（文字）の真上の右のルビは当該漢字（文字）に続くことを表す。  
例) 是<sup>ハ</sup>→是ハ、宴<sup>ウ</sup>席<sup>セ</sup>之<sup>ノ</sup>儀<sup>ハ</sup>→宴<sup>ウ</sup>亨<sup>セ</sup>等<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>義<sup>ハ</sup>、應<sup>オウ</sup>之<sup>ノ</sup>處<sup>ニ</sup>致<sup>ス</sup>之<sup>ノ</sup>候<sup>ニ</sup>越<sup>ス</sup>→應<sup>オウ</sup>し<sup>テ</sup>処<sup>ス</sup>いたし<sup>テ</sup>候<sup>ヲ</sup>を、
- 3) 本稿中に、所所「より」の略字体「ㄱ」が見られる。これを作字しルビを附して表記した。その際、「韓国国史編纂委員会所蔵本」では「与り」「より」とされ、「雨森芳洲所蔵本」で単に「ㄱ」とだけ表記されている場合にも本稿では便宜上「与<sup>リ</sup>り」「よ<sup>リ</sup>り」と表記した。
- 4) 現代語の表記上、明らかに誤りと考えられる表記の場合はそのままの表記としてルビを附した。
- 5) 本稿中には二重のルビが附されている場合がある。それを現状のパソコン技術では処理しきれないので、次のごとく、それぞれ「シヤキ（シュビン）」のように一列にし、ルビを附して表した。  
例) 溺<sup>シヤキ(シュビン)</sup>器<sup>アナトリ(ブラクナブリ)</sup>、侮<sup>シヤキ(シュビン)</sup>弄<sup>アナトリ(ブラクナブリ)</sup>、價<sup>シヤキ(シュビン)</sup>布<sup>カツブイ</sup>
- 6) 所所に下線を附したところがある。それは注意を喚起させたり、語の解釈

上、再考を要すると思われるところとした。今後の筆者の課題とするところでもある。

例) 唾<sup>ツハキバキシ</sup>し、以<sup>いつの</sup>川<sup>歳</sup>之年、五日<sup>タイリ</sup>次

- 7) 本稿作成に当たり、可能な限り正確を期したが、著者雨森芳洲の表記上の特長、文字表記の大小の別など、原典解読が頗る困難であった。ゆえに、筆者の力量不足のため所所に誤謬がありはしないかと怖れる。向後の訂正と叱正に期待したい。

## 2. 『交隣提醒』について—その5—「韓国国史編纂委員会所蔵本」と「雨森芳洲所蔵本」との異同

(一) 朝鮮交接之儀ハ第一人情時勢を知り候事肝要<sub>ニ</sub>而候。其ノ内筋<sup>々</sup>を分<sub>テ</sub>諸事了簡可致事<sub>ニ</sub>候。筋<sup>々</sup>登申候ハ是者<sup>ハ</sup>朝廷方乃了簡<sub>ニ</sub>預<sup>あつか</sup>り候事、是ハ東萊之了簡<sub>ニ</sub>出候事、是譯官共計候事是ハ商人共仕形<sub>ニ</sub>候事登夫々<sub>ニ</sub>分<sup>チ</sup>候而思慮<sup>々</sup>加<sup>ヘ</sup>宜<sub>ニ</sub>應<sup>ハ</sup>之<sup>ハ</sup>處致<sup>ハ</sup>候越筋々越分登盤申候。堂<sup>タ</sup>登<sup>ト</sup>ハ<sup>ハ</sup>御買米之儀<sup>ニ</sup>又<sup>マ</sup>ハ<sup>ハ</sup>宴席<sup>ニ</sup>之儀<sup>ハ</sup>、兩國誠信之上与<sup>リ</sup>約條相究彼國相延<sup>テ</sup>知<sup>ル</sup>居<sup>ル</sup>候事<sub>ニ</sub>候故、御買米の快ク入來候哉否、又盤宴席例式之通<sub>ニ</sub>有<sup>ル</sup>之候哉否<sup>ノ</sup>儀<sup>ハ</sup>、朝廷方東萊之了簡<sub>ニ</sub>預<sup>あつか</sup>り候事<sub>ニ</sub>候。御商買之儀者、利分有<sup>ル</sup>之合方<sup>ニ</sup>宜<sup>ク</sup>候得共、荷物越持来<sup>リ</sup>合方<sup>ニ</sup>不宜<sup>ク</sup>候得者荷物持来<sup>ル</sup>不<sup>レ</sup>申、専<sup>ラ</sup>商人<sup>ノ</sup>之仕形<sub>ニ</sub>有<sup>ル</sup>之候事<sub>ニ</sub>候。然<sup>レ</sup>所<sup>ニ</sup>御買米又ハ宴席等<sup>ノ</sup>之儀<sub>ニ</sub>付、急度可申立事<sub>ニ</sub>候而も御商買爾指支可申哉と存候而扣之、若又商物持来候事不足<sup>ク</sup>候可。満多盤、時節違<sup>ヒ</sup>候得<sup>ハ</sup>東萊へ申達<sup>シ</sup>何登<sup>セ</sup>御商買順便<sub>ニ</sub>成<sup>ル</sup>候様爾登存候類盤筋<sup>々</sup>分<sup>チ</sup>申さぬ不<sup>レ</sup>了簡<sub>ニ</sub>而候。此以前義偽船之事有<sup>ル</sup>之候時、最初者<sup>ハ</sup>厳ク被仰然候御了簡之様耳相見<sup>ヘ</sup>候處、御商買<sup>ニ</sup>支可申哉と裁判方より申来<sup>リ</sup>候<sub>ニ</sub>付、其沙汰大渠<sup>ニ</sup>爾<sup>ニ</sup>相止候。ケ様之類其筋<sup>々</sup>分<sup>チ</sup>無<sup>ク</sup>之、人情時勢<sub>ニ</sub>登<sup>リ</sup>登<sup>リ</sup>可申候。惣体日本内之事<sub>ニ</sub>候得者、是盤商人<sup>ノ</sup>申事、是者町奉行<sub>ニ</sub>申候事、是盤御老中方<sup>ニ</sup>申入候事登申、差別自然登<sup>ル</sup>其<sup>ノ</sup>勘辨人々有<sup>ル</sup>之候事<sub>ニ</sub>候得共、朝鮮之事<sub>ニ</sub>成候得者や、登も以堂<sup>ニ</sup>之候得者<sup>ニ</sup>混雜<sup>ル</sup>候由<sup>ヘ</sup>其所<sup>ニ</sup>心越用<sup>ル</sup>可<sup>ク</sup>申事<sub>ニ</sub>候。

(二) 商買之事商人<sup>ノ</sup>数越定<sup>メ</sup>御國登貿易<sup>ニ</sup>致<sup>ル</sup>候様<sup>ニ</sup>登<sup>リ</sup>朝廷方与<sup>リ</sup>許<sup>シ</sup>之被置<sup>タ</sup>留<sup>ル</sup>

『交隣提醒』について—その5 (呉)

候由へ<sup>故</sup>商人之事二付可申違有之候か<sup>又</sup>ハ<sup>を</sup>或盤別開市越望候可<sup>又</sup>ハ<sup>等</sup>てくらうをいたし<sup>事</sup>類  
ハ朝廷より是又禁之被置堂留事に候由へ、姦曲無之様<sup>登</sup>申達候類ハ格別之事  
候。荷物越大分持來<sup>奈</sup>登<sup>下</sup>知を頼<sup>候</sup>事者誠<sup>耳</sup>無益之事候。彼方  
合方与路しく候へハ分明二刑罰を蒙り候事<sup>候</sup>得登<sup>も</sup>潜商之族耳今不断候<sup>も</sup>  
も川て見申候得<sup>ハ</sup>彼方合方不宜<sup>候</sup>得<sup>ハ</sup>如何程朝廷東萊より被申付候<sup>も</sup>も利益  
無之商売越可致様候故、商売之儀者朝廷東萊之預り被申事二而無之候。

古來之歷々之内商買<sup>加</sup>り被居候与申咄も有之。公儀之荷物与申持來候事今  
登天も有之候由<sup>ハ</sup>商買之儀者朝廷方東萊之<sup>預</sup>り被申候事仁亭無之候登者被申  
間敷与申筋可有之候。是亦混雜之所見<sup>候</sup>間能<sup>可</sup>有勘辦事<sup>御</sup>座候。

(三) 撤供撤市以堂之候得<sup>ハ</sup>對州之人ハ嬰兒の乳を絶候ことく<sup>候</sup>与彼の国乃  
人常尔申事<sup>而</sup>、此方二いた手越阿天候第一之上策止存居申候。小川又三郎館  
守之時館内之もの<sup>銀</sup>奉与申朝鮮人<sup>殺</sup>し中川<sup>志</sup>川め置候越朝鮮人共右之  
死骸を取出し候段東萊<sup>相</sup>間、若も其相手越日本人出し不申候<sup>ハ</sup>撤共撤市  
以堂し候様<sup>二</sup>登被申付候傳令、別差呉判事懷中致し居見<sup>申</sup>候。其節導差より  
不申出候内二館内ヨリ右之科人之事申出候者有之。早速館守被召捕候由<sup>ハ</sup>右之  
傳令越出し候<sup>も</sup>も不及候キ。此後<sup>登</sup>ても御國より不埒成義被仰掛<sup>力</sup>、又  
者不埒成被成方有之候<sup>ハ</sup>、成程御商買之支<sup>二</sup>成候事も可有之候得共、可被仰  
立事<sup>ヲ</sup>被仰置候時、無体<sup>撤</sup>供撤市可致様無之候。日本人之儀者<sup>御</sup>商買越  
性命<sup>古</sup>とく第一切要<sup>以</sup>堂之候と申事能<sup>存</sup>居候故、間耳<sup>ハ</sup>譯館共計策<sup>而</sup>  
開市越志婦らせ候<sup>而</sup>見せ候事若も有之候とも左様之節者前<sup>も</sup>申候登越り其筋  
越分子、事之大小輕重越勘辨し、弥開市二相碍ル事<sup>候</sup>哉否登申了簡肝要之事  
候。

(四) 御買米之儀朝廷<sup>而</sup>ハ別事無之候得とも東來また盤<sup>又</sup>官とも申<sup>合</sup>中間  
滞らせ候事毎々有之由<sup>候</sup>。利<sup>貪</sup>侯事盤<sup>華</sup>も同前之事<sup>而</sup>、廉明之役  
人常<sup>二</sup>可有之<sup>而</sup>も無之<sup>ゆ</sup>へ此所氣越付可申事<sup>候</sup>。

(五) 御買米二砂沙石もミを雜へ又者水越和し持來<sup>り</sup>侯事、專釜山  
監官等<sup>之</sup>(カングワンドツハイ)  
公<sup>作</sup>米<sup>西</sup>館米仕形与相聞候間、此後又左様之事候<sup>ハ</sup>、館内之役人  
共申<sup>合</sup>宴享之節、右之米越俵奈から東萊前<sup>持</sup>出訴候様<sup>二</sup>致候義、第一之處  
置登<sup>候</sup>得共館内二而米を請取<sup>候</sup>節<sup>解</sup>之外爾<sup>升</sup>を加へ候義、來歴有之仕<sup>來</sup>

『交隣提醒』について—その5 (呉)

事と者相見へ候得共、分明ニ其訳難知處有之故、東萊之分ニ加升有之候ゆへ、右之仕形ニ候段役目之ものとも申候間、加升を相止メ候様ニ奈登と有之時、辨論ニ屈し可申哉との恐有之候。依之右之義終ニ申(達)たる事無之候。斛升之義も大要者其筋相立斛一件記録ニ委細記し置候、此後加升之訳弥分明ニ成候ハ>其節者右之通東萊直訴致させ候仕形(○)可然候。

(六) 送使ニ罷渡り候者貿易の多女罷渡候事登相心得可申候。朝鮮之書者商船登有之。送使之外別段之御用有之被指渡候ハ使者と申事候。送使ニ罷渡候人、多クハ何事ニ付罷渡候登申事、曾而其心得無之偏ニ馳走を請候多女罷渡(㊟)候登存居候族有之、氣(○)毒成事候。公儀(江)前より被仰上候ハ、兩國誠信(ヲ)以年中ニ式拾五船ツ>被指渡候と被仰上置、商船登申事ハ終ニ被仰上無之候。之精キ御尋無之候ハ>此方より商船登申事(ハ)被仰上候者及申間敷候。

(七) 兼帯送使之儀者御内證之御約束ニ而公儀(江)知し候事ニ而者無之候。志可之御尋有之候と起、彼方願(マ)任(セ)幣を省(キ)候多女、数十年兼帯ニ致來候と被仰上候ハ>別事有之間敷候。御國漂船(ヲ)兼帯(シ)奈(ラ)連候も同然之心持候。担此等之事義理(ニ)當(リ)堂類事(ト)而も無之候由(ハ)光明正大之人若(シ)上(ニ)御立被成候節者必者相改り申候而可有之候。

(八) 日本(江)唐人共商賣(ハ)参(リ)候而も糧米炭柴越給し馳走被成候事無之候所、貿易の多女罷渡(㊟)候送使(ヲ)彼方より馳走被致候訳者胡人之開市の多女中國(ニ)來(リ)候ハ遠人(ヲ)緩(メ)する登申(候)天驛馬越給し糧食(ヲ)具(ラ)連候段、宋史(ニ)も相見へ朝鮮(ニ)も其例(ニ)準(シ)ら連(ル)たる(ニ)而候。彼方(ニ)取(リ)候而者寛大之處置(ト)而此方(ニ)登(リ)而者心(ニ)安(カ)し(カ)堂起(メ)事(ト)而候。

(九) 彼地(江)被渡候人定り多る日数の馳走をう希、日数の外(ニ)出候へ者乗(リ)て(ハ)天(ノ)請取可申と致し候。所ニ色々の用事ニ託(シ)日数の内(ニ)歸國(ニ)以(テ)堂(ニ)候儀、甚以不聞(ク)事(ト)候。此儀者決(シ)而指許間敷事(ト)候。若不得已用事有之歸國致し候者、逗留之日数たけ馳走をうけ、相残候分者辞退致し候へ登急度可被仰付事候。ケ之儀朝鮮者別段之事之様相心得、歷々(ト)而も日数の内(ニ)歸國可致と存候。族間ニハ有之。不義の名を残し御國之風儀(ニ)惡(ク)敷候登朝鮮人存込候而者、上之御外聞不(レ)宜候と申所(ハ)心付無之候段(ト)百(ノ)嘆(ク)之事(ト)候。三十年者其幣相止(メ)候得とも其以前(ニ)までは御家中扶助の多女登有之。被遣間敷(ト)別使(ヲ)被遣、毎度論談(ニ)及候事有之。



『交隣提醒』について一その5 (呉)

畢竟<sup>ハ</sup>上<sup>ニ</sup>之<sup>ノ</sup>御<sup>ノ</sup>為<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>宜<sup>キ</sup>事<sup>ニ</sup>候。

(十) 送使<sup>ハ</sup>僉<sup>ニ</sup>官<sup>ニ</sup> 狸 <sup>ニ</sup>坂<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>下<sup>ニ</sup> 詔<sup>ノ</sup>官<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>宅<sup>ニ</sup> 参候<sup>ニ</sup>義<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>宜<sup>キ</sup>事<sup>ニ</sup>。弥<sup>モ</sup>可<sup>ク</sup>被<sup>レ</sup>禁<sup>ム</sup>事<sup>ニ</sup>二<sup>ニ</sup>候。

(十一) 朝鮮<sup>ニ</sup>相<sup>ノ</sup>務<sup>ノ</sup>候<sup>ニ</sup>御<sup>ノ</sup>役<sup>ノ</sup>人<sup>ニ</sup> 館<sup>ノ</sup>守<sup>ノ</sup>裁<sup>ノ</sup>判<sup>ノ</sup>一<sup>ニ</sup>代<sup>ノ</sup>館<sup>ノ</sup>者<sup>ノ</sup>勿<sup>レ</sup>論<sup>ス</sup>之<sup>ノ</sup>事<sup>ニ</sup>候。其<sup>ノ</sup>外<sup>ニ</sup> <sup>ハ</sup>者<sup>ノ</sup>隣<sup>ノ</sup>交<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>義<sup>ニ</sup>二<sup>ニ</sup>付<sup>テ</sup>通<sup>ノ</sup>詞<sup>ノ</sup>より切<sup>ニ</sup>要<sup>ニ</sup>成<sup>ル</sup>役<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>者<sup>ノ</sup>無<sup>キ</sup>之<sup>ノ</sup>候。人<sup>ノ</sup>寄<sup>リ</sup>候<sup>ニ</sup>而<sup>シテ</sup>者<sup>ノ</sup>言<sup>ハ</sup>語<sup>ヲ</sup>さ<sup>キ</sup>能<sup>ク</sup>通<sup>ス</sup>候<sup>ニ</sup>へハ相<sup>ノ</sup>濟<sup>ニ</sup>登<sup>ル</sup>存<sup>ス</sup>候<sup>ニ</sup>へとも、聯<sup>テ</sup>以<sup>テ</sup>左<sup>ノ</sup>様<sup>ニ</sup>而<sup>シテ</sup>者<sup>ノ</sup>無<sup>キ</sup>之<sup>ノ</sup>候。人<sup>ノ</sup>柄<sup>モ</sup>宜<sup>ク</sup>才<sup>ノ</sup>角<sup>ノ</sup>有<sup>ル</sup>之<sup>ノ</sup>義<sup>ニ</sup>理<sup>ニ</sup>越<sup>ル</sup>弁<sup>ニ</sup>、上<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>事<sup>ヲ</sup>大<sup>ニ</sup>切<sup>ニ</sup>耳<sup>ニ</sup>存<sup>ス</sup>候<sup>ニ</sup>而<sup>シテ</sup>者<sup>ノ</sup>無<sup>キ</sup>之<sup>ノ</sup>候<sup>ニ</sup>而<sup>シテ</sup>者<sup>ノ</sup>誠<sup>ニ</sup>之<sup>ノ</sup>御<sup>ノ</sup>用<sup>ニ</sup>立<sup>テ</sup>候。通<sup>ノ</sup>詞<sup>ノ</sup>登<sup>ル</sup>者<sup>ノ</sup>難<sup>ク</sup>申<sup>ス</sup>、必<sup>ズ</sup>定<sup>ム</sup>害<sup>ニ</sup>者<sup>ノ</sup>成<sup>ル</sup>候<sup>ニ</sup>登<sup>ル</sup>も利<sup>ニ</sup>益<sup>ニ</sup>有<sup>ル</sup>之<sup>ノ</sup>間<sup>ニ</sup>敷<sup>ク</sup>候<sup>ニ</sup>故<sup>ニ</sup>、随<sup>テ</sup>分<sup>テ</sup>其<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>御<sup>ノ</sup>撰<sup>ニ</sup>被<sup>レ</sup>成<sup>ル</sup>候<sup>ニ</sup>義<sup>ニ</sup>肝<sup>ニ</sup>要<sup>ニ</sup>之<sup>ノ</sup>御

事<sup>ニ</sup> にて且又今之通御宛行程々候而ハ、畢竟御為ニ不能成事 候。右<sup>ノ</sup>通<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>義<sup>ニ</sup>至<sup>リ</sup>而<sup>シテ</sup>切<sup>ニ</sup>要<sup>ニ</sup>奈<sup>レ</sup>留<sup>ル</sup>役<sup>ノ</sup>人<sup>ニ</sup>候<sup>ニ</sup>と申<sup>ス</sup>一<sup>ニ</sup>者<sup>ノ</sup>難<sup>ク</sup>申<sup>ス</sup>尽<sup>ル</sup>候。

(十二) 通<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>取<sup>テ</sup>次<sup>ニ</sup>致<sup>ス</sup>之<sup>ノ</sup>節<sup>ニ</sup> 詔<sup>ノ</sup>官<sup>ノ</sup>共<sup>ニ</sup>登<sup>ル</sup>中<sup>ノ</sup>間<sup>ニ</sup>而<sup>シテ</sup>申<sup>ス</sup>合<sup>ス</sup>候<sup>ニ</sup>事<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>二<sup>ニ</sup>より何<sup>ノ</sup>事<sup>ヲ</sup>申<sup>ス</sup>候<sup>ニ</sup>や、此<sup>ノ</sup>方<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>申<sup>ス</sup>越<sup>ル</sup>直<sup>ニ</sup>爾<sup>ノ</sup>彼<sup>ノ</sup>方<sup>ニ</sup>達<sup>ス</sup>し彼<sup>ノ</sup>方<sup>ノ</sup>申<sup>ス</sup>越<sup>ル</sup>直<sup>ニ</sup>此<sup>ノ</sup>方<sup>ニ</sup>へ申<sup>ス</sup>候<sup>ニ</sup>得<sup>ル</sup>者<sup>ノ</sup>相<sup>ノ</sup>濟<sup>ニ</sup>候<sup>ニ</sup>處<sup>ニ</sup>仕<sup>テ</sup>形<sup>ノ</sup>難<sup>ク</sup>心<sup>ノ</sup>得<sup>ル</sup>登<sup>ル</sup>不<sup>レ</sup>審<sup>ク</sup>越<sup>ル</sup>立<sup>テ</sup>候<sup>ニ</sup>人<sup>ノ</sup>有<sup>ル</sup>之<sup>ノ</sup>候。是<sup>ノ</sup>者<sup>ノ</sup>通<sup>ノ</sup>詞<sup>ノ</sup>とも中<sup>ノ</sup>間<sup>ニ</sup>申<sup>ス</sup>合<sup>ス</sup>候<sup>ニ</sup>勿<sup>レ</sup>論<sup>ス</sup>不<sup>レ</sup>宜<sup>キ</sup>事<sup>ニ</sup>茂<sup>ク</sup>有<sup>ル</sup>之<sup>ノ</sup>候<sup>ニ</sup>得<sup>ル</sup>共<sup>ニ</sup>事<sup>ニ</sup>二<sup>ニ</sup>寄<sup>リ</sup>より甚<sup>ニ</sup>宜<sup>キ</sup>事<sup>ノ</sup>も有<sup>ル</sup>之<sup>ノ</sup>候<sup>ニ</sup>由<sup>リ</sup>へ一<sup>ニ</sup>概<sup>ニ</sup>疑<sup>ハ</sup>可<sup>ク</sup>申<sup>ス</sup>候<sup>ニ</sup>無<sup>キ</sup>之<sup>ノ</sup>候。ケ<sup>レ</sup>様<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>義<sup>ニ</sup>人<sup>ノ</sup>情<sup>ノ</sup>時<sup>ノ</sup>勢<sup>ニ</sup>心<sup>ノ</sup>越<sup>ル</sup>申<sup>ス</sup>候<sup>ニ</sup>人<sup>ノ</sup>者<sup>ノ</sup>自<sup>ラ</sup>然<sup>ニ</sup>相<sup>ノ</sup>知<sup>ル</sup>申<sup>ス</sup>候。既<sup>ニ</sup>耳<sup>ニ</sup>正<sup>ニ</sup>徳<sup>ノ</sup>信<sup>ノ</sup>使<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>時<sup>ニ</sup> 何<sup>ノ</sup>日<sup>ニ</sup>御<sup>ノ</sup>首<sup>ノ</sup>途<sup>ニ</sup>被<sup>レ</sup>成<sup>ル</sup>候<sup>ニ</sup>と被<sup>レ</sup>仰<sup>ル</sup>候<sup>ニ</sup>遣<sup>ル</sup>候<sup>ニ</sup>三<sup>ニ</sup>使<sup>ノ</sup>者<sup>ノ</sup>其<sup>ノ</sup>日<sup>ニ</sup>御<sup>ノ</sup>出<sup>ル</sup>船<sup>ニ</sup>被<sup>レ</sup>成<sup>ル</sup>候<sup>ニ</sup>事<sup>ノ</sup>と心<sup>ノ</sup>得<sup>ル</sup>弥<sup>モ</sup>出<sup>ル</sup>船<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>覚<sup>レ</sup>悟<sup>ル</sup>相<sup>ノ</sup>聞<sup>ル</sup>候<sup>ニ</sup>へ 其<sup>ノ</sup>日<sup>ニ</sup>御<sup>ノ</sup>首<sup>ノ</sup>途<sup>ニ</sup>被<sup>レ</sup>成<sup>ル</sup>而<sup>シテ</sup>出<sup>ル</sup>舟<sup>者</sup>今<sup>ニ</sup>暫<sup>ク</sup>間<sup>ニ</sup>有<sup>ル</sup>之<sup>ノ</sup>旨<sup>ニ</sup>被<sup>レ</sup>仰<sup>ル</sup>遣<sup>ル</sup>候<sup>ニ</sup>者<sup>ノ</sup>、却<sup>テ</sup>而<sup>シテ</sup>被<sup>レ</sup>仰<sup>ル</sup>之<sup>ノ</sup>様<sup>ニ</sup>被<sup>レ</sup>存<sup>ス</sup>是<sup>レ</sup>非<sup>ニ</sup>出<sup>ル</sup>船<sup>ノ</sup>可<sup>ク</sup>致<sup>ス</sup>登<sup>ル</sup>之<sup>ノ</sup>事<sup>ニ</sup>而<sup>シテ</sup>、裁<sup>ノ</sup>判<sup>ノ</sup>通<sup>ノ</sup>詞<sup>ノ</sup>を以<sup>テ</sup>被<sup>レ</sup>仰<sup>ル</sup>論<sup>ス</sup>候<sup>ニ</sup>而<sup>シテ</sup>も承<sup>レ</sup>引<sup>ク</sup>無<sup>キ</sup>之<sup>ノ</sup>前<sup>ニ</sup>日<sup>ニ</sup>成<sup>リ</sup>御<sup>ノ</sup>用<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>被<sup>レ</sup>遣<sup>ル</sup>候<sup>ニ</sup>而<sup>シテ</sup>も快<sup>ク</sup>返<sup>答</sup>無<sup>キ</sup>之<sup>ノ</sup>晚<sup>景</sup>成<sup>リ</sup>上<sup>ニ</sup>々<sup>々</sup>官<sup>ノ</sup>を以<sup>テ</sup>御<sup>ノ</sup>屋<sup>ノ</sup>處<sup>ニ</sup>へ出<sup>ル</sup>船<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>義<sup>ニ</sup>被<sup>レ</sup>申<sup>ス</sup>上<sup>ニ</sup>。仁<sup>ノ</sup>位<sup>ノ</sup>孫<sup>ノ</sup>右<sup>ノ</sup>衛<sup>ノ</sup>門<sup>ノ</sup>取<sup>テ</sup>次<sup>ニ</sup>而<sup>シテ</sup>、何<sup>ノ</sup>登<sup>ル</sup>そ明<sup>ニ</sup>日<sup>ニ</sup>出<sup>ル</sup>船<sup>ノ</sup>支<sup>テ</sup>度<sup>ニ</sup>存<sup>ス</sup>登<sup>ル</sup>懇<sup>ニ</sup>望<sup>ニ</sup>向<sup>テ</sup>之<sup>ノ</sup>口<sup>ニ</sup>上<sup>ニ</sup>相<sup>ノ</sup>聞<sup>ル</sup>候<sup>ニ</sup>へ、東<sup>ノ</sup>五<sup>ノ</sup>郎<sup>ノ</sup>申<sup>ス</sup>候<sup>ニ</sup>者<sup>ノ</sup>、以<sup>テ</sup>前<sup>ノ</sup>より之<sup>ノ</sup>信<sup>ノ</sup>使<sup>ノ</sup>諸<sup>ノ</sup>事<sup>ノ</sup>殿<sup>ノ</sup>様<sup>ニ</sup>御<sup>ノ</sup>任<sup>ニ</sup>被<sup>レ</sup>申<sup>ス</sup>候<sup>ニ</sup>様<sup>ノ</sup>子<sup>ノ</sup>無<sup>キ</sup>之<sup>ノ</sup>。此<sup>ノ</sup>度<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>信<sup>ノ</sup>使<sup>ノ</sup>も先<sup>ニ</sup>頃<sup>ニ</sup>朝<sup>ノ</sup>鮮<sup>ノ</sup>出<sup>ル</sup>船<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>砌<sup>ニ</sup> 護<sup>レ</sup>行<sup>ク</sup>之<sup>ノ</sup>使<sup>者</sup>構<sup>ム</sup>無<sup>キ</sup>之<sup>ノ</sup>。殊<sup>ニ</sup>信<sup>ノ</sup>使<sup>ノ</sup>屋<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>様<sup>ノ</sup>子<sup>ノ</sup>見<sup>ル</sup>申<sup>ス</sup>候<sup>ニ</sup>所<sup>ニ</sup> 今<sup>ニ</sup>早<sup>ク</sup>より段<sup>々</sup>鍋<sup>釜</sup>迄<sup>ニ</sup>船<sup>ニ</sup>乗<sup>セ</sup>候<sup>ニ</sup>体<sup>ニ</sup>候<sup>ニ</sup>得<sup>ル</sup>者<sup>ノ</sup>、只<sup>ニ</sup>今<sup>ニ</sup>之<sup>ノ</sup>口<sup>ニ</sup>上<sup>ニ</sup>中<sup>々</sup>懇<sup>ニ</sup>望<sup>ニ</sup>向<sup>テ</sup>之<sup>ノ</sup>口<sup>ニ</sup>上<sup>ニ</sup>而<sup>シテ</sup>無<sup>キ</sup>之<sup>ノ</sup>。是<sup>レ</sup>非<sup>ニ</sup>明<sup>ニ</sup>日<sup>ニ</sup>致<sup>ス</sup>出<sup>ル</sup>船<sup>ノ</sup>候<sup>ニ</sup>間<sup>ニ</sup>左<sup>ノ</sup>様<sup>ニ</sup>御<sup>ノ</sup>心<sup>ノ</sup>得<sup>ル</sup>被<sup>レ</sup>成<sup>ル</sup>候<sup>ニ</sup>様<sup>ノ</sup>登<sup>ル</sup>之<sup>ノ</sup>口<sup>ニ</sup>上<sup>ニ</sup>而<sup>シテ</sup>可<sup>ク</sup>有<sup>ル</sup>之<sup>ノ</sup>候。此<sup>ノ</sup>方<sup>ノ</sup>様<sup>ノ</sup>者<sup>ノ</sup>懇<sup>ニ</sup>望<sup>ニ</sup>之<sup>ノ</sup>口<sup>ニ</sup>上<sup>ニ</sup>之<sup>ノ</sup>様<sup>ニ</sup>被<sup>レ</sup>思<sup>ハ</sup>召<sup>ス</sup>、容<sup>易</sup>御<sup>ノ</sup>返<sup>答</sup>被<sup>レ</sup>成<sup>ル</sup> 明<sup>ニ</sup>日<sup>ニ</sup>至<sup>リ</sup>直<sup>ニ</sup>出<sup>ル</sup>船<sup>ニ</sup>被<sup>レ</sup>致<sup>ス</sup>候<sup>ニ</sup>様<sup>ノ</sup>有<sup>ル</sup>之<sup>ノ</sup>候<sup>ニ</sup>而<sup>シテ</sup>者<sup>ノ</sup> 御<sup>ノ</sup>外<sup>ノ</sup>間<sup>ニ</sup>殘<sup>ル</sup>處<sup>ニ</sup>無<sup>キ</sup>之<sup>ノ</sup>事<sup>ニ</sup>候<sup>ニ</sup>間<sup>ニ</sup>、通<sup>ノ</sup>詞<sup>ノ</sup>を御<sup>ノ</sup>呼<sup>レ</sup>被<sup>レ</sup>成<sup>ル</sup>三<sup>ニ</sup>使<sup>ノ</sup>片<sup>ニ</sup>之<sup>ノ</sup>口<sup>ニ</sup>上<sup>ニ</sup>ま<sup>ニ</sup>川<sup>ノ</sup>す<sup>ク</sup>申<sup>ス</sup>上<sup>ニ</sup>候<sup>ニ</sup>様<sup>ニ</sup>被<sup>レ</sup>仰<sup>ル</sup>付<sup>可</sup>然<sup>レ</sup>申<sup>ス</sup>、山<sup>ノ</sup>城<sup>ノ</sup>弥<sup>モ</sup>左<sup>ノ</sup>衛<sup>ノ</sup>門<sup>ノ</sup>御<sup>ノ</sup>呼<sup>レ</sup>候<sup>ニ</sup>付<sup>、</sup>東<sup>ノ</sup>五<sup>ノ</sup>郎<sup>ノ</sup>弥<sup>モ</sup>左<sup>ノ</sup>衛<sup>ノ</sup>門<sup>ノ</sup>申<sup>ス</sup>候<sup>ニ</sup>者<sup>ノ</sup>、皆<sup>レ</sup>違<sup>ル</sup>事<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>敗<sup>レ</sup>成<sup>ル</sup>不<sup>レ</sup>申<sup>ス</sup>候<sup>ニ</sup>様<sup>ノ</sup>と大<sup>ニ</sup>切<sup>ニ</sup>被<sup>レ</sup>存<sup>ス</sup>取<sup>テ</sup>繕<sup>ル</sup>連<sup>ル</sup>候<sup>ニ</sup>段<sup>、</sup>成<sup>レ</sup>程<sup>ニ</sup>左<sup>ノ</sup>様<sup>ノ</sup>可<sup>ク</sup>有<sup>ル</sup>之<sup>ノ</sup>事<sup>ニ</sup>候<sup>ニ</sup>得<sup>ル</sup>とも、今<sup>ニ</sup>日<sup>ニ</sup>之<sup>ノ</sup>義<sup>ハ</sup>大<sup>ニ</sup>切<sup>ニ</sup>之<sup>ノ</sup>事<sup>ニ</sup>候<sup>ニ</sup>間<sup>ニ</sup> 上<sup>ニ</sup>々<sup>々</sup>官<sup>ノ</sup>共<sup>ニ</sup>申<sup>ス</sup>候<sup>ニ</sup>口<sup>ニ</sup>上<sup>ニ</sup>趣<sup>マ</sup>川<sup>ノ</sup>す<sup>ク</sup>爾<sup>ノ</sup>無<sup>キ</sup>遠<sup>ク</sup>慮<sup>テ</sup>被<sup>レ</sup>申<sup>ス</sup>上<sup>ニ</sup>可<sup>ク</sup>然<sup>レ</sup>候<sup>ニ</sup>と申<sup>ス</sup>候<sup>ニ</sup>得<sup>ル</sup>者<sup>ノ</sup>、左<sup>ノ</sup>候<sup>ハ</sup>上<sup>ニ</sup>々<sup>々</sup>官<sup>ノ</sup>申<sup>ス</sup>候<sup>ニ</sup>三<sup>ニ</sup>使<sup>ノ</sup>より

『交隣提醒』について—その5 (呉)

之口上、順も宜敷可然候旨船持共申候付、明日弥致出船候間 殿様者跡より御仕立舞被成次●御出船可被成と之趣御座候登申候故、夫より驚入らせら連 御家中一統夜之内爾長壽院相詰、翌早三使 出館被致候ハ、指留候様二登御被仰付堂留事二候。ケ様之儀者 通詞之申分聞候而も了簡越可加事候。右之外送使僉官朝鮮之事不案内之上より當らさ類事越訳官へ被申候時、中間而宜取汲ひ、また者訳官とも申分より送使僉官より早速返答難成可有之と存候事者訳官方越おさへ置 相應送使僉官申候而當座繕候事も有之候。ケ様之義付候而も兎角通詞之儀者切要の役人候。

(十三) 日本と朝鮮登者 諸事風儀違ひ●好も夫應し違ひ候ゆへ、左様之處勘弁無之日本之風義以朝鮮人交候事者 事より喰違候事多ク有之候。右何日首途被仰遣候事も日本爾者首途と乗船との違ひ有之候得とも朝鮮爾者首途登申事可有之様茂無之。殊首途と三ち越者しむ類登書たる文字候得者、文字之上而も乗船之事登相見候所より右之食違ひ出来多流候。是故享保信使之節爾天御出船之日限を兼而被仰入、首途儀者不被仰入候。此外も日本も日本而宜キ登存候事越朝鮮人不宜登相心得、日本而不宜と存候事 朝鮮人者宜 登存候事 限も無之事候ゆへ、朝鮮幹事之人者ケ様之處心用可申事候。朝鮮警専中華を学候風儀而候故書物之上而得度唐之風儀致合点候得者、十二八九ツ迄者朝鮮之風義も推手知レ申事候。兎角学問無之候而者此義も難成事候。日本而天者歴々の輿夫寒氣も尻越満具り、鎗持鉄箱持ハ假鬚塗り足拍子越取り候ハ而、定而朝鮮人之心爾里川者奈留登存可申可登思候へ者、朝鮮人之心爾盤尻越満具り候越無禮登見、假鬚を塗り候盤形奈流事登存、足拍子越取り候ハ労役を招キ候不調法成事登内々而笑候より外無之。又朝鮮之心爾者其身とも喪越務泣哭致し候体、日本人見申候而者感し可申と存候得者、けくは嘲り候様有之候。此類而日本朝鮮志尚之ある所越察し可申事候。此已然國王之庭者何越種へ被置候哉登尋候人有之。朴僉知返答麦越種へ被置登申候得者 扱下國候登手打笑ひ堂留人有之候。定而草花の類少二而も不被種置候事者有之間鋪候得共、國王之御身爾も稼穡越御忘無之登申候て古來人之君之美徳以堂し事ゆへ、定而日本人感し可存候与、右之古登く答候處 却而日本乃嘲り越受申候。諸事此心得

可有之事<sub>レ</sub>候。

(十四) 日本朝嗜好風儀<sup>義之</sup>違<sup>①</sup>候所<sub>二</sub>日本之嗜好風義<sub>ヲ</sub>以朝鮮人之事越察し侯而者<sub>ハ</sub>簡違<sub>ニ</sub>爾奈<sub>リ</sub>可申候。不調法<sub>レ</sub>成人盤<sub>ル</sub> 江戸向之公儀合<sub>キ</sub>以朝鮮を取捌<sub>キ</sub>可申者存候人も有之。是者猶々笑止奈流事<sub>ニ</sub>。五日次雜物奈登<sub>ニ</sub>請取俟爾日本向之如く味すくは津<sub>ニ</sub>爾天盤<sup>②</sup>参<sup>③</sup>申さぬ事<sub>ニ</sub>候登、利徳<sub>ノ</sub>之方<sub>ニ</sub>者成程其心得人々有之事候得共、禮義作法之事<sub>ニ</sub>成侯而者 毎度日本之風義<sub>ヲ</sub>以朝鮮之事越處置致し可申与存候故、折々了簡違有之事<sub>ニ</sub>候。其外朝鮮人之み堂<sub>リ</sub>言葉<sub>ニ</sub>阿らハし不申候越見申候而、朝鮮人者<sub>ハ</sub>於路<sub>ニ</sub>奈留物登<sub>ニ</sub>心得、朝鮮人之長袖爾天立廻<sub>リ</sub>候越見申候而朝鮮人盤<sub>ル</sub>の紀もの登<sub>ニ</sub>心得、訳官共ハ中<sub>ニ</sub>立候役人爾<sub>ニ</sub>而候故、毎度双方取繕候處より虚言越申候越見申候而(省)、朝鮮人盤<sub>ル</sub>うそ越津紀中国登<sub>ニ</sub>心得候類 以州連<sub>モ</sub>不<sub>レ</sub>了簡堂留<sub>ニ</sub>遍<sub>ク</sub>候。朝鮮人猥<sub>リ</sub>爾言<sub>ニ</sub>(越阿らハし不申候<sub>ハ</sub>、前後越<sub>レ</sub>ふ満<sub>ニ</sub>へ堂留智慮<sub>ノ</sub>之深<sup>④</sup>耳天 愚奈登<sub>ニ</sub>盤<sub>ニ</sub>見中間敷候。其上古今之書傳爾も通し居申候故、下々登<sub>ニ</sub>天も智慮<sub>ノ</sub>乃深淺中々日本人之及申事<sub>ニ</sub>而者無之候。長袖<sub>ニ</sub>而立廻<sub>リ</sub>日本人之古<sub>ニ</sub>きりめきたる様<sub>ニ</sub>ハ見へ不申候へとも何事そ登<sub>ニ</sub>申候得者 仕形存之外<sub>ニ</sub>留登奈留事<sub>ニ</sub>候。此以前歴々之内早舟<sub>ニ</sub>乗り押<sub>レ</sub>而多太浦<sub>ニ</sub>被<sub>レ</sub>参候越一夜之内く<sub>レ</sub>さを以、船を中爾詰<sub>リ</sub>あげ殊<sup>⑤</sup>外、難義被<sub>レ</sub>致候事も有之。其外信使之時、見申<sub>ニ</sub>候<sub>ニ</sub>喇<sub>レ</sub>叭<sub>レ</sub>一吹爾天<sub>ニ</sub>発足の觸<sub>ニ</sub>を聞<sub>ニ</sub>二吹爾天<sub>ニ</sub>揃、三吹<sub>ニ</sub>而<sub>ニ</sub>出行被<sub>レ</sub>致候<sub>ニ</sub>一人後<sub>レ</sub>候もの無之。船乃乘<sub>レ</sub>下<sub>リ</sub>とても同然<sub>ニ</sub>候故、七川立<sup>⑥</sup>六川立<sub>チ</sub>登<sub>ニ</sub>候得者彼方<sub>ニ</sub>者春古<sub>シ</sub>も遅<sub>リ</sub>候事無之候。日本人者髮越<sub>レ</sub>結び手洗をし股引脚絆越<sub>レ</sub>し刀脇差をさし印籠巾着越<sub>レ</sub>さ<sub>キ</sub>可申と致<sub>ニ</sub>候内<sub>ニ</sub>七ツ立者六ツ<sup>⑦</sup>成<sub>リ</sub>六ツ立者五ツ<sup>⑧</sup>成<sub>リ</sub>候故、初者朝鮮人之方埒明<sub>ニ</sub>兼<sub>ニ</sub>可申候と、刻限<sub>ノ</sub>別<sub>ニ</sub>廣爾被<sub>レ</sub>仰<sub>ニ</sub>候方<sub>ニ</sub>可<sub>レ</sub>然<sub>ニ</sub>を有<sub>ニ</sub>候得共、其後<sub>ニ</sub>者三使<sub>ノ</sub>之方<sub>ニ</sub>待<sub>ニ</sub>可<sub>レ</sub>子<sub>ラ</sub>連<sub>ニ</sub>候様子<sub>ニ</sub>有<sub>ニ</sub>候<sub>ニ</sub>付、刻限<sub>ニ</sub>を有<sub>ニ</sub>体<sub>ニ</sub>被<sub>レ</sub>仰<sub>ニ</sub>候様<sub>ニ</sub>成<sub>リ</sub>候事 人々能<sub>ニ</sub>存<sub>ニ</sub>居<sub>ニ</sub>候事<sub>ニ</sub>候。訳官共者中<sub>ニ</sub>立<sub>ニ</sub>候もの<sub>ニ</sub>候ゆ<sub>ニ</sub>折々間違<sub>ニ</sub>奈留<sub>ニ</sub>越<sub>ニ</sub>申<sub>ニ</sub>候も是<sub>ニ</sub>また自然<sub>ノ</sub>之勢<sub>ニ</sub>候。日本登<sub>ニ</sub>天も中<sub>ニ</sub>立<sub>ニ</sub>候而事越<sub>ニ</sub>扱<sub>ニ</sub>候人者自然<sub>ニ</sub>卜<sub>ニ</sub>左様<sub>ニ</sub>有<sub>ニ</sub>之もの<sub>ニ</sub>候。朝鮮國皆々うそ越<sub>ニ</sub>徒<sub>ニ</sub>起<sub>ニ</sub>候様<sub>ニ</sub>有<sub>ニ</sub>之候而<sub>ニ</sub>者其国立<sub>ニ</sub>可<sub>レ</sub>申<sub>ニ</sub>様も無<sub>ニ</sub>之事<sub>ニ</sub>而、うそ徒<sub>ニ</sub>起<sub>ニ</sub>候人も有<sub>ニ</sub>之候<sub>ニ</sub>て末世<sub>ニ</sub>乃<sub>ニ</sub>習<sup>⑨</sup><sup>⑩</sup>而、以<sub>ニ</sub>川連<sub>ニ</sub>乃<sub>ニ</sub>國爾も免<sub>ニ</sub>可<sub>レ</sub>た<sub>ニ</sub>紀<sub>ニ</sub>惡<sub>ニ</sub>俗<sub>ニ</sub>候得共、拳國<sub>ニ</sub>皆<sub>ニ</sub>うそ<sub>ニ</sub>つ<sub>ニ</sub>起<sub>ニ</sub>可<sub>レ</sub>申<sub>ニ</sub>様者無<sub>ニ</sub>之事<sub>ニ</sub>候ゆ<sub>ニ</sub>へ勘弁<sub>ニ</sub>可有<sub>ニ</sub>之事<sub>ニ</sub>候。此<sub>ニ</sub>前銘<sub>ノ</sub>々之國風<sub>ニ</sub>宜<sub>ニ</sub>し紀<sub>ニ</sub>登<sub>ニ</sub>存<sub>ニ</sub>候者 華夷<sub>ニ</sub>目前<sub>ノ</sub>之<sub>ニ</sub>事<sub>ニ</sub>候得とも朝鮮人者日本人登<sub>ニ</sub>言葉<sub>ノ</sub>之上<sub>ニ</sub>而相争<sub>ニ</sub>(<sup>⑪</sup><sup>⑫</sup>)不<sub>レ</sub>申<sub>ニ</sub>様<sub>ニ</sub>致<sub>ニ</sub>し<sub>ニ</sub>候越<sub>ニ</sub>主意<sub>ニ</sub>と(相)立<sub>ニ</sub>居

## 『交隣提醒』について—その5 (呉)

侯<sup>故</sup>ゆへ、毎度其<sup>を</sup>国<sup>を</sup>之事<sup>いたし</sup>越謙遜<sup>所</sup>致<sup>ハ</sup>侯<sup>ハ</sup>處<sup>ハ</sup>、日本<sup>ハ</sup>人<sup>者</sup>却<sup>レ</sup>而<sup>ハ</sup>我國<sup>ノ</sup>之事<sup>キ</sup>常<sup>ニ</sup>自<sup>レ</sup>慢<sup>ノ</sup>のミ  
 以<sup>レ</sup>堂<sup>シ</sup>、酒<sup>ノ</sup>之一<sup>テ</sup>事<sup>テ</sup>而<sup>モ</sup>日本<sup>ノ</sup>之<sup>ハ</sup>酒<sup>者</sup>三<sup>ハ</sup>國<sup>一</sup>、侯<sup>故</sup>得<sup>ハ</sup>皆<sup>達</sup>も左<sup>ニ</sup>よ<sup>ル</sup>爾<sup>レ</sup>可<sup>レ</sup>被<sup>レ</sup>存<sup>ト</sup>  
 本<sup>故</sup>古<sup>レ</sup>り得<sup>ル</sup>者、朝鮮<sup>人</sup>之<sup>ハ</sup>返<sup>答</sup>、成<sup>程</sup>左<sup>様</sup>存<sup>候</sup>と申<sup>候</sup>得<sup>ル</sup>者弥<sup>共</sup>其<sup>通</sup>①之事<sup>登</sup>相<sup>心</sup>得<sup>ル</sup>  
 了<sup>簡</sup>も無<sup>レ</sup>之<sup>人</sup>、侯<sup>と</sup>内心<sup>ハ</sup>爾<sup>盤</sup>噀<sup>り</sup>候<sup>所</sup>、心<sup>付</sup>無<sup>レ</sup>之<sup>侯</sup>。日本<sup>ノ</sup>之<sup>ハ</sup>酒<sup>を</sup>三<sup>ハ</sup>國<sup>一</sup>、侯<sup>と</sup>  
 朝鮮<sup>人</sup>存<sup>候</sup>事<sup>、</sup>侯<sup>ハ</sup>、皆<sup>とも</sup>聚<sup>會</sup>之<sup>節</sup>日本<sup>酒</sup>古<sup>そ</sup>才<sup>覚</sup>以<sup>レ</sup>堂<sup>シ</sup>絶<sup>可</sup>申<sup>處</sup>左<sup>無</sup>  
 之<sup>侯</sup>ハ日本<sup>人</sup>之<sup>ハ</sup>口<sup>合</sup>二<sup>者</sup>日本<sup>酒</sup>宜<sup>敷</sup>、朝鮮<sup>人</sup>口<sup>合</sup>者<sup>朝鮮</sup>酒<sup>宜</sup>し具<sup>唐</sup>人<sup>ノ</sup>口<sup>合</sup>  
 二<sup>者</sup>唐<sup>酒</sup>よ路<sup>し</sup>具<sup>、</sup>紅<sup>毛</sup>夷<sup>乃</sup>口<sup>合</sup>、ハ阿<sup>刺</sup>吉<sup>珍</sup>院<sup>宜</sup>、侯<sup>段</sup>、自然<sup>之</sup>道<sup>理</sup>爾<sup>天</sup>侯。  
 此<sup>以</sup>己<sup>前</sup>、訊<sup>官</sup>共<sup>參</sup>會<sup>之</sup>節<sup>あり</sup>体<sup>越</sup>申<sup>様</sup>、登<sup>相</sup>尋<sup>候</sup>所<sup>、</sup>我<sup>々</sup>者<sup>絶</sup>津<sup>希</sup>居<sup>申</sup>候<sup>ゆ</sup>へ  
 よろしく②存<sup>候</sup>登<sup>申</sup>も有<sup>之</sup>。又<sup>日本</sup>酒<sup>宜</sup>、侯<sup>得</sup>共<sup>胸</sup>津<sup>か</sup>へ、多<sup>ク</sup>遍<sup>候</sup>二<sup>者</sup>  
 朝鮮<sup>酒</sup>宜<sup>候</sup>と申<sup>も</sup>有<sup>之</sup>③。御<sup>國</sup>上<sup>戸</sup>登<sup>申</sup>内<sup>、</sup>京<sup>酒</sup>を好<sup>シ</sup>不<sup>申</sup>却<sup>而</sup>御<sup>國</sup>  
 薄<sup>濁</sup>りを好<sup>ミ</sup>侯<sup>。同</sup>然<sup>之</sup>心<sup>持</sup>二<sup>侯</sup>。左<sup>侯</sup>得<sup>者</sup>此<sup>方</sup>、宜<sup>存</sup>候<sup>と</sup>て彼<sup>國</sup>も宜<sup>敷</sup>  
 存<sup>シ</sup>、而<sup>可</sup>有<sup>之</sup>心<sup>得</sup>可<sup>申</sup>事<sup>、</sup>而<sup>無</sup>之<sup>侯</sup>。是<sup>者</sup>微<sup>事</sup>、而<sup>何</sup>之<sup>用</sup>、立<sup>申</sup>さぬ事<sup>、</sup>侯<sup>得</sup>  
 とも、ケ<sup>様</sup>之<sup>事</sup>、付<sup>日本</sup>朝鮮<sup>嗜</sup>好<sup>風</sup>儀<sup>之</sup>不<sup>同</sup>之<sup>事</sup>越<sup>察</sup>侯<sup>一</sup>筋<sup>与</sup>存<sup>書</sup>付<sup>置</sup>申<sup>候</sup>。  
 且<sup>又</sup>日本<sup>、</sup>提<sup>灯</sup>蠟<sup>燭</sup>有<sup>之</sup>。夜<sup>行</sup>、者<sup>是</sup>より外<sup>、</sup>便<sup>利</sup>奈<sup>留</sup>事<sup>無</sup>之<sup>侯</sup>を朝鮮<sup>とも</sup>館  
 内<sup>之</sup>提<sup>灯</sup>を借<sup>リ</sup>侯<sup>事</sup>ハ致<sup>し</sup>侯<sup>へ</sup>ハ某<sup>國</sup>二<sup>而</sup>拵<sup>候</sup>事<sup>ハ</sup>無<sup>之</sup>之<sup>侯</sup>を、見<sup>申</sup>候<sup>天</sup>、分  
 明<sup>爾</sup>宜<sup>しく</sup>与<sup>存</sup>候<sup>事</sup>越<sup>学</sup>④不<sup>申</sup>候<sup>者</sup>鈍<sup>キ</sup>風<sup>義</sup>、侯<sup>与</sup>存<sup>候</sup>事<sup>有</sup>之<sup>侯</sup>。朝鮮<sup>之</sup>船<sup>之</sup>  
 古<sup>登</sup>く日本<sup>船</sup>を拵<sup>候</sup>天<sup>汎</sup>櫃<sup>乃</sup>費<sup>も</sup>無<sup>之</sup>。帆<sup>ノ</sup>取<sup>り</sup>さ<sup>者</sup>紀<sup>も</sup>心<sup>や</sup>易<sup>く</sup>船<sup>ノ</sup>上<sup>も</sup>  
 穩<sup>、</sup>開<sup>キ</sup>走<sup>り</sup>も快<sup>く</sup>可<sup>致</sup>事<sup>二</sup>侯<sup>得</sup>共<sup>、</sup>曾<sup>天</sup>学<sup>⑤</sup>可<sup>申</sup>与<sup>致</sup>し侯<sup>人</sup>も無<sup>之</sup>。新<sup>羅</sup>  
 船<sup>宜</sup>、侯<sup>付</sup>是<sup>越</sup>借<sup>り</sup>米<sup>越</sup>者<sup>古</sup>者<sup>せ</sup>ら連<sup>候</sup>与<sup>申</sup>事<sup>三</sup>代<sup>實</sup>録<sup>相</sup>見<sup>候</sup>⑥。異<sup>國</sup>乃<sup>船</sup>  
 越<sup>借</sup>り我<sup>國</sup>之<sup>ハ</sup>米<sup>越</sup>運<sup>ひ</sup>た類<sup>登</sup>申<sup>事</sup>お可<sup>し</sup>紀<sup>事</sup>二<sup>侯</sup>へとも、豪<sup>傑</sup>明<sup>智</sup>之<sup>人</sup>、而<sup>無</sup>  
 之<sup>侯</sup>得<sup>者</sup>、其<sup>國</sup>乃<sup>故</sup>習<sup>越</sup>變<sup>し</sup>候<sup>事</sup>与<sup>古</sup>今<sup>とも</sup>難<sup>成</sup>事<sup>と</sup>相<sup>見</sup>候<sup>故</sup>、彼<sup>國</sup>者<sup>可</sup>  
 可<sup>申</sup>事<sup>、</sup>而<sup>無</sup>之<sup>侯</sup>。其<sup>内</sup>提<sup>灯</sup>之<sup>ハ</sup>有<sup>無</sup>者<sup>輕</sup>、事<sup>、</sup>而<sup>船</sup>盤<sup>生</sup>命<sup>之</sup>安<sup>危</sup>、預<sup>候</sup>物<sup>ノ</sup>、侯<sup>へ</sup>  
 へハ、他<sup>國</sup>登<sup>よ</sup>紀<sup>事</sup>を学<sup>び</sup>不<sup>申</sup>儀<sup>鈍</sup>キニ<sup>極</sup>り侯<sup>ハ</sup>、同<sup>、</sup>鈍<sup>キ</sup>内<sup>、</sup>も日本<sup>者</sup>別  
 し天<sup>大</sup>奈<sup>留</sup>鈍<sup>キ</sup>耳<sup>而</sup>可<sup>有</sup>之<sup>侯</sup>。御<sup>國</sup>之<sup>ハ</sup>義<sup>者</sup>他<sup>國</sup>登<sup>違</sup>⑦申<sup>候</sup>ゆへ日本<sup>船</sup>朝鮮<sup>船</sup>  
 作<sup>り</sup>様<sup>之</sup>違<sup>、</sup>而<sup>信</sup>使<sup>被</sup>召<sup>連</sup>候<sup>節</sup>指<sup>支</sup>候<sup>事</sup>有<sup>之</sup>侯<sup>、</sup>付<sup>船</sup>之<sup>ハ</sup>形<sup>異</sup>形<sup>成</sup>よ<sup>ル</sup>爾<sup>有</sup>之<sup>侯</sup>  
 而<sup>も</sup>朝鮮<sup>船</sup>之<sup>ハ</sup>心<sup>持</sup>、船<sup>を</sup>造<sup>ら</sup>せ被<sup>成</sup>度<sup>思</sup>召<sup>候</sup>与<sup>公</sup>儀<sup>被</sup>仰<sup>上</sup>候<sup>天</sup>、無<sup>用</sup>仕<sup>候</sup>  
 へとハ被<sup>仰</sup>出<sup>間</sup>敷<sup>候</sup>、五年<sup>も</sup>七年<sup>も</sup>⑧、朝鮮<sup>船</sup>之<sup>ハ</sup>通<sup>リ</sup>爾<sup>小</sup>船<sup>越</sup>造<sup>⑨</sup>せ  
 被<sup>成</sup>試<sup>致</sup>し見<sup>候</sup>様<sup>、</sup>御<sup>船</sup>頭<sup>中</sup>被<sup>仰</sup>付<sup>、</sup>弥<sup>宜</sup>耳<sup>相</sup>極<sup>り</sup>候<sup>時</sup>、公<sup>儀</sup>被<sup>仰</sup>上<sup>御</sup>召<sup>船</sup>  
 船<sup>を</sup>始<sup>、</sup>朝鮮<sup>船</sup>乃<sup>如</sup>く⑩成<sup>候</sup>事<sup>成</sup>申<sup>満</sup>し紀<sup>毛</sup>之<sup>ハ</sup>爾<sup>天</sup>も無<sup>之</sup>之<sup>侯</sup>。上<sup>廻</sup>り之<sup>儀</sup>ハ

『交隣提醒』について—その5 (呉)

早船<sub>ニ</sub>相類<sub>レ</sub>候様<sub>ニ</sub>被<sub>レ</sub>成<sub>レ</sub>候ハハ甚<sub>ニ</sub>異<sub>ニ</sub>形<sub>ニ</sub>奈<sub>レ</sub>留<sub>レ</sub>やふ爾<sub>モ</sub>見<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>間敷<sub>ニ</sub>。朝鮮<sub>ノ</sub>船<sub>ニ</sub>乃<sub>レ</sub>通<sub>レ</sub>り候得<sub>レ</sub>者 乘<sub>レ</sub>能<sub>レ</sub>候止<sub>レ</sub>此<sub>ノ</sub>以前<sub>ノ</sub>後<sub>ノ</sub>船<sub>ノ</sub>頭<sub>ノ</sub>内<sub>ニ</sub>申<sub>レ</sub>(㊦)留<sub>レ</sub>人も有<sub>レ</sub>之。殊<sub>ニ</sub>朝鮮<sub>ノ</sub>船<sub>ノ</sub>者<sub>ハ</sub>各<sub>ノ</sub>別<sub>ノ</sub>體<sub>ニ</sub>候止<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>人、外<sub>ニ</sub>も間<sub>ノ</sub>爾<sub>ノ</sub>者<sub>ハ</sub>有<sub>レ</sub>之<sub>ニ</sub>候<sub>レ</sub>故<sub>ニ</sub>無<sub>レ</sub>用<sub>ノ</sub>之<sub>ニ</sub>事<sub>ニ</sub>奈<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>ら書<sub>レ</sub>付<sub>レ</sub>置<sub>レ</sub>候。併<sub>ニ</sub>五年<sub>モ</sub>七年<sub>モ</sub>御<sub>レ</sub>試<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>之<sub>ニ</sub>たる<sub>ニ</sub>以後<sub>ノ</sub>奈<sub>レ</sub>ら天<sub>ノ</sub>者<sub>ハ</sub>容<sub>レ</sub>易<sub>ニ</sub>御<sub>レ</sub>究<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>成<sub>レ</sub>かた<sub>ノ</sub>紀<sub>ノ</sub>事<sub>ニ</sub>而<sub>レ</sub>、殊<sub>ニ</sub>只<sub>レ</sub>今<sub>ハ</sub>日<sub>本</sub>船<sub>ノ</sub>朝鮮<sub>ノ</sub>船<sub>ノ</sub>其<sub>ノ</sub>形<sub>ニ</sub>甚<sub>ニ</sub>違<sub>レ</sub>(㊧)候<sub>レ</sub>へとも櫓<sub>ノ</sub>を<sub>レ</sub>貳<sub>ツ</sub>立<sub>レ</sub>朝鮮<sub>ノ</sub>船<sub>ノ</sub>類<sub>ノ</sub>候<sub>レ</sub>様<sub>ニ</sub>二<sub>レ</sub>成<sub>レ</sub>候ハ、潜<sub>レ</sub>商<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>防<sub>ニ</sub>は<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>宜<sub>ニ</sub>事<sub>ニ</sub>可<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>之<sub>ニ</sub>候<sub>レ</sub>故<sub>ニ</sub>容<sub>レ</sub>易<sub>ニ</sub>ハ難<sub>レ</sub>成<sub>レ</sub>事<sub>ニ</sub>耳<sub>ニ</sub>御<sub>レ</sub>座<sub>レ</sub>候。

(十五) 信<sub>レ</sub>使<sub>レ</sub>之時<sub>ニ</sub> 公<sub>儀</sub>御<sub>レ</sub>代<sub>レ</sub>官<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>事<sub>ニ</sub>書<sub>レ</sub>付<sub>レ</sub> 朝鮮<sub>ノ</sub>方<sub>ニ</sub>へ遣<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>時<sub>ニ</sub>、韓<sub>僉</sub>知<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>候ハ 代<sub>レ</sub>官<sub>ノ</sub>止<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>之<sub>ニ</sub>候<sub>レ</sub>而<sub>レ</sub>者 甚<sub>ニ</sub>輕<sub>ク</sub>相<sub>レ</sub>間<sub>レ</sub>へ候<sub>レ</sub>間<sub>ニ</sub> 外<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>官<sub>ノ</sub>名<sub>ノ</sub>書<sub>レ</sub>替<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>様<sub>ニ</sub>登<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>候。是<sub>レ</sub>者<sub>ハ</sub>館<sub>ノ</sub>内<sub>ニ</sub>而<sub>レ</sub>代<sub>レ</sub>官<sub>ノ</sub>登<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>者<sub>ハ</sub>輕<sub>キ</sub>役<sub>ノ</sub>人<sub>ニ</sub>候<sub>レ</sub>故<sub>ニ</sub> 如<sub>レ</sub>此<sub>ニ</sub>申<sub>レ</sub>多<sub>ク</sub>留<sub>レ</sub>而<sub>レ</sub>候。夫<sub>レ</sub>故<sub>ニ</sub>御<sub>レ</sub>代<sub>レ</sub>官<sub>ノ</sub>衆<sub>ノ</sub>御<sub>レ</sub>預<sub>レ</sub>り<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>場<sub>ノ</sub>所<sub>ニ</sub>越<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>間<sub>レ</sub>合<sub>レ</sub>、何<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>郡<sub>ノ</sub>守<sub>ノ</sub>登<sub>レ</sub>書<sub>レ</sub>付<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>遣<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>諸<sub>ノ</sub>事<sub>ニ</sub>此<sub>ノ</sub>心<sub>ノ</sub>得<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>之<sub>ニ</sub>事<sub>ニ</sub>候。

(十六) 御<sub>レ</sub>家<sub>ノ</sub>老<sub>ノ</sub>中<sub>ニ</sub> 六<sub>ノ</sub>位<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>官<sub>ノ</sub>服<sub>ノ</sub>被<sub>レ</sub>着<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>事<sub>ニ</sub>正<sub>レ</sub>德<sub>レ</sub>年<sub>ニ</sub>始<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>候。此<sub>ノ</sub>義<sub>ハ</sub>其<sub>ノ</sub>訳<sub>ノ</sub>有<sub>レ</sub>之<sub>ニ</sub>候<sub>レ</sub>而<sub>レ</sub>之<sub>ノ</sub>事<sub>ニ</sub>候<sub>レ</sub>故<sub>ニ</sub>此<sub>ノ</sub>後<sub>ニ</sub>不<sub>レ</sub>相<sub>レ</sub>替<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>様<sub>ノ</sub>有<sub>レ</sub>之<sub>ニ</sub>度<sub>ニ</sub>(㊨)事<sub>ニ</sub>候。

(十七) 天<sub>ノ</sub>和<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>使<sub>レ</sub>之時<sub>ニ</sub>先<sub>ニ</sub>例<sub>ニ</sub>任<sub>レ</sub>セ岡<sub>崎</sub>之<sub>ノ</sub>御<sub>レ</sub>使<sub>レ</sub>番<sub>ノ</sub>を<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>遣<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>所<sub>ニ</sub>、何<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>官<sub>ニ</sub>御<sub>レ</sub>成<sub>レ</sub>登<sub>レ</sub>三<sub>ノ</sub>使<sub>ノ</sub>被<sub>レ</sub>相<sub>レ</sub>尋<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>處<sub>ニ</sub>、日<sub>本</sub>而<sub>レ</sub>者<sub>ハ</sub>宰<sub>ノ</sub>相<sub>ノ</sub>侍<sub>レ</sub>從<sub>レ</sub>諸<sub>ノ</sub>大<sub>ノ</sub>夫<sub>ノ</sub>奈<sub>レ</sub>登<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>而<sub>レ</sub> 禁<sub>裏</sub>より被<sub>レ</sub>仰<sub>レ</sub>付<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>官<sub>ノ</sub>登<sub>レ</sub>心<sub>ノ</sub>得<sub>レ</sub>居<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>之<sub>ノ</sub>ミ<sub>ニ</sub>而<sub>レ</sub>、唐<sub>ノ</sub>朝鮮<sub>ノ</sub>而<sub>レ</sub>官<sub>ノ</sub>登<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>ハ元<sub>ノ</sub>来<sub>レ</sub>今<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>役<sub>ノ</sub>登<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>事<sub>ニ</sub>候<sub>レ</sub>止<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>心<sub>ノ</sub>得<sub>レ</sub>無<sub>レ</sub>之<sub>ニ</sub>候<sub>レ</sub>故<sub>ニ</sub>、無<sub>レ</sub>官<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>人<sub>ニ</sub>候<sub>レ</sub>登<sub>レ</sub>通<sub>レ</sub>詞<sub>ニ</sub>も答<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>付<sub>レ</sub>、公<sub>儀</sub>乃<sub>レ</sub>禄<sub>ノ</sub>越<sub>レ</sub>食<sub>レ</sub>ミ御<sub>レ</sub>使<sub>レ</sub>務<sub>ノ</sub>候<sub>レ</sub>人<sub>ニ</sub>越<sub>レ</sub>無<sub>レ</sub>官<sub>ノ</sub>奈<sub>レ</sub>留<sub>レ</sub>登<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>ハ不<sub>レ</sub>思<sub>レ</sub>議<sub>レ</sub>(㊩)奈<sub>レ</sub>留<sub>レ</sub>事<sub>ニ</sub>候<sub>レ</sub>と三<sub>ノ</sub>使<sub>ノ</sub>殊<sub>レ</sub>(㊪)外<sub>ニ</sub> う<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>か<sub>レ</sub>ひ<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>多<sub>ク</sub>留<sub>レ</sub>由<sub>レ</sub>候。そ<sub>レ</sub>連<sub>レ</sub>ゆ<sub>レ</sub>へ正<sub>レ</sub>德<sub>レ</sub>享<sub>レ</sub>保<sub>レ</sub>之<sub>ノ</sub>信<sub>レ</sub>使<sub>レ</sub>ニ<sub>ハ</sub>若<sub>ク</sub>官<sub>ノ</sub>越<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>相<sub>レ</sub>尋<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>天<sub>ノ</sub> 其<sub>ノ</sub>役<sub>ノ</sub>儀<sub>ノ</sub>以<sub>テ</sub>答<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>様<sub>ニ</sub>止<sub>レ</sub>通<sub>レ</sub>詞<sub>ニ</sub>共<sub>ニ</sub>被<sub>レ</sub>仰<sub>レ</sub>付<sub>レ</sub>候。信<sub>レ</sub>使<sub>レ</sub>之時<sub>ニ</sub> 斗<sub>ニ</sub>も無<sub>レ</sub>之<sub>ニ</sub> 御<sub>レ</sub>國<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>人<sub>ニ</sub>送<sub>レ</sub>使<sub>レ</sub>僉<sub>ノ</sub>官<sub>ノ</sub>渡<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>時<sub>ニ</sub>、必<sub>ニ</sub>ハ御<sub>レ</sub>國<sub>ニ</sub>而<sub>レ</sub>何<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>官<sub>ニ</sub>候<sub>レ</sub>登<sub>レ</sub>相<sub>レ</sub>尋<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>事<sub>ニ</sub>有<sub>レ</sub>之<sub>ニ</sub>候。左<sub>ノ</sub>様<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>節<sub>ノ</sub>者<sub>ハ</sub>役<sub>ノ</sub>義<sub>ノ</sub>相<sub>レ</sub>勤<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>人<sub>ニ</sub>候<sub>レ</sub>ハ、其<sub>ノ</sub>役<sub>ノ</sub>も川<sub>ノ</sub>天<sub>ノ</sub>答<sub>レ</sub>へ御<sub>レ</sub>番<sub>ニ</sub>へ通<sub>レ</sub>り勤<sub>メ</sub>居<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>人<sub>ニ</sub>候<sub>レ</sub>ハ、宿<sub>衛</sub>之<sub>ノ</sub>官<sub>ノ</sub>候<sub>レ</sub>と答<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>様<sub>ニ</sub>通<sub>レ</sub>詞<sub>ニ</sub>共<sub>ニ</sub>被<sub>レ</sub>仰<sub>レ</sub>付<sub>レ</sub>事<sub>ニ</sub>候。士<sub>ノ</sub>以上<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>務<sub>ノ</sub>候<sub>レ</sub>越<sub>レ</sub>官<sub>ノ</sub>登<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>、士<sub>ノ</sub>以下<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>勤<sub>ノ</sub>を<sub>レ</sub>役<sub>ノ</sub>登<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>、其<sub>ノ</sub>分<sub>ニ</sub>昔<sub>ハ</sub>日<sub>本</sub>も分<sub>レ</sub>明<sub>ニ</sub>二<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>之<sub>ニ</sub>候<sub>レ</sub>處<sub>ニ</sub>、武<sub>ノ</sub>家<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>支<sub>レ</sub>配<sub>ニ</sub>成<sub>レ</sub>(㊫)候<sub>レ</sub>より官<sub>ノ</sub>登<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>人<sub>ノ</sub>を<sub>レ</sub>も役<sub>ノ</sub>登<sub>レ</sub>唱<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>様<sub>ニ</sub>成<sub>レ</sub>り多<sub>ク</sub>留<sub>レ</sub>事<sub>ニ</sub>候。

(十八) 重<sub>ニ</sub>而<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>使<sub>レ</sub>之<sub>ノ</sub>節<sub>ニ</sub> 第一<sub>ノ</sub>氣<sub>ノ</sub>毒<sub>ニ</sub>候<sub>レ</sub>者 鷹<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>事<sub>ニ</sub>候。委<sub>レ</sub>細<sub>ニ</sub>ハ享<sub>レ</sub>保<sub>レ</sub>信<sub>レ</sub>使<sub>レ</sub>之<sub>ノ</sub>御<sub>レ</sub>記<sub>レ</sub>録<sub>ニ</sub>記<sub>レ</sub>し<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>之<sub>ニ</sub>候。訳<sub>レ</sub>官<sub>ノ</sub>共<sub>ニ</sub>中<sub>ノ</sub>間<sub>ニ</sub>而<sub>レ</sub>以<sub>テ</sub>堂<sub>ニ</sub>し<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>段<sub>ニ</sub>(㊬)相<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>居<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>事<sub>ニ</sub>候<sub>レ</sub>へハ、享<sub>レ</sub>保<sub>レ</sub>之<sub>ノ</sub>例<sub>ノ</sub>越<sub>レ</sub>彼<sub>ノ</sub>方<sub>ニ</sub>へ可<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>仰<sub>レ</sub>掛<sub>レ</sub>決<sub>レ</sub>無<sub>レ</sub>之<sub>ニ</sub>事<sub>ニ</sub>候。何<sub>ノ</sub>登<sub>レ</sub>そ<sub>レ</sub>前<sub>ノ</sub>廣<sub>ニ</sub>二<sub>レ</sub>公<sub>儀</sub>被<sub>レ</sub>仰<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>燃<sub>レ</sub>事<sub>ニ</sub>候。有<sub>レ</sub>體<sub>ニ</sub>被<sub>レ</sub>仰<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>然<sub>レ</sub>筋<sub>ノ</sub>有<sub>レ</sub>之<sub>ニ</sub>候<sub>レ</sub>ハ、無<sub>レ</sub>其<sub>ノ</sub>上<sub>ノ</sub>事<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>左<sub>ニ</sub>無<sub>レ</sub>(㊭)。御<sub>レ</sub>取<sub>レ</sub>繕<sub>レ</sub>ふ<sub>レ</sub>御<sub>レ</sub>成<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>而<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>叶<sub>レ</sub>事<sub>ニ</sub>候<sub>レ</sub>ハ、鷹<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>義<sub>ノ</sub>生<sub>レ</sub>キ物<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>事<sub>ニ</sub>候<sub>レ</sub>へ者<sub>ハ</sub>勿<sub>レ</sub>論<sub>レ</sub>餘<sub>ノ</sub>慶<sub>ノ</sub>を<sub>レ</sub>も持<sub>レ</sub>來<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>へ其<sub>ノ</sub>長<sub>レ</sub>途<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>うち<sub>ニ</sub>おち<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>候

『交隣提醒』について—その5 (呉)

か、又ハ病鷹<sub>ニ</sub>成<sub>リ</sub>侯<sub>テ</sub>者如何<sub>ニ</sub>侯<sub>ユ</sub>ヘ此度鷹<sub>ハ</sub>指出<sub>シ</sub>可<sub>シ</sub>申<sub>レ</sub>得<sub>ト</sub>も、別幅<sub>ニ</sub>ハ書載<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>仕<sub>サ</sub>筈<sub>ニ</sub>候<sub>間</sub> 左様<sub>ニ</sub>御<sub>レ</sub>聞<sub>置</sub>可<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>下<sub>ル</sub>候<sub>与</sub>、兼<sub>テ</sub>御<sub>レ</sub>老<sub>中</sub>江<sub>御</sub>届<sub>被</sub>成<sub>鷹</sub>さへ指出<sub>候</sub>様<sub>ニ</sub>被<sub>レ</sub>成<sub>候</sub>ハ、是非<sub>ニ</sub>千<sub>規</sub>之<sub>通</sub>別<sub>規</sub>之<sub>通</sub>別<sub>幅</sub>書<sub>載</sub>候<sub>様</sub>とも有<sub>之</sub>間<sub>敷</sub>候<sub>哉</sub>。鷹<sub>被</sub>指出<sub>候</sub>様<sub>ニ</sub>被<sub>レ</sub>成<sub>候</sub>其<sub>時</sub>如何<sub>ニ</sub>様<sub>ニ</sub>も處<sub>置</sub>有<sub>之</sub>事<sub>ニ</sub>候<sub>故</sub>、唯<sub>今</sub>書<sub>載</sub>致<sub>シ</sub>置<sub>候</sub>不<sub>レ</sub>及<sub>候</sub>。

(十九) 正徳享保之兩度之信使者朝鮮人登<sub>重</sub>キ論<sub>談</sub>有<sub>之</sub>候<sub>時</sub>、佐<sub>役</sub>之<sub>人</sub>必<sub>ハ</sub>御<sub>相</sub>談<sub>ニ</sub>相<sub>加</sub>り始<sub>終</sub>之<sub>能</sub>存<sub>知</sub>居<sub>申</sub>候<sub>故</sub>、其<sub>後</sub>記<sub>録</sub>御<sub>仕</sub>立<sub>被</sub>成<sub>候</sub>之<sub>節</sub>朝鮮<sub>人</sub>登<sub>論</sub>談<sub>有</sub>之<sub>候</sub>重<sub>キ</sub>事<sub>之</sub>分<sub>者</sub>佐<sub>役</sub>之<sub>人</sub>より書<sub>付</sub>指<sub>上</sub>ケ<sub>御</sub>記<sub>録</sub>ニ<sub>被</sub>書<sub>入</sub>候。天和<sub>之</sub>記<sub>録</sub>ハ日本<sub>向</sub>使<sub>者</sub>往<sub>來</sub>所<sub>ニ</sub>馳<sub>走</sub>之<sub>事</sub>者<sub>記</sub>有<sub>之</sub>候<sub>へ</sub>とも、朝鮮<sub>人</sub>者<sub>御</sub>論<sub>談</sub>有<sub>之</sub>候<sub>重</sub>キ事<sub>者</sub>、西<sub>丸</sub>徳<sub>松</sub>君<sub>ヘ</sub>被<sub>致</sub>相<sub>候</sub>付<sub>違</sub>却<sub>有</sub>之<sub>候</sub>此<sub>儀</sub>ヲ<sub>始</sub>メ<sub>一</sub>事<sub>も</sub>記<sub>無</sub>之<sub>候</sub>。ケ様<sub>ニ</sub>候<sub>而</sub>者<sub>渡</sub>來<sub>信</sub>使<sub>方</sub>之<sub>御</sub>用<sub>耳</sub>相<sub>立</sub>候<sub>記</sub>録<sub>ニ</sub>而<sub>者</sub>無<sub>之</sub>候。重<sub>而</sub>信<sub>使</sub>之<sub>節</sub>者<sub>重</sub>キ御<sub>論</sub>談<sub>之</sub>御<sub>相</sub>談<sub>ニ</sub>預<sub>り</sub>候<sub>人</sub>ニ<sub>書</sub>手<sub>貳</sub>人<sub>ニ</sub>而<sub>も</sub>三<sub>人</sub>ニ<sub>而</sub>被<sub>成</sub>御<sub>添</sub>朝鮮<sub>人</sub>与<sub>論</sub>談<sub>有</sub>之<sub>候</sub>事<sub>之</sub>分<sub>者</sub>早<sub>速</sub>ク爾<sub>書</sub>付<sub>置</sub>、重<sub>而</sub>御<sub>記</sub>録<sub>之</sub>内<sub>ニ</sub>被<sub>書</sub>入<sub>候</sub>様<sub>ニ</sub>可<sub>レ</sub>被<sub>成</sub>事<sub>ニ</sub>候。書<sub>札</sub>方<sub>ニ</sub>被<sub>仰</sub>付<sub>候</sub>而<sub>者</sub> 第一<sub>ハ</sub>日本<sub>向</sub>之<sub>書</sub>留<sub>置</sub>候<sub>事</sub>大<sub>分</sub>ニ<sub>有</sub>之。其<sub>上</sub>御<sub>相</sub>談<sub>座</sub>席<sub>ニ</sub>罷<sub>出</sub>申<sub>ニ</sub>而<sub>も</sub>無<sub>之</sub>。信<sub>使</sub>奉<sub>行</sub>より度<sub>毎</sub>ニ<sub>可</sub>被<sub>仰</sub>聞<sub>と思</sub>召<sub>し</sub>候<sub>而</sub>も是<sub>又</sub>御<sub>用</sub>御<sub>越</sub>繁<sub>多</sub>之内<sub>ニ</sub>、中<sub>ニ</sub>御<sub>手</sub>登<sub>起</sub>申<sub>事</sub>ニ<sub>而</sub>無<sub>之</sub>候<sub>ゆ</sub>へ、每<sub>度</sub>御<sub>相</sub>談<sub>ニ</sub>相<sub>加</sub>り候<sub>人</sub>へ書<sub>手</sub>被<sub>相</sub>添<sub>、微</sub>細<sub>ニ</sub>書<sub>付</sub>置<sub>様</sub>ニ<sub>被</sub>仰<sub>付</sub>候<sub>義</sub>切<sub>要</sub>之<sub>事</sub>ニ<sub>御</sub>座<sub>候</sub>。

(二十) 天和<sub>信</sub>使<sub>歸</sub>國<sub>之</sub>節<sub>今</sub>度<sub>公</sub>儀<sub>より</sub>御<sub>馳</sub>走<sub>丁</sub>寧<sub>ニ</sub>被<sub>仰</sub>付<sub>難</sub>有<sub>仕</sub>合<sub>ニ</sub>被<sub>存</sub>候<sub>与</sub>之<sub>趣</sub> 三<sub>使</sub>より書<sub>簡</sub>ヲ<sub>以</sub>殿<sub>様</sub>宛<sub>ニ</sub>可<sub>レ</sub>被<sub>申</sub>越<sub>候</sub>。佐<sub>侯</sub>ハ公<sub>儀</sub>ニ<sub>可</sub>被<sub>指</sub>上<sub>之</sub>の<sub>義</sub>ニ<sub>天</sub>上<sub>々</sub>官<sub>ヲ</sub>以<sub>被</sub>仰<sub>掛</sub>候<sub>處</sub>、其<sub>書</sub>簡<sub>致</sub>出<sub>來</sub>御<sub>記</sub>録<sub>ニ</sub>載<sub>り</sub>居<sub>申</sub>候。右<sub>書</sub>簡<sub>之</sub>文<sub>体</sub>越<sub>見</sub>申<sub>候</sub>ニ<sub>三</sub>使<sub>之</sub>筆<sub>力</sub>とも見<sub>へ</sub>か<sub>多</sub>く、文<sub>意</sub>全<sub>ク</sub>日本<sub>風</sub>儀<sub>ニ</sub>相<sub>見</sub>へ<sub>申</sub>候。惣<sub>体</sub>日本<sub>ニ</sub>而<sub>も</sub>國<sub>使</sub>者<sub>罷</sub>越<sub>、彼</sub>方<sub>丁</sub>寧<sub>ニ</sub>被<sub>致</sub>候<sub>時</sub>、罷<sub>歸</sub>り主<sub>人</sub>より禮<sub>を</sub>申<sub>遣</sub>候<sub>事</sub>者<sub>有</sub>之<sub>候</sub>得<sub>とも</sub>、使<sub>者</sub>之<sub>身</sub>登<sub>し</sub>天<sub>我</sub>身<sub>ニ</sub>當<sub>り</sub>た<sub>留</sub>事<sub>之</sub>様<sub>ニ</sub>禮<sub>越</sub>可<sub>レ</sub>申<sub>述</sub>よ<sub>ふ</sub>無<sub>之</sub>。増<sub>而</sub>唐<sub>・朝鮮</sub>者<sub>尚</sub>ニ<sub>有</sub>之<sub>間</sub>敷<sub>事</sub>ニ<sub>候</sub>ゆ<sub>へ</sub>不<sub>レ</sub>害<sub>ニ</sub>存<sub>居</sub>候<sub>へ</sub>とも、先<sub>例</sub>之<sub>事</sub>ニ<sub>候</sub>ゆ<sub>へ</sub>正<sub>徳</sub>年<sub>も</sub>右<sub>之</sub>通<sub>上</sub>々<sub>官</sub>ヲ<sub>以</sub>先<sub>例</sub>如此<sub>候</sub>段<sub>被</sub>仰<sub>達</sub>候<sub>處</sub> 三<sub>使</sub>歸<sub>國</sub>之後<sub>科</sub>ニ<sub>逢</sub>被<sub>申</sub>候<sub>ゆ</sub>へ、今<sub>ニ</sub>而<sub>者</sub>書<sub>通</sub>致<sub>しか</sub>た<sub>く</sub>候<sub>与</sub>申<sub>、終</sub>ニ<sub>埒</sub>明<sub>不</sub>申<sub>。享</sub>保<sub>年</sub>ニ<sub>至</sub>り又<sub>ニ</sub>右<sub>之</sub>通<sub>ニ</sub>被<sub>仰</sub>掛<sub>へ</sub>とも三<sub>使</sub>不<sub>レ</sub>害<sub>爾</sub>被<sub>存</sub>候<sub>由</sub>、誤<sub>官</sub>共<sub>申</sub>候<sub>付</sub>、天和<sub>年</sub>之<sub>書</sub>簡<sub>迄</sub>御<sub>見</sub>せ<sub>被</sub>成<sub>候</sub>得<sub>とも</sub>兎<sub>や</sub>角<sub>申</sub>候<sub>而</sub>埒<sub>明</sub>不<sub>申</sub>候。就<sub>中</sub>得<sub>と</sub>右<sub>天</sub>和<sub>之</sub>書<sub>簡</sub>吟<sub>味</sub>被<sub>仰</sub>付<sub>候</sub>處<sub>、図</sub>書<sub>も</sub>違<sub>ひ</sub>疑<sub>敷</sub>相<sub>見</sub>へ<sub>候</sub>。天和<sub>之</sub>時<sub>分</sub>迄<sub>者</sub>

## 『交隣提醒』について—その5 (呉)

訳官<sup>共</sup>とも之風義、兎角日本人之心越<sup>二</sup>さ可<sup>一</sup>ひ不申様<sup>一</sup>以堂<sup>一</sup>し侯義第一心得居申候時分<sup>二</sup>而<sup>一</sup>、朴同知奈登<sup>一</sup>申もの日本之事情も能<sup>レ</sup>知り居申<sup>候</sup>者<sup>一</sup>侯ゆへ、此義書簡<sup>一</sup>およ<sup>び</sup>申事<sup>一</sup>而、無<sup>レ</sup>之侯<sup>と</sup>一旦<sup>一</sup>申見<sup>候</sup>へとも此方<sup>一</sup>其間入無<sup>レ</sup>之侯<sup>一</sup>付、中間<sup>一</sup>而拵<sup>レ</sup>、三使之書簡<sup>一</sup>登号し指出<sup>候</sup>偽<sup>と</sup>与<sup>レ</sup>相見<sup>候</sup>。此訳<sup>一</sup>譯官共<sup>一</sup>ハ聞傳<sup>一</sup>も有<sup>レ</sup>之、推量も可<sup>レ</sup>有<sup>レ</sup>之侯ゆへ、正徳享保とも耳<sup>レ</sup>此方<sup>一</sup>より被<sup>レ</sup>仰掛<sup>候</sup>時、三使<sup>一</sup>申<sup>達</sup>候登<sup>者</sup>申候得<sup>共</sup>とも、実者<sup>一</sup>三使<sup>一</sup>其沙汰<sup>一</sup>曾<sup>レ</sup>而不<sup>レ</sup>仕<sup>一</sup>而可<sup>レ</sup>有<sup>レ</sup>之と存<sup>候</sup>。ケ様<sup>一</sup>之儀 江戸向<sup>一</sup>之津屋を思<sup>レ</sup>召<sup>候</sup>而不<sup>レ</sup>當<sup>レ</sup>事越<sup>レ</sup>被<sup>レ</sup>仰掛<sup>候</sup>段、元来<sup>一</sup>不<sup>レ</sup>宜<sup>一</sup>御座<sup>候</sup>。

(二十一) 天和信使之時、御國<sup>一</sup>漂流兼帶<sup>一</sup>極<sup>一</sup>り候節、破船<sup>一</sup>殞命<sup>一</sup>者<sup>一</sup>使者可<sup>レ</sup>被<sup>レ</sup>指渡<sup>一</sup>之通<sup>一</sup>被<sup>レ</sup>成<sup>候</sup>与<sup>レ</sup>有<sup>レ</sup>之。侯登<sup>一</sup>真文<sup>一</sup>を以<sup>レ</sup>被<sup>レ</sup>仰達<sup>置</sup>候處、其後<sup>一</sup>秋山折右衛門<sup>一</sup>被<sup>レ</sup>指渡<sup>候</sup>時ヲ始<sup>メ</sup>、違<sup>レ</sup>却<sup>致</sup>し此方<sup>一</sup>より者約條<sup>一</sup>彼方<sup>一</sup>より者約條<sup>一</sup>二違<sup>候</sup>候登<sup>一</sup>有<sup>レ</sup>之。就夫<sup>一</sup>訳官<sup>一</sup>とも色<sup>一</sup>と辨<sup>一</sup>を立<sup>申</sup>満<sup>ぎ</sup>ら可<sup>レ</sup>し快<sup>増</sup>明<sup>不</sup>申<sup>候</sup>付、兼<sup>一</sup>不<sup>レ</sup>審<sup>二</sup>存<sup>候</sup>ハ右<sup>一</sup>之真文<sup>一</sup>訳官<sup>一</sup>とも中間<sup>一</sup>而留<sup>置</sup>朝廷方<sup>一</sup>指出<sup>不</sup>申<sup>二</sup>而<sup>者</sup>無<sup>レ</sup>之候哉。朝廷方<sup>一</sup>より右御國<sup>一</sup>漂流之事兼帶<sup>一</sup>二濟<sup>來</sup>候様<sup>二</sup>との命<sup>一</sup>を蒙<sup>り</sup>、全<sup>ク</sup>其通<sup>一</sup>り二相<sup>一</sup>濟<sup>來</sup>候者<sup>一</sup>歸朝<sup>之</sup>節<sup>一</sup>候ハ、若<sup>者</sup>右<sup>一</sup>之真文<sup>一</sup>訳官<sup>一</sup>共中間<sup>一</sup>而留<sup>置</sup>朝廷方<sup>一</sup>へ江<sup>一</sup>指出<sup>不</sup>申<sup>二</sup>てハ無<sup>レ</sup>之候哉。朝廷方<sup>一</sup>より右御國<sup>一</sup>漂流之事兼帶<sup>一</sup>すめ<sup>來</sup>候様<sup>二</sup>との命<sup>一</sup>を蒙<sup>り</sup>、全<sup>ク</sup>其通<sup>一</sup>二相<sup>一</sup>濟<sup>メ</sup>來<sup>候</sup>と歸朝<sup>之</sup>節<sup>一</sup>申<sup>候</sup>へハ其身<sup>一</sup>とも功<sup>も</sup>相<sup>立</sup>様<sup>子</sup>宜<sup>候</sup>處、破船<sup>一</sup>殞命<sup>一</sup>二者<sup>一</sup>使者<sup>一</sup>相<sup>渡</sup>申<sup>筈</sup>二濟<sup>來</sup>候登<sup>一</sup>申<sup>候</sup>而<sup>者</sup>首尾<sup>一</sup>如何<sup>一</sup>敷<sup>處</sup>有<sup>レ</sup>之候<sup>一</sup>付、破<sup>せん</sup>殞命<sup>一</sup>毎<sup>度</sup>有<sup>レ</sup>之<sup>一</sup>事<sup>一</sup>而<sup>も</sup>無<sup>レ</sup>之<sup>一</sup>若<sup>も</sup>有<sup>レ</sup>之<sup>一</sup>候ハ其節<sup>一</sup>如何<sup>一</sup>様<sup>も</sup>成<sup>可</sup>申<sup>者</sup>存<sup>一</sup>、右<sup>一</sup>之真文<sup>一</sup>指<sup>控</sup>置<sup>堂</sup>留<sup>事</sup>有<sup>レ</sup>之間<sup>一</sup>敷<sup>とも</sup>難<sup>申</sup>者<sup>一</sup>存<sup>居</sup>候處、享保<sup>一</sup>信使<sup>一</sup>江戸表<sup>一</sup>而<sup>右</sup>破船<sup>一</sup>殞命<sup>一</sup>二者<sup>一</sup>使者<sup>一</sup>可<sup>レ</sup>指<sup>渡</sup>との約<sup>一</sup>速<sup>一</sup>有<sup>レ</sup>之候段<sup>一</sup>被<sup>レ</sup>仰<sup>聞</sup>候<sup>一</sup>者<sup>一</sup>左<sup>候</sup>ハ其書<sup>一</sup>付<sup>見</sup>申<sup>度</sup>と申<sup>被</sup>候<sup>一</sup>付<sup>書</sup>付<sup>被</sup>遣<sup>候</sup>。天和年<sup>一</sup>弥<sup>一</sup>訳官<sup>一</sup>共より指出<sup>し</sup>堂<sup>一</sup>留<sup>事</sup>二候<sup>一</sup>ハ右<sup>一</sup>之書<sup>一</sup>付<sup>彼</sup>方<sup>一</sup>有<sup>レ</sup>之<sup>一</sup>筈<sup>一</sup>二候<sup>一</sup>ゆへ見<sup>申</sup>度<sup>と</sup>ハ被<sup>申</sup>間<sup>敷</sup>事<sup>一</sup>二候<sup>一</sup>所、如此<sup>一</sup>被<sup>申</sup>候者<sup>一</sup>天和年<sup>一</sup>二弥<sup>一</sup>指出<sup>不</sup>申<sup>哉</sup>与<sup>レ</sup>、猶<sup>々</sup>不<sup>レ</sup>審<sup>二</sup>存<sup>候</sup>所、近<sup>來</sup>彼方<sup>一</sup>之書<sup>一</sup>物<sup>一</sup>越<sup>身</sup>候<sup>へ</sup>ハ壬戌<sup>一</sup>信使<sup>一</sup>時漂<sup>船</sup>之<sup>一</sup>泊<sup>一</sup>於<sup>馬</sup>島<sup>一</sup>者<sup>一</sup>順<sup>一</sup>附<sup>一</sup>九<sup>一</sup>送<sup>使</sup>便<sup>一</sup>以<sup>來</sup>事<sup>一</sup>更<sup>レ</sup>為<sup>レ</sup>約<sup>一</sup>條<sup>一</sup>登<sup>書</sup>付<sup>有</sup>之。破船<sup>一</sup>殞命<sup>一</sup>与<sup>申</sup>事<sup>一</sup>者<sup>一</sup>書<sup>載</sup>無<sup>レ</sup>之<sup>一</sup>候へハ、慥<sup>一</sup>天和年<sup>一</sup>右<sup>一</sup>之真文<sup>一</sup>を中間<sup>一</sup>留<sup>置</sup>不<sup>指</sup>出<sup>候</sup>段<sup>一</sup>分明<sup>一</sup>相<sup>知</sup>レ<sup>堂</sup>留<sup>事</sup>二候<sup>一</sup>。享保<sup>一</sup>信使<sup>一</sup>鷹<sup>之</sup>事<sup>一</sup>二付<sup>東</sup>五郎<sup>一</sup>韓<sup>一</sup>僉<sup>一</sup>知<sup>江</sup>申<sup>候</sup>者、此<sup>度</sup>者、ケ様<sup>一</sup>二取<sup>繕</sup>濟<sup>被</sup>置<sup>候</sup>得<sup>とも</sup>も重<sup>而</sup>信<sup>使</sup>有<sup>レ</sup>之<sup>一</sup>候節<sup>一</sup>必<sup>違</sup>却<sup>二</sup>可<sup>一</sup>及<sup>候</sup>。其節<sup>一</sup>如何<sup>一</sup>可<sup>致</sup>登<sup>被</sup>存<sup>候</sup>事<sup>一</sup>二候<sup>一</sup>哉<sup>と</sup>申<sup>候</sup>者<sup>一</sup>其時<sup>一</sup>迄<sup>一</sup>我<sup>等</sup>生<sup>居</sup>申<sup>物</sup>二而<sup>も</sup>無<sup>レ</sup>之<sup>一</sup>候ゆへ、其節<sup>一</sup>者<sup>一</sup>兎も角<sup>も</sup>成<sup>可</sup>申<sup>与</sup>何<sup>之</sup>氣<sup>一</sup>遣<sup>成</sup>様<sup>子</sup>も無<sup>レ</sup>之<sup>一</sup>返<sup>答</sup>二而<sup>候</sup>。天和<sup>一</sup>信使<sup>一</sup>時之<sup>一</sup>訳官<sup>一</sup>ともも韓

『交隣提醒』について—その5 (呉)

僉知同然之心入耳天有之堂登留被存候。ケ様之義も有之候ゆへ此方爾者慥ニ約速相济居候事と覚(八)居候事ニ而も、若者訳官とも中間ニ而致し堂留事ニ而ハ無之哉。左候而者 押而及 議 論 却而事之敗(九)を招キ候事も可有之(候)哉与毎度阿や婦ミ申事多ク候故前後を勘弁し諸事卒爾奈らさぬ様耳可有之事ニ候。天和年御國漂流兼帶ニ成(一〇)候事者此儀宜御濟シ被成候ハ、狐皮狸之皮之直段上り候様ニ相働可申与、上々官之内より裁判指置他之筋ヲ以慥ニ申堂留もの有之。其通被相極候事ニ候處、其後狐皮狸皮之直段者終耳か(一)留事無之候。是又為後日覚居可申事ニ候。

(二十二) 正徳年爾者所々より出候人馬ともニ餘計有之。指得候事無之。天和年も其(通)り有之堂留よし候所、享保年爾者請負ニ成候ゆへ甚指支日本之御外聞不宜候。重而信使之節 天和正徳之例ニ被仰付候様ニ兼而公儀(二)可被仰上事ニ候。

(二十三) 日本船登朝鮮船登違有之日本船出しかたき日和盤も朝鮮船者慥ニ乗被候事罷成候ゆへ此方より出船難成日和候登被仰聞候而も、彼方之船將者成程出船成(安)キ日和候登申付、毎度違却有之事候ゆへ、兼々日本船朝鮮船違候訳前廣ニ被仰論置度事ニ候。其上、殿様御旅行船中道中ニ被成候逗留候程、公儀より之御宛行有之御為ニ成候与彼方書物ニ記シ有之由、正徳之訳官享保之訳官何連茂申候。ケ様之儀ニ付候而も出船成申日和候へとも熊与御逗留被成候与之疑心有之候間其心得可被成事ニ候。

(二十四) 惣体三使之心入以川登天も御國より 仰 制 ヲう希申間敷との我意有之様耳相見へ申候。曾而抑制ニ而者無之日本と朝鮮登者風儀の違ひ有之、朝せん乃思召ニ而者日本向ニ合不申、何登そ兩國間宜(三)様ニ思召候所より被仰入事ニ候。古人之言葉爾も使從(四)俗禮從宜登申候而朝鮮乃国体ニ阿川可り候儀者格別ニ候。其外申入候趣を得度被聞通候様ニと御丁寧ニ可被仰入事ニ候。

(二十五) 信使之時、行中之書物越被禁候事、天和(之)年ニ始り天和御記録ニ委細相見へ居申候。元來此方より被仰上候ニ付 公儀より仰出堂留事ニ候。筆談(五)猥りニ致し候もの若者国事越洩(六)可申哉との恐有之事候ゆへ、是者被禁候段其訳有之事ニ候へとも、書物を被禁候事者訳立(七)起事ニ而逆(八)も御指圖守り申さぬ事ニ候間、御禁制被成候事重而者御無用ニ被成可然候。且又信使之時、方々



『交隣提醒』について—その5 (呉)

より御家老中江書物之御頼大分申成候不得已一御請込被成候ゆへ右書物之儀  
 付信使屋殊外騒敷外之御用之妨成候事甚有之候。重而信使之節書物之御頼  
 ミ有之候て額字候ハ二三枚一枚唐紙爾書候事候ハ二枚カ六枚屏風用  
 成候外者相成申間敷候。其分通詞頭可申時登候間、彼方紙被遣御書可  
 被成候与被仰聞、御家老中者書物之事御構ふ不成候様有之度事候。書物之  
 事而御詰問せむと有之。殊二享保年亀井隠岐守様より者長持一竿耳裏  
 打致シ候唐紙入被遣候而、書物御届被成候ゆへ、道中船中御国迄段々御書  
 被成候得とも全く濟兼申程御座候。定而御家中之銘望候分も其内入申候  
 ゆへ、如右大分成堂留事登存候。何之益も無之事御老中も臨時之御話  
 被成。并役人中之手塞候段甚以如何敷事御座候。

(二十六) 詩・文章(者)真文役之外取無用二仕候様(堅)可被仰時事候。外  
 より取次候而者不亘識数多有之候。

(二十七) 重而信使者大佛被立寄候事、兼而朝鮮被仰通座御無用被成可然候。  
 其訳者委細享保信使御記録相見へ候。明暦年日光参詣仕候様被仰出候者  
 御廟制之華美を被成御見せとの事二相聞候。大佛江被寄候様との事も一ツ者  
 日本珍敷大佛有之登申事越御知らせ被成可。一トつハ耳塚御見知セ被成、  
 日本之武威を顕ハさ留遍起与之事与相聞へ候へとも、何之瓢逸奈留御所見  
 爾候。廟制者節儉を主人与致し候ゆへ其櫃丹越ぬり其櫃刻候事、春秋  
 そしら連候へハ、御廟制之華美朝鮮人感心可致様無之。佛之功德者大小耳よ  
 留満しく見候処有用之財を費し無用の大佛を被作候事は又嘲り候一端にて、  
 耳塚登ても豊臣家無名之師越起し、両国数無之人民越殺せせら連堂留事候  
 へハ、其暴悪越重而可申出事二而何も華輝の資は成り不申。却而我國之  
 無学無義越顕し候のミ而御座候。正徳年信使大仏被立寄候耳塚をかこはれ、享保年爾も其  
 例を以朝鮮人之見申さぬ様被成候。是者誠耳聖徳の事多留遍候。此段も  
 兼而新井筑後守様御内意被仰上御聞通有之、かこわ連候様成多留事候。右  
 之次第候ゆへ重而之信使者京(都)乃止宿并大佛被立寄候事御やめ被成可然  
 事候。若も長途之始候ゆへ以前より京都爾天休息被仰付川船より直旅行  
 登申事如何哉与訳古連何ヲ候て幸湖水者日本乃絶景天候得者其所致止  
 宿候(義)一行之者も悦申事候間成申事爾(爾)天高観音越信使屋被成、

『交隣提醒』について—その5 (呉)

大津<sub>二</sub>兩日程被致休息候様<sub>一</sub>被成可然候。享保年京都を昼休と公儀より被仰出、兼而朝鮮<sub>江</sub>被仰遣置<sup>多</sup>事<sub>一</sub>候所、三使病氣<sup>氣</sup>登号し京都<sub>二</sub>致<sup>いたし</sup>逗留<sup>ハ</sup>候者、右昼休与申事、訳官とも都表<sub>江</sub>ハ不申達事之様耳相見へ候。

(二十八) 天和年日本道中<sub>二</sub>乃列樹何<sup>連</sup>も古木<sub>一</sub>而枝葉越<sup>を</sup>檢シ候体無之候を見被申候而、法令<sub>之</sub>之嚴肅<sup>成</sup>奈留<sup>放</sup>ゆ<sub>一</sub>候与三使殊<sup>乃</sup>外感心被致候よし<sub>一</sub>候。日光大佛<sub>ニ</sub>以何<sup>クフヨウ</sup>謹<sup>ク</sup>耀可被成与思召候而もそ連爾者感心も無之、却而日本人<sub>之</sub>之心付申さぬ列樹<sub>一</sub>感心有之候<sub>一</sub>而、日本朝鮮志尚乃在<sup>心</sup>所<sub>一</sub>可<sup>しるへき</sup>知事<sub>一</sub>候。正徳年爾者乞食<sub>二</sub>を悉ク被除候而<sub>一</sub>宜候所、享保年爾者盲人比丘尼<sub>ニ</sub>まで徘徊し、見苦<sup>キ</sup>事<sub>一</sub>候。是又重而之信使<sub>二</sub>兼而公儀<sub>一</sub>可被仰上事<sub>一</sub>候。

(二十九) 享保年信使<sub>二</sub>相附候護衛之軍官者騎馬<sub>一</sub>而無之候而者如何<sub>一</sub>候へとも、其外之上官とも盤駕籠<sub>一</sub>被仰付候ハ>其身共為爾も宜、日本諸大名之費をも省キ候事<sub>一</sub>候ゆへ、訳官とも<sub>江</sub>被申談相頼候事<sub>一</sub>候ハ>公儀<sub>江</sub>可被仰上候間<sub>一</sub>可被申越候。志かし慥<sup>成</sup>可<sup>義</sup>申哉否之儀者不相知事<sub>一</sub>候間、究而者<sub>一</sub>被中間敷と裁判方<sub>江</sub>被仰遣候所<sub>一</sub>裁判被致失念<sup>方先年捕獲</sup>訳官共<sub>一</sub>不申候内<sub>二</sub>最早國々<sub>一</sub>被仰付候馬割<sup>朝(朝か) 濟(濟) 令(令) 延(延) 引(引) 放(放)</sup>相濟候。延引せしめ候ゆへ其沙汰爾及不申候。重而者何とそ護衛之外者駕籠<sub>一</sub>成候様有之度事<sub>一</sub>候。享保年書記とも乗<sup>り</sup>候筈之駕籠<sub>一</sub>軍官共之内、書記<sub>ニ</sub>押<sup>り</sup>之希乗<sup>り</sup>候族ま<sub>一</sub>有之候。重而信使<sub>二</sub>軍官とも駕籠<sub>一</sub>乗<sup>り</sup>候先規有之候登申<sub>一</sub>必者駕籠<sub>ニ</sub>乞候事奈登可有之哉止存事<sub>一</sub>候。

(三十) 訳官<sub>共</sub>之儀者格別恩賜を厚く被成、御国<sub>之</sub>御蔭爾<sub>二</sub>天無之候而者<sub>一</sub>其身立不申候与存候様<sub>一</sub>被成可被<sup>下</sup>置事<sub>一</sub>候。公儀向<sup>を</sup>思召候へ者、御老中方之御用人<sub>一</sub>者<sub>一</sub>別段之御手入越被成候同然之心持<sup>其</sup>御座候而、訳官とも御國<sub>ニ</sub>おろそか爾存候よ<sub>一</sub>爾被成候而者甚御為<sub>一</sub>成り申間し具候。其内常例<sub>一</sub>成り不申候様<sub>一</sub>御處置肝<sup>所</sup>要<sup>二</sup>候。参判使渡海之節木綿被下候儀<sup>二</sup>最初者不時之恩賜<sub>一</sub>候處、只今<sub>一</sub>而<sup>所</sup>者常例之様<sub>一</sub>罷成候。ケ様<sub>一</sub>候而者如何處奉存事<sub>一</sub>古館之時、此方より被仰掛候事有之。久>埒明不申候<sub>一</sub>付<sub>一</sub>訳官之内李判事と申も<sub>一</sub>日本人<sub>一</sub>致<sup>いたし</sup>内<sup>ハ</sup>通<sup>ハ</sup>候者、拙子事越東萊前耳<sub>一</sub>天散々<sub>一</sub>御叱<sup>頻</sup>り其上<sub>一</sub>打擲可被成候。左候ハ>此事相濟可申与申ゆへ其通<sub>一</sub>致<sup>いた</sup>し候所、果而其事埒明たる登申<sup>事</sup>候。訳官之身堂<sub>上</sub>して<sub>一</sub>ケ様之事可申様無之儀<sub>一</sub>候へとも、其節<sub>一</sub>までは乱後之徐威<sub>一</sub>爾而日本人諸事<sub>一</sub>暴戻ナル仕形<sub>一</sub>恐候。心つよく候而よしハ其身辱越被候而<sup>強</sup>

(り)も此事越者やく埒明、一時之苦難を免連申度存候一と川。且又其砌迄者  
 御商賣之次第も彼方共今登者違候而、日本人之多め相働候得者其身(乃)勝手  
 成(り)候所有之候ゆへ、利得<sup>放</sup>目を掛ケ候心も有之。<sup>ニオヒヤカラレ(ニオヒ)</sup>威<sup>ミチヒカレ</sup>脅<sup>ミチヒカレ</sup>利<sup>ミチヒカレ</sup>誘<sup>ミチヒカレ</sup>候此  
 端<sup>放</sup>而右之内通を以堂し堂留<sup>ニ</sup>候。此外耳も是爾類<sup>ニ</sup>堂留事、其節迄者いか  
 程も有之。李判事一人<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>ミ<sup>ニ</sup>にて者無之候。今爾成候而者餘威も無之、又相働候  
 とて別而益<sup>放</sup>得申事も無之候へ者、判事中之心人<sup>ニ</sup>昔耳者殊(り)外違(り)申<sup>ニ</sup>申<sup>ニ</sup>  
 候ゆへ、恩賜之所爾別而可被添御心事<sup>ニ</sup>候。殊<sup>放</sup>御商方<sup>ニ</sup>而商人越親<sup>ニ</sup>誤官越疎  
 候様<sup>放</sup>奈と有之候て<sup>放</sup>御隣<sup>放</sup>交<sup>放</sup>之御用向<sup>放</sup>必指<sup>出来</sup>支<sup>出来</sup>可致<sup>出来</sup>出<sup>出来</sup>(來)候ゆへ了簡可有之  
 事<sup>放</sup>御座候。近來誰<sup>放</sup>而(も)候哉。小作人之内<sup>放</sup>昔乃仕形越聞傳<sup>放</sup>へ居、東萊前<sup>放</sup>而  
 誤官之鬚越取申候へハ誤官とも却而致憤怒其事弥埒明<sup>放</sup>兼<sup>放</sup>申候。是者俗説<sup>放</sup>申  
 候古流當留乃差別無之と申類<sup>放</sup>而、事情、時勢越分<sup>放</sup>申さぬ(可)為<sup>放</sup>不了<sup>放</sup>簡<sup>放</sup>候。  
 (三十一) 御時勢不<sup>放</sup>宜候付<sup>放</sup>御使送御屋堂<sup>放</sup>被成候事<sup>放</sup>最早兩度有之候。此後  
 又左様之事有之間敷とも難申候。御所務御庫入<sup>放</sup>成(り)候(儀)御多め之様<sup>放</sup>相  
 見<sup>放</sup>候へ得共、元來御家来<sup>放</sup>他國より<sup>放</sup>致<sup>放</sup>馳<sup>放</sup>走<sup>放</sup>候食物<sup>放</sup>上<sup>放</sup>被召上候と申事  
 義理<sup>放</sup>當(り)可申様無之、其上異國人之存入も不<sup>放</sup>宜候。勿論御家来<sup>放</sup>之難儀者無  
 限事爾<sup>放</sup>當時<sup>放</sup>ハ御為<sup>放</sup>登<sup>放</sup>相<sup>放</sup>見<sup>放</sup>爾<sup>放</sup>而も、落着<sup>放</sup>者<sup>放</sup>御多め<sup>放</sup>爾<sup>放</sup>不<sup>放</sup>罷<sup>放</sup>成候登申所<sup>放</sup>心付  
 無之候段、慨<sup>放</sup>嘆<sup>放</sup>し<sup>放</sup>極<sup>放</sup>候間、若も左様之沙汰申上候人有之候ハ<sup>放</sup>上より叱責  
 可被成事<sup>放</sup>候。

(三十二) 古館時分迄者<sup>放</sup>朝鮮乱後之餘威有之候ゆへ朝鮮人<sup>放</sup>無<sup>放</sup>理<sup>放</sup>以<sup>放</sup>押<sup>放</sup>付<sup>放</sup>置、  
 誤官共其身難義之餘り中間<sup>放</sup>而都之首尾宜<sup>放</sup>ク取<sup>放</sup>繕<sup>放</sup>ひ、難成事も成候様<sup>放</sup>致<sup>放</sup>し候  
 ゆへ、以<sup>放</sup>強<sup>放</sup>狼<sup>放</sup>取<sup>放</sup>り<sup>放</sup>勝<sup>放</sup>候越、朝鮮越制御<sup>放</sup>春<sup>放</sup>類<sup>放</sup>の上策<sup>放</sup>登人々心得居候。新館  
 成候天餘威も段々薄<sup>放</sup>ク成り無體<sup>放</sup>勝越取候事難成勢<sup>放</sup>成候へとも威<sup>放</sup>之<sup>放</sup>う<sup>放</sup>ず<sup>放</sup>く<sup>放</sup>成  
 堂留登申所<sup>放</sup>心付無之、此方仕形之不<sup>放</sup>宜<sup>放</sup>ゆへ登<sup>放</sup>の<sup>放</sup>ミ<sup>放</sup>人<sup>放</sup>々<sup>放</sup>存<sup>放</sup>居、竹島一件まで威  
 力<sup>放</sup>恐<sup>放</sup>喝<sup>放</sup>(喝)を以勝を可取との趣<sup>放</sup>候へとも、七年<sup>放</sup>越<sup>放</sup>経<sup>放</sup>之、其事成申さ  
 ぬ<sup>放</sup>の<sup>放</sup>ミ<sup>放</sup>奈<sup>放</sup>ら<sup>放</sup>須<sup>放</sup>、却而御外間<sup>放</sup>防<sup>放</sup>有之様<sup>放</sup>罷<sup>放</sup>成候ゆへ、三十年來者右之風相止<sup>放</sup>唯  
 今<sup>放</sup>而<sup>放</sup>先<sup>放</sup>結<sup>放</sup>構<sup>放</sup>成事<sup>放</sup>候。志<sup>放</sup>かし<sup>放</sup>朝鮮人<sup>放</sup>の<sup>放</sup>才<sup>放</sup>智<sup>放</sup>者<sup>放</sup>日本人<sup>放</sup>之<sup>放</sup>及<sup>放</sup>所<sup>放</sup>阿<sup>放</sup>ら<sup>放</sup>須<sup>放</sup>候へハ、  
 此後御處置不<sup>放</sup>宜<sup>放</sup>候ハ、世話<sup>放</sup>申候。何某<sup>放</sup>乃<sup>放</sup>木<sup>放</sup>刀<sup>放</sup>と申様<sup>放</sup>阿<sup>放</sup>ち<sup>放</sup>ら<sup>放</sup>ち<sup>放</sup>ら<sup>放</sup>成<sup>放</sup>可<sup>放</sup>申  
 恐<sup>放</sup>有之候ゆへ、其所<sup>放</sup>心<sup>放</sup>付<sup>放</sup>可<sup>放</sup>用<sup>放</sup>事<sup>放</sup>候。四、五十年まで者、日本人刀越拔候へ  
 ハ朝鮮人<sup>放</sup>恐<sup>放</sup>懼<sup>放</sup>逃<sup>放</sup>奔<sup>放</sup>以<sup>放</sup>堂<sup>放</sup>候所<sup>放</sup>最早十四、五年<sup>放</sup>も<sup>放</sup>成<sup>放</sup>り<sup>放</sup>可<sup>放</sup>申<sup>放</sup>哉、炭薪取<sup>放</sup>參<sup>放</sup>候

『交隣提醒』について—その5 (呉)

志たけとも越軍官之内一人刀越ぬぎ追散し候も有之候、履霜堅氷に至ると申ハケ様之事候ゆへ有智之人者渡来越慮<sup>○</sup>可申事候。

(三十三) 古来朝鮮之書物、敵国登有之候越敵国登者對體之國、<sup>○</sup>候与申字義候。

<sup>○</sup>此段其心得無之。ケ様御誠信以隣交越被結候へとも、朝鮮爾者耳今怨<sup>○</sup>忘<sup>○</sup>不被申日本越か多起登被書候与相心得、又御國より朝鮮の<sup>○</sup>為<sup>○</sup>海賊を被防候と申事越書述候とて、對州者朝鮮乃藩屏登成候と此方之書物爾書付藩屏登申言葉者家来之主人爾對し申言葉爾<sup>○</sup>心付無之候人有之候。ケ様之事、我ら或粗字之人爾者今以<sup>○</sup>幣難免事<sup>○</sup>候。文学越得与讀分ケ不申候而者、了簡も夫<sup>○</sup>應し申事<sup>○</sup>候者、兎角御國之儀他國と者甚違<sup>○</sup>候事爾て、學問才力乃勝連候人<sup>○</sup>御持不被成候而者、如何程上<sup>○</sup>心越御し被成候而も御隣交之筋難立可有之登存候。學力有之人越御取立被成候義切要之御事<sup>○</sup>御座候。

(三十四) 館中<sup>○</sup>入申候炭薪、年中之数越積り立其分米<sup>○</sup>而入候様<sup>○</sup>致し可然登<sup>○</sup>誤官とも内<sup>○</sup>町人共<sup>○</sup>申談右之町人其旨申上候処、館中津かひ用之薪者<sup>○</sup>毎度水夫とも<sup>○</sup>きらせ<sup>○</sup>被指渡候處、是者御為<sup>○</sup>宜事<sup>○</sup>候と申人も有之候へとも相定り堂留年條乃御賣米さへ未取<sup>○</sup>致し候。朝鮮人<sup>○</sup>候へハ炭薪之代り耳入來候米別条有之間敷とも難申、其上年條御賣米之内<sup>○</sup>以炭薪之代り<sup>○</sup>登号し入來様候<sup>○</sup>有之候而者、異竟不<sup>○</sup>宜事<sup>○</sup>候との儀<sup>○</sup>而右之沙汰止候。此儀朝鮮人方より少<sup>○</sup>も無如才代り之米越入來候<sup>○</sup>致し候而も甚不<sup>○</sup>宜事<sup>○</sup>候。其誤者館中<sup>○</sup>而館守裁判送使僉官御横目不時之御使者<sup>○</sup>始メ、只今迄者炭薪を快<sup>○</sup>遣ひ其餘りハ留館之者共<sup>○</sup>も及候程<sup>○</sup>有之候所<sup>○</sup>、上より何程ツ<sup>○</sup>登御極メ被成、炭薪被相渡候時、定而精<sup>○</sup>其法相立可申候ゆへ、以書付申候時者成程きこへたる様<sup>○</sup>可有之候へとも、被取行候時朝鮮在館<sup>○</sup>之人難義限も奈起事<sup>○</sup>而可有之候。其上年中渡り候炭薪之数大分之事<sup>○</sup>候へ者、兩御関所之改茂手之届キ申事<sup>○</sup>而無之、此外爾<sup>○</sup>も<sup>○</sup>不了簡登申候而もケ様之了簡者また有之間敷候。此儀も眼前之御多め登申所<sup>○</sup>之<sup>○</sup>心付候而、永<sup>○</sup>御為不<sup>○</sup>宜と申所<sup>○</sup>思慮届キ不申候ゆへ候。惣體朝鮮<sup>○</sup>之事者唯今までより利益<sup>○</sup>之事者有之間敷哉与致思慮候ハ、皆<sup>○</sup>不<sup>○</sup>宜候。何登そ唯今迄之通無別条相續<sup>○</sup>候様<sup>○</sup>登可存事<sup>○</sup>御座候。

(三十五) 深見彈右衛門館守之時、朝鮮之女三人館内耳かこひ置候段相知レ、東より催促有之候<sup>○</sup>付、不得已竊<sup>○</sup>二館門出シ候時、館外<sup>○</sup>而捕へ、拷問之上、

『交隣提醒』について—その5 (呉)

斬罪<sub>ニ</sub>行<sub>ハ</sub>ひ、其相手<sub>ヲ</sub>越<sub>テ</sub>被<sub>ル</sub>出<sub>ル</sub>候様<sub>ニ</sub>登<sub>リ</sub>名指<sub>シ</sub>①致<sub>シ</sub>督責<sub>ヲ</sub>厳急<sub>ニ</sub>候所、館守<sub>ヨリ</sub>色々  
 と申者<sub>ヲ</sub>津<sub>シ</sub>、其内<sub>ニ</sub>年月<sub>モ</sub>立<sub>テ</sub>候而<sub>テ</sub>終<sub>ル</sub>、相手<sub>ヲ</sub>不<sub>レ</sub>被<sub>ル</sub>指<sub>出</sub>、事<sub>ヲ</sub>相<sub>濟</sub>申<sub>候</sub>。其節、右館  
 守<sub>ノ</sub>仕<sub>ヲ</sub>宜<sub>キ</sub>處<sub>ニ</sub>置<sub>テ</sub>候<sub>中</sub>而<sub>テ</sub>申<sub>上</sub>たる事<sub>ニ</sub>候。宝永五<sub>ノ</sub>年、崔同知<sub>ト</sub>渡<sub>ル</sub>海<sub>ニ</sub>訳<sub>官</sub>  
 ②被<sub>ル</sub>渡<sub>候</sub>時、白水<sub>源</sub>七<sub>ノ</sub>登<sub>申</sub>もの<sub>ヲ</sub>致<sub>シ</sub>、交<sub>奸</sub>候而<sub>テ</sub>、刑<sub>法</sub>ニ<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>被<sub>ル</sub>行<sub>ハ</sub>との義<sub>ニ</sub>禮<sub>曹</sub>  
 より<sub>ノ</sub>書<sub>簡</sub>持<sub>渡</sub>申<sub>上</sub>候所、己<sub>ニ</sub>彈<sub>右</sub>衛<sub>門</sub>時<sub>ノ</sub>之<sub>ヲ</sub>訳<sub>モ</sub>有<sub>之</sub>事<sub>ニ</sub>候間、訳<sub>官</sub>共<sub>ニ</sub>越<sub>ル</sub>或<sub>ハ</sub>  
 志<sub>カ</sub>り或<sub>ハ</sub>さとし、無<sub>何</sub>事<sub>ヲ</sub>相<sub>濟</sub>候様<sub>ニ</sub>被<sub>成</sub>可<sub>然</sub>と申<sub>筋</sub>多<sub>ク</sub>有<sub>之</sub>候へとも、御<sub>評</sub>議<sub>被</sub>成<sub>候</sub>ハ兼<sub>テ</sub>御<sub>聞</sub>被<sub>成</sub>候所、朝<sub>鮮</sub>より御<sub>國</sub>を怨<sub>ミ</sub>被<sub>居</sub>候事<sub>數</sub>ヶ条<sub>有</sub>之。其内<sub>ニ</sub>  
 ③第一<sub>ニ</sub>交<sub>奸</sub>之<sub>ヲ</sub>相手<sub>ヲ</sub>御<sub>出</sub>シ不<sub>成</sub>候事、第二<sub>ニ</sub>者<sub>ハ</sub>新<sub>館</sub>造<sub>營</sub>之事<sub>ニ</sub>候、重<sub>テ</sub>而<sub>テ</sub>信<sub>使</sub>有<sub>之</sub>候節、  
 江<sub>戸</sub>表<sub>ニ</sub>而<sub>テ</sub>④直<sub>訴</sub>被<sub>致</sub>可<sub>然</sub>と議<sub>論</sub>相<sub>極</sub>居<sub>候</sub>ゆへ、若<sub>モ</sub>西<sub>方</sub>之<sub>ヲ</sub>人<sub>三</sub>使<sub>ニ</sub>被<sub>罷</sub>渡<sub>候</sub>  
 ハ、御<sub>國</sub>之<sub>ヲ</sub>御<sub>難</sub>儀<sub>ニ</sub>可<sub>レ</sub>被<sub>成</sub>候と朴<sub>僉</sub>知<sub>申</sub>たるよし<sub>ニ</sub>候。左<sub>ニ</sub>無<sub>之</sub>候而<sub>モ</sub>、義<sub>理</sub>ヲ  
 以<sub>テ</sub>申<sub>候</sub>時、御<sub>隣</sub>交<sub>之</sub>間<sub>ニ</sub>彼<sub>國</sub>ニ<sub>レ</sub>深<sub>ク</sub>被<sub>禁</sub>候事<sub>ハ</sub>、此<sub>方</sub>之<sub>ヲ</sub>もの<sub>ニ</sub>も其<sub>法</sub>越<sub>犯</sub>  
 シ不<sub>申</sub>様<sub>ニ</sub>登<sub>可</sub>被<sub>仰</sub>不<sub>付</sub>事<sub>ニ</sub>而<sub>テ</sub>、上<sub>之</sub>仰<sub>守</sub>り不<sub>申</sub>、其<sub>法</sub>を犯<sub>シ</sub>候者<sub>盤</sub>、彼<sub>國</sub>同<sub>罪</sub>  
 不<sub>レ</sub>被<sub>行</sub>候共<sub>ニ</sub>相<sub>當</sub>⑤之<sub>ヲ</sub>刑<sub>罪</sub>無<sub>之</sub>候而<sub>テ</sub>不<sub>叶</sub>筈<sub>ノ</sub>事<sub>ニ</sub>候ゆへ、右<sub>源</sub>七<sub>義</sub>彼<sub>國</sub>指<sub>渡</sub>  
 渡<sub>シ</sub>、對<sub>決</sub>之<sub>上</sub>、其<sub>罪</sub>分<sub>明</sub>候ハ、永<sub>ク</sub>流<sub>罪</sub>ニ<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>被<sub>仰</sub>付<sub>之</sub>旨、書<sub>付</sub>ヲ<sub>以</sub>以<sub>テ</sub>訳<sub>官</sub>  
 被<sub>仰</sub>渡<sub>、</sub>書<sub>簡</sub>ハ御<sub>請</sub>取<sub>不</sub>被<sub>成</sub>方<sub>可</sub>然<sub>候</sub>と、御<sub>評</sub>議<sub>相</sub>極<sub>リ</sub>其<sub>通</sub>⑥被<sub>成</sub>候所、源<sub>七</sub>  
 儀<sub>故</sub>有<sub>之</sub>、對<sub>決</sub>ハ無<sub>之</sub>候部<sub>とも</sub>歸<sub>國</sub>之<sub>後</sub>一<sub>門</sub>中<sub>ヨリ</sub>田<sub>舎</sub>被<sub>下</sub>⑦候様<sub>ニ</sub>登<sub>仰</sub>付<sub>候</sub>。  
 其<sub>後</sub>正<sub>徳</sub>年、三<sub>使</sub>被<sub>罷</sub>渡<sub>御</sub>同<sub>行</sub>被<sub>成</sub>候<sub>ニ</sub>付、若<sub>ハ</sub>交<sub>奸</sub>之<sub>事</sub>被<sub>申</sub>出<sub>ル</sub>⑧事<sub>も</sub>  
 可<sub>有</sub>之哉<sub>との</sub>儀<sub>ニ</sub>而<sub>テ</sub>、交<sub>奸</sub>之<sub>記</sub>録<sub>をも</sub>御<sub>持</sub>せ被<sub>成</sub>候様<sub>ニ</sub>江<sub>戸</sub>表<sub>辭</sub>見<sub>之</sub>節<sub>ニ</sub>成<sub>り</sub>候  
 時、右<sub>交</sub>奸<sub>之</sub>儀<sub>果</sub>而<sub>テ</sub>被<sub>申</sub>出<sub>ル</sub>、此<sub>義</sub>弥<sub>同</sub>罪<sub>ニ</sub>可<sub>レ</sub>被<sub>行</sub>との御<sub>返</sub>答<sub>無</sub>之<sub>候</sub>ハ、辭<sub>見</sub>  
 二<sub>も</sub>不<sub>レ</sub>被<sub>出</sub>、公<sub>儀</sub>直<sub>訴</sub>可<sub>レ</sub>被<sub>之</sub>の事、上<sub>々</sub>官<sub>を</sub>以<sub>テ</sub>被<sub>申</sub>候得<sub>とも</sub>、兼<sub>テ</sub>而<sub>テ</sub>其<sub>處</sub>置<sub>被</sub>  
 被<sub>成</sub>被<sub>置</sub>候<sub>事</sub>ニ<sub>而</sub>、公<sub>儀</sub>内<sub>意</sub>被<sub>仰</sub>上<sub>置</sub>候事<sub>ニ</sub>候ゆへ、御<sub>返</sub>答<sub>被</sub>成<sub>候</sub>ハ、右  
 交<sub>奸</sub>之<sub>科</sub>人、先<sub>年</sub>崔<sub>同</sub>知<sub>書</sub>付<sub>ヲ</sub>以<sub>テ</sub>申<sub>渡</sub>候<sub>通</sub>永<sub>々</sub>流<sub>罪</sub>ニ<sub>ハ</sub>可<sub>レ</sub>申<sub>付</sub>候。同<sub>罪</sub>二<sub>何</sub>  
 申<sub>付</sub>との御<sub>返</sub>答<sub>ハ</sub>不<sub>レ</sub>被<sub>成</sub>候。此<sub>義</sub>公<sub>儀</sub>直<sub>訴</sub>被<sub>成</sub>候而<sub>モ</sub>同<sub>罪</sub>とは不<sub>レ</sub>被<sub>仰</sub>出<sub>事</sub>  
 而<sub>テ</sub>、日本<sub>國</sub>大<sub>慶</sub>二<sub>御</sub>渡<sub>候</sub>三<sub>使</sub>、ケ<sub>様</sub>之<sub>微</sub>事<sub>交</sub>儀<sub>及</sub>御<sub>直</sub>訴<sub>候</sub>段、  
 不<sub>可</sub>然<sub>事</sub>登<sub>ハ</sub>存<sub>候</sub>へとも、此<sub>方</sub>より御<sub>留</sub>申<sub>候</sub>而<sub>ハ</sub>、對<sub>州</sub>之<sub>ヲ</sub>もの<sub>ヲ</sub>越<sub>イ</sub>登<sub>候</sub>。私  
 心<sub>ニ</sub>候哉<sub>との</sub>御<sub>疑</sub>可<sub>有</sub>之<sub>候</sub>ゆへ御<sub>勸</sub>申<sub>而</sub>ハ無<sub>之</sub>候へとも、其<sub>段</sub>御<sub>勝</sub>手<sub>次</sub>第<sub>三</sub>  
 被<sub>成</sub>、此<sub>方</sub>より御<sub>取</sub>申<sub>様</sub>成<sub>とも</sub>、又<sub>者</sub>御<sub>馳</sub>走<sub>方</sub>後<sub>頼</sub>被<sub>成</sub>て成<sub>候</sub>とも可<sub>レ</sub>被<sub>成</sub>  
 候と御<sub>返</sub>答<sub>被</sub>成<sub>候</sub>ゆへ、押<sub>而</sub>直<sub>訴</sub>被<sub>致</sub>候事<sub>も</sub>難<sub>成</sub>、夫<sub>より</sub>折<sub>渡</sub>り落<sub>着</sub>、永<sub>々</sub>  
 流<sub>罪</sub>之<sub>約</sub>條<sub>ニ</sub>相<sub>究</sub>り委<sub>細</sub>ハ信<sub>使</sub>記<sub>録</sub>ニ<sub>有</sub>之<sub>候</sub>。其<sub>節</sub>、通<sub>詞</sub>之内<sub>ヨリ</sub>一<sub>人</sub>申<sub>候</sub>ハ、

『交隣提醒』について—その5 (呉)

先年、白水源七朝鮮<sup>ハ</sup>被指渡候事、是程<sup>ニ</sup>無之候而も相済申事<sup>ニ</sup>候を、重キ御取扱<sup>レ</sup>候ハ朝鮮<sup>ノ</sup>乃事情<sup>ト</sup>登<sup>リ</sup>被成座候ゆ<sup>ヘ</sup>候と、存候所<sup>ニ</sup>只今<sup>ニ</sup>成り存候<sup>ヘ</sup>ハ、其節左様<sup>ニ</sup>被成不被置候而ハ此度飛<sup>シ</sup>と動キ申さぬやうに罷成<sup>リ</sup>候ゆ<sup>ヘ</sup>、今日丹<sup>ニ</sup>至り奉感心候と申堂<sup>ル</sup>もの有之候。是も時勢<sup>ト</sup>と辯<sup>ヒ</sup>不申<sup>イ</sup>以川<sup>ト</sup>とても押付置候<sup>ヘ</sup>ハ相済候とのミ存候ゆ<sup>ヘ</sup>之事<sup>ニ</sup>而、今以得<sup>ト</sup>と落着<sup>キ</sup>不申<sup>イ</sup>候人ハ心服無之事<sup>ニ</sup>候。と<sup>ト</sup>かく<sup>ク</sup>義理<sup>ヲ</sup>を正し不申<sup>イ</sup>押付置候而相<sup>ニ</sup>春<sup>ミ</sup>候と存候者<sup>ハ</sup>後來<sup>ノ</sup>之害<sup>ト</sup>越招<sup>キ</sup>可申事<sup>ニ</sup>候。

(三十六) 或裁判<sup>ハ</sup>朴<sup>ハ</sup>尙知<sup>ハ</sup>申候者<sup>ハ</sup>裁判<sup>ノ</sup>之儀<sup>ト</sup>者、日本人<sup>ト</sup>と者<sup>ハ</sup>申奈<sup>ラ</sup>可<sup>ク</sup>常<sup>ニ</sup>朝鮮<sup>ヨリ</sup>扶助<sup>シ</sup>致<sup>シ</sup>被置候ゆ<sup>ヘ</sup>、別而朝鮮<sup>ノ</sup>之事<sup>ト</sup>越大切<sup>ニ</sup>被存<sup>ス</sup>筈<sup>ニ</sup>候處、其儀無之候と天<sup>ノ</sup>朝廷<sup>方</sup>不平<sup>ニ</sup>被存<sup>ス</sup>候と<sup>ト</sup>咄<sup>レ</sup>候ゆ<sup>ヘ</sup>、裁判<sup>ニ</sup>耳<sup>ヲ</sup>扶助<sup>シ</sup>有之<sup>ル</sup>登<sup>リ</sup>申<sup>ハ</sup>如何<sup>ノ</sup>様<sup>ノ</sup>之事<sup>ト</sup>候哉<sup>ト</sup>登<sup>リ</sup>相尋<sup>ヒ</sup>候得<sup>ル</sup>者、年々代<sup>ノ</sup>官方<sup>ハ</sup>木綿<sup>何</sup>束<sup>宛</sup>渡<sup>シ</sup>事<sup>ヲ</sup>知<sup>リ</sup>不被<sup>レ</sup>申<sup>イ</sup>哉<sup>ト</sup>登<sup>リ</sup>笑<sup>フ</sup>申<sup>堂</sup>る<sup>よ</sup>し<sup>ニ</sup>候。如何<sup>ノ</sup>様<sup>ノ</sup>以前<sup>ノ</sup>者<sup>ハ</sup>裁判<sup>ハ</sup>請<sup>ク</sup>取<sup>ル</sup>候處、以<sup>テ</sup>川<sup>ノ</sup>之時<sup>分</sup>より<sup>ノ</sup>之事<sup>ト</sup>候哉、代<sup>ノ</sup>官方<sup>ハ</sup>請<sup>ク</sup>取<sup>ル</sup>上<sup>ニ</sup>之<sup>ノ</sup>御<sup>所</sup>務<sup>ニ</sup>成<sup>リ</sup>、其<sup>ノ</sup>識<sup>知</sup>多<sup>ク</sup>る<sup>もの</sup>無<sup>之</sup>ゆ<sup>ヘ</sup>候。満<sup>多</sup>或<sup>ハ</sup>尙<sup>官</sup>も<sup>ハ</sup>朴<sup>尙</sup>知<sup>ハ</sup>申<sup>候</sup>者、此<sup>以前</sup>者<sup>ハ</sup>尙<sup>官</sup>毎<sup>ニ</sup>禮<sup>下</sup>程<sup>ト</sup>と申<sup>事</sup>有<sup>之</sup>候<sup>所</sup>、唯<sup>今</sup>者<sup>ハ</sup>別<sup>下</sup>程<sup>ト</sup>而<sup>レ</sup>禮<sup>下</sup>程<sup>無</sup>之<sup>候</sup>。古<sup>例</sup>之<sup>通</sup>被<sup>レ</sup>致<sup>ス</sup>事<sup>ト</sup>候<sup>ト</sup>登<sup>リ</sup>申<sup>候</sup>者、朴<sup>尙</sup>知<sup>ハ</sup>申<sup>候</sup>者、<sup>夫</sup>者<sup>ハ</sup>了<sup>簡</sup>違<sup>フ</sup>候<sup>ト</sup>。此<sup>以前</sup>朝鮮<sup>人</sup>より<sup>別</sup>下<sup>程</sup>越<sup>致</sup>し<sup>候</sup>へハ、其<sup>返</sup>禮<sup>登</sup>し<sup>天</sup>禮<sup>下</sup>程<sup>登</sup>以<sup>フ</sup>事<sup>ヲ</sup>を<sup>以</sup>堂<sup>し</sup>候<sup>所</sup>、其<sup>後</sup>相<sup>止</sup>候<sup>ト</sup>。今<sup>乃</sup>引<sup>判</sup>事<sup>ニ</sup>銀<sup>ヲ</sup>賜<sup>リ</sup>候<sup>ハ</sup>禮<sup>下</sup>程<sup>之</sup>か<sup>わ</sup>り<sup>候</sup>登<sup>答</sup>申<sup>多</sup>る<sup>よ</sup>し<sup>ニ</sup>候。此<sup>外</sup>茂<sup>今</sup>之<sup>尙</sup>官<sup>中</sup>請<sup>取</sup>候<sup>麴</sup>米<sup>ト</sup>申<sup>も</sup>、以前<sup>者</sup>無<sup>之</sup>候<sup>處</sup>、御<sup>送</sup>使<sup>御</sup>借<sup>被</sup>成<sup>候</sup>時、何<sup>送</sup>使<sup>之</sup>麴<sup>米</sup>候<sup>登</sup>申、代<sup>官</sup>方<sup>ハ</sup>持<sup>來</sup>候<sup>越</sup>代<sup>官</sup>方<sup>之</sup>海<sup>東</sup>も<sup>麴</sup>米<sup>ト</sup>申<sup>事</sup>無<sup>之</sup>候<sup>へ</sup>とも、扱<sup>者</sup>請<sup>取</sup>之<sup>ま</sup>へ<sup>ノ</sup>物<sup>登</sup>相<sup>聞</sup>候<sup>と</sup>申、夫<sup>より</sup>申<sup>掛</sup>請<sup>取</sup>候<sup>而</sup>、最<sup>早</sup>三<sup>十</sup>年<sup>來</sup>之<sup>常</sup>例<sup>ニ</sup>成<sup>リ</sup>候<sup>ト</sup>。是<sup>者</sup>役<sup>人</sup>とも、能<sup>存</sup>知<sup>請</sup>取<sup>候</sup>とも、其<sup>身</sup>之<sup>利</sup>益<sup>ヲ</sup>致<sup>シ</sup>置<sup>タ</sup>る<sup>事</sup>登<sup>相</sup>聞<sup>へ</sup>、惣<sup>体</sup>朝鮮<sup>ノ</sup>乃<sup>事</sup>年<sup>越</sup>歴<sup>候</sup>付、古<sup>式</sup>を<sup>取</sup>失<sup>ヒ</sup>候<sup>事</sup>有<sup>之</sup>段、自<sup>然</sup>之<sup>理</sup>候<sup>ゆ</sup>へ、朝鮮<sup>ノ</sup>之事<sup>ト</sup>越<sup>取</sup>扱<sup>候</sup>人<sup>者</sup>随<sup>分</sup>慥<sup>シ</sup>置<sup>可</sup>申<sup>事</sup>候<sup>ト</sup>。

(三十七) 朴尙知事、其節朴同知、安同知同然<sup>前</sup>耳<sup>事</sup>越<sup>成</sup>シ、御用<sup>ニ</sup>立<sup>候</sup>と申<sup>者</sup>の<sup>ニ</sup>而<sup>レ</sup>訳<sup>官</sup>中<sup>之</sup>三<sup>傑</sup>と申<sup>所</sup>朴<sup>同</sup>知<sup>事</sup>者<sup>ハ</sup>日本<sup>人</sup>こそ<sup>り</sup>て<sup>申</sup>者<sup>ニ</sup>而、朴<sup>尙</sup>知<sup>事</sup>ハ<sup>人</sup>ニ<sup>より</sup>譽<sup>シ</sup>有<sup>之</sup>又<sup>人</sup>ニ<sup>より</sup>く<sup>ミ</sup>申<sup>者</sup>も<sup>有</sup>之<sup>候</sup>。元<sup>來</sup>、朴<sup>同</sup>知<sup>者</sup>訳<sup>官</sup>中<sup>殊</sup>之<sup>外</sup>、崇<sup>敬</sup>致<sup>シ</sup>候<sup>人</sup>而、わ<sup>可</sup>起<sup>訳</sup>官<sup>奈</sup>と<sup>者</sup>猥<sup>リ</sup>丹<sup>咄</sup>し<sup>も</sup>致<sup>シ</sup>申<sup>さ</sup>ぬ<sup>人</sup>品<sup>ニ</sup>而<sup>有</sup>之<sup>多</sup>る<sup>よ</sup>し<sup>ニ</sup>候。惣<sup>体</sup>訳<sup>官</sup>之<sup>善</sup>惡<sup>ヲ</sup>を見<sup>申</sup>者<sup>ハ</sup>彼<sup>国</sup>之<sup>人</sup>之<sup>敬</sup>ひ<sup>憚</sup>り<sup>候</sup>人<sup>者</sup>行<sup>義</sup>端<sup>直</sup>

『交隣提醒』について—その5 (呉)

乃人登知り、彼國之志たしみちか川起候者 性質溫柔之飛とと知り、彼人之  
 向背を以其人之下高越定可申(御)事而、是その大要たる邊く候。日本人之議論  
 斗二面者信用致しかたく候。

(三十八) 送使僉官五日次請取候節、鱈青魚類一枚不足以堂し候而も、役  
 人とも禮房戸房と相争ひ、見苦敷事も有之候。惣休他方使者參(り)候(と)  
 ①先よりの仕形宜く候へハ丁寧成事と存し、先より仕形不<sub>レ</sub>宜候へ者、疎末  
 成事と存、夫のミ爾て相止ミ此方より飛や角可申道理者無之事勿論候へ者、  
 朝鮮之事も左之通有之度事候へとも、朝鮮之風儀下々之者とも別而廉恥之心  
 うすく利を貪り、馳走乃一事而も朝鮮方東萊之心爾者、別事無之候所、中  
 間而<sub>レ</sub>其数を減し、其品を阿らく致し候事候ゆへ、此方より何登も不申候ハ  
 行ハ取々成(り)可申との恐も有之。其節成(り)候て者、何分之違却有之  
 茂難斗候ゆへ、役人ともより右之こと古式を廻満へ相争(り)候も志可登不仕  
 事奈可ら却而満ハ奈流筋も有之候間、其内甚儀者被禁、其他者先唯今迄  
 之仕來被成置候も可然と存候。日本人之覚違(り)昔者ケ様無之候、段々  
 馳走之品越悪敷致し候登口ハ二申、弥左様候哉否之儀、何事以考可申様も無  
 之。其訳不慥候へ者 彼方へ可被仰達様も無之候、付、以前之儀者可被成様も  
 無之候。向後者彼方馳走之叮嚀・不<sub>レ</sub>丁寧以隣交之成信・不誠信相知、異邦  
 之事情を察し候(者)一ツ之助二候間、送使(目)僉官之記録・膳部之次越も委細  
 書付候様と之事而、宝永二年以来、朝鮮(目)罷渡(り)候人銘ハ記録仕立、指上  
 候様ニ被仰付候。此儀以前心付無之(人)ハ無用之事越被仰付置候様ニ存候事  
 候ゆへ、此趣書付置候事御座候。但送使僉官(目)罷渡(り)候人記録被仰付候主意  
 越取失ひ、他人之致し來候記録越見合、自分之記録越相認、不時之事記し置不  
 申候而不叶儀越却而記録書載不仕候。此以前西館(目)居候人火災逢候時、東萊  
 より木綿被送候。是等者非常之事而(別而)記録不申候而不叶事御座候所、千規無  
 之候とて書付置不申候ゆへ、追而記録書入候様登被仰付候。ケ様之儀、行々  
 可有之候間、送使僉官歸國之節、崇信(目)廳之内一人記録吟味之義被仰付置、  
 若記し可申事越記置不申候ハ、追而記録二書入候様被仰付可燃候。

(三十九) 朝鮮丸升之入、三升五合と御勘定所之算用別二相極り居り候。是者  
 其節之御支配久遠を被兼候結構成御了簡と奉存候。此後御為登号し眼前之微益

越見、万一実数之通算用相立候様<sub>ニ</sub>と被仰付候ハ<sub>ハ</sub>誠<sub>ニ</sub>大害越招キ、是又落着御為<sub>ニ</sub>罷成間敷候間、若も左様之所見申上候人有之候ハ<sub>ハ</sub>急度御叱<sub>リ</sub>責可被成事<sub>ニ</sub>候。尤此趣之儀者先年被仰付候而、斛一件記録之跋文<sub>ニ</sub>も書載仕置候。唯今館内<sub>ニ</sub>而諸僉官を初メ皆々朝鮮之丸升を用<sub>ヒ</sub>候様<sub>ニ</sub>成り候者、三升五合<sub>ニ</sub>越一丸登申候者六十年以來御勘定所之算用前<sub>ニ</sub>にて彼方丸升之実数<sub>ニ</sub>而無之と申儀、人<sub>々</sub>存不申。元來朝鮮之丸升者京ます三升五合<sub>ニ</sub>相當り候と覚居、多<sub>ク</sub>盤朝鮮人より何品<sub>ニ</sub>而も請取候節不案内成者ハ一丸登申候を京升丹<sub>ニ</sub>て貳升五合者かり請取候様<sub>ニ</sub>有之。如可敷候間、金物者御国より被遣、丸升者、春<sub>ニ</sub>龜竹右衛門<sub>ニ</sub>被仰付、新規<sub>ニ</sub>出来<sub>ニ</sub>致し、東來火印有之候丸升を写し、向後盤京升を相止<sub>メ</sub>右之丸升を以、館内<sub>ニ</sub>ふり取仕候様被仰付可然者申上、其通<sub>ニ</sub>相成<sub>ニ</sub>たる事<sub>ニ</sub>候。竹右衛門<sub>ニ</sub>被仰付<sub>候</sub>、丸升新規<sub>ニ</sub>出来<sub>ニ</sub>致<sub>シ</sub>候訳者、兎角一斛之外京式升三合請取候事、彼<sub>ニ</sub>国<sub>ニ</sub>之人加升と申<sub>候</sub>燭<sub>ニ</sub>へ一度者<sub>ハ</sub>加満<sub>シ</sub>起事可有之候。其節<sub>ハ</sub>丸升<sub>ニ</sub>而十五杯量り請取可申と申<sub>候</sub>外無之候所、古來彼方より火印致シ來候代官方之丸升古ク損候間、任譯江申段、新規<sub>ニ</sub>拵<sub>ニ</sub>へ候様<sub>ニ</sub>との事<sub>ニ</sub>付、竹右衛門申段候へハ存之外、容易<sub>ニ</sub>出来<sub>ニ</sub>致<sub>シ</sub>候ゆへ、後證<sub>ニ</sub>の爲<sub>ニ</sub>候間、古キ丸升<sub>々</sub>も太切耳致し代官方之蔵<sub>ニ</sub>入置候様<sub>ニ</sub>と被仰付多る事<sub>ニ</sub>候。

(四十) 延享之節<sub>ハ</sub>東萊<sub>ニ</sub>釜山<sub>ニ</sub>被罷出候儀、古來より禮式<sub>ニ</sub>候處、封進宴席者肅拜有之事<sub>ニ</sub>候ゆへ、東萊<sub>ハ</sub>釜山<sub>ニ</sub>不被申事者無之候へとも、茶禮上船宴ハ近來や<sub>ハ</sub>とも致し候へハ釜山壹人而相濟候様<sub>ニ</sub>無<sub>キ</sub>、釜官中も一つ早く相濟候こといそぎ、又ハ乾物(コンブリ)また<sub>ハ</sub>下行<sub>ニ</sub>候へハ勝手<sub>ニ</sub>成り候登存、賤<sub>ニ</sub>所見<sub>ニ</sub>少<sub>ク</sub>之利益<sub>ニ</sub>ニ心掛、下行<sub>ニ</sub>而相濟候様<sub>ニ</sub>致し候。ケ様<sub>ニ</sub>候而者後來<sub>ニ</sub>成<sub>リ</sub>候<sub>ニ</sub>東萊出<sub>參</sub>無之様<sub>ニ</sub>罷成<sub>候</sub>而可有之候。毎度被加點檢東萊出<sub>參</sub>有之様<sub>ニ</sub>僉官中禮式を相争<sub>ヒ</sub>可申旨被仰付、不得已宴享無之候節者<sub>ハ</sub>排<sub>床</sub>ニ而相濟、下行<sub>ニ</sub>而請被候事相止候様<sub>ニ</sub>登御下知可被成事<sub>ニ</sub>候。捷解新語を見申候へハ、古館之時之事登相見<sub>ハ</sub>宴享之節<sub>ハ</sub>東萊<sub>ニ</sub>釜山<sub>ニ</sub>禮式之通宴席被罷出候所、其節<sub>ハ</sub>正官病氣<sub>ニ</sub>托し宴席<sub>ニ</sub>罷出間敷<sub>ト</sub>申候ゆへ、訳官<sub>々</sub>色<sub>々</sub>と説論<sub>シ</sub>候言葉相見<sub>ハ</sub>居申候。其節<sub>ハ</sub>迄者何成とも朝鮮人<sub>ニ</sub>無理越申掛<sub>候</sub>越<sub>手</sub>柄<sub>ノ</sub>様<sub>ニ</sub>覺たる風儀<sub>ニ</sub>候ゆへ、如何様<sub>ニ</sub>左様之事<sub>ニ</sub>可有之と存候。左候へハ近來東萊出<sub>參</sub>不被致候様<sub>ニ</sub>成とも、本<sub>ハ</sub>此方より付<sub>ケ</sub>申堂<sub>ニ</sub>癡登存候。此外<sub>ニ</sub>茂<sub>ク</sub>不<sub>可</sub>宜<sub>ニ</sub>事越仕出し、此方より付<sub>ケ</sub>申たる癡数多有



之様<sub>ニ</sub>相見<sub>ル</sub>へ氣<sub>ニ</sub>毒成事共<sub>ニ</sub>御座候。

(四十一) 僉官<sub>ノ</sub>之名代<sub>ヲ</sub>を遣候事、此<sub>ハ</sub>已前<sub>ニ</sub>一旦<sub>ハ</sub>被禁候段、承及候所、近年者<sub>ハ</sub>飛<sub>ト</sub>登名代<sub>ノ</sub>之儀、相願<sub>ニ</sub>被指許候。ケ様<sub>ノ</sub>之義も御国者<sub>ハ</sub>一定法無<sub>シ</sub>之、氣毒成事<sub>ニ</sub>御座候。

(四十二) 國急又者<sub>ハ</sub>救災<sub>ト</sub>と申候而、彼方<sub>ヨリ</sub>米越<sub>レ</sub>被贈、書簡<sub>ノ</sub>之文句者<sub>ハ</sub>彼方<sub>ヨリ</sub>被心付候事<sub>ノ</sub>之様<sub>ニ</sub>も相見<sub>ル</sub>候得とも、実<sub>ハ</sub>此方<sub>ヨリ</sub>内意<sub>ヲ</sub>越<sub>レ</sub>被仰然、其通<sub>ニ</sub>成堂<sub>ル</sub>事<sub>ニ</sub>而、憐<sub>ニ</sub>を異国爾<sub>ニ</sub>御乞<sub>レ</sub>被成候儀、満古<sub>ト</sub>と耳可恥<sub>シ</sub>之事<sub>ニ</sub>御座候。三十年來者<sub>ハ</sub>ケ様<sub>ノ</sub>之儀少<sub>シ</sub>〇<sub>ト</sub>茂無<sub>シ</sub>之候。向後<sub>ハ</sub>弥無<sub>シ</sub>之様<sub>ニ</sub>有<sub>ル</sub>之度事<sub>ニ</sub>御座候。

(四十三) 朝鮮<sub>ヲ</sub>を禮義<sub>ノ</sub>之邦<sub>ト</sub>奈<sub>リ</sub>登、唐<sub>ヨリ</sub>申候者、外<sub>ノ</sub>之夷狄<sub>者</sub>や<sub>ハ</sub>とも致<sub>シ</sub>候へハ唐<sub>ニ</sub>二<sub>キ</sub>叛<sub>ル</sub>申候所、申候所、朝鮮<sub>者</sub>代々<sub>ハ</sub>藩王<sub>ノ</sub>之格<sub>ヲ</sub>越<sub>シ</sub>〇<sub>ト</sub>不被<sub>レ</sub>申、事<sub>ハ</sub>大<sub>ニ</sub>禮義<sub>ノ</sub>正<sub>シ</sub>候<sub>ト</sub>の事<sub>ノ</sub>之禮義<sub>ハ</sub>乃<sub>ハ</sub>邦<sub>ニ</sub>登<sub>ル</sub>申堂<sub>ル</sub>事<sub>ニ</sub>而、事<sub>ノ</sub>之禮義<sub>者</sub>かな<sub>ハ</sub>ひ多<sub>ク</sub>〇<sub>ト</sub>登<sub>ル</sub>申<sub>ル</sub>所<sub>ニ</sub>ハ無<sub>シ</sub>之候。然<sub>レ</sub>所<sub>ニ</sub>朝鮮<sub>人</sub>之壁<sub>ニ</sub>唾<sub>シ</sub>、人<sub>ノ</sub>之前<sub>ニ</sub>而<sub>ハ</sub>溺<sub>ル</sub>器<sub>ヲ</sub>を用<sub>フ</sub>〇<sub>ト</sub>候類<sub>ヲ</sub>を見候而、禮義<sub>ノ</sub>之邦<sub>ニ</sub>不<sub>レ</sub>似<sub>レ</sub>合<sub>ル</sub>仕<sub>ル</sub>候<sub>ト</sub>と申者<sub>ハ</sub>禮義<sub>ハ</sub>乃<sub>ハ</sub>邦<sub>ニ</sub>登<sub>ル</sub>申本語<sub>ヲ</sub>越<sub>シ</sub>簡<sub>ニ</sub>不<sub>レ</sub>付<sub>ル</sub>言葉<sub>ニ</sub>而候。勿論<sub>ハ</sub>朝鮮<sub>者</sub>古式<sub>ヲ</sub>を考<sub>ヘ</sub>中華<sub>ノ</sub>禮法<sub>ヲ</sub>を取<sub>リ</sub>〇<sub>ト</sub>候事、外<sub>ノ</sub>之夷狄<sub>者</sub>満<sub>タ</sub>ざ<sub>リ</sub>候ゆへ、日本人<sub>ノ</sub>之曾<sub>レ</sub>而<sub>ハ</sub>心付<sub>ル</sub>無<sub>シ</sub>之事<sub>ノ</sub>多<sub>ク</sub>〇<sub>ト</sub>所、文盲<sub>ナル</sub>人<sub>者</sub>おかし<sub>ク</sub>起<sub>ル</sub>事<sub>ノ</sub>之様<sub>ニ</sub>存<sub>ル</sub>候。誠<sub>ニ</sub>耳可恥<sub>シ</sub>之事<sub>ニ</sub>御座候。ケ様<sub>ノ</sub>之處、心<sub>ヲ</sub>越<sub>シ</sub>可<sub>ク</sub>用<sub>フ</sub>事<sub>ニ</sub>御座候。

(四十四) 御買米<sub>ノ</sub>之儀、三十年以前<sub>ヨリ</sub>式<sub>ノ</sub>拾<sub>ケ</sub>年程<sub>ノ</sub>之間、未<sub>レ</sub>取<sub>ル</sub>二<sub>万</sub>俵<sub>余</sub>及<sub>ヒ</sub>埒<sub>明</sub>不<sub>レ</sub>申。其間<sub>ニ</sub>代官<sub>ノ</sub>より未<sub>レ</sub>取<sub>ル</sub>を能<sub>ク</sub>取<sub>リ</sub>立<sub>テ</sub>候<sub>ト</sub>登<sub>ル</sub>御座候而<sub>ハ</sub>御褒<sub>美</sub>越<sub>レ</sub>蒙<sub>リ</sub>候<sub>ト</sub>も有<sub>ル</sub>之。又<sub>ハ</sub>未<sub>レ</sub>取<sub>ル</sub>取<sub>リ</sub>立<sub>テ</sub>果<sub>敢</sub>被<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>申候<sub>ト</sub>とて首尾<sub>ハ</sub>不<sub>レ</sub>宜<sub>シ</sub>も有<sub>ル</sub>之候へとも兎<sub>角</sub>未<sub>レ</sub>取<sub>ル</sub>之數<sub>ヲ</sub>減<sub>シ</sub>不<sub>レ</sub>申候ゆへ、未<sub>レ</sub>取<sub>ル</sub>本前<sub>ノ</sub>之差別<sub>ヲ</sub>奈<sub>ク</sub>正月<sub>ヨリ</sub>極<sub>メ</sub>月迄<sub>ハ</sub>館内<sub>ニ</sub>入<sub>ル</sub>候<sub>ト</sub>數<sub>ヲ</sub>十<sub>ケ</sub>年<sub>ノ</sub>之間<sub>ニ</sub>一<sub>ケ</sub>年<sub>ノ</sub>何<sub>レ</sub>程<sub>ツ</sub>ニ<sub>ハ</sub>二<sub>候</sub>哉。考<sub>ヘ</sub>見<sub>ル</sub>候様<sub>ニ</sub>登<sub>ル</sub>御勘<sub>定</sub>所<sub>ニ</sub>被<sub>レ</sub>仰<sub>ル</sub>時<sub>ハ</sub>御吟<sub>味</sub>有<sub>ル</sub>之候<sub>ト</sub>処、十<sub>ケ</sub>年<sub>ノ</sub>之間、以<sub>テ</sub>川<sub>ノ</sub>之<sub>ノ</sub>年<sub>ニ</sub>而<sub>も</sub>大<sub>ニ</sub>形<sub>ハ</sub>一<sub>万</sub>六<sub>千</sub>俵<sub>之内</sub>ニ<sub>ハ</sub>入<sub>ル</sub>候<sub>ト</sub>得<sub>ル</sub>とも壹<sub>万</sub>六<sub>千</sub>俵<sub>より</sub>上<sub>ニ</sub>立<sub>テ</sub>出<sub>ル</sub>候事<sub>者</sub>一<sub>年</sub>も無<sub>シ</sub>之。左<sub>候</sub>へハ未<sub>レ</sub>取<sub>ル</sub>と存<sub>シ</sub>請<sub>取</sub>候<sub>ト</sub>へとも本前<sub>ヲ</sub>を夫<sub>レ</sub>連<sub>テ</sub>け<sub>テ</sub>減<sub>シ</sub>、本前<sub>ニ</sub>登<sub>ル</sub>存<sub>シ</sub>、受<sub>取</sub>候<sub>ト</sub>へハ未<sub>レ</sub>取<sub>ル</sub>者<sub>ハ</sub>名<sub>ヲ</sub>付<sub>ケ</sub>候。米<sub>夫</sub>た<sub>け</sub>不<sub>レ</sub>入<sub>ル</sub>來、彼方<sub>ニ</sub>ハ<sub>ハ</sub>以<sub>テ</sub>川<sub>と</sub>ても壹<sub>万</sub>六<sub>千</sub>俵<sub>ヲ</sub>を以<sub>テ</sub>、或者<sub>ハ</sub>未<sub>レ</sub>取<sub>ル</sub>登<sub>ル</sub>名<sub>ヲ</sub>付<sub>ケ</sub>持<sub>來</sub>〇<sub>ト</sub>、或者<sub>ハ</sub>本前<sub>と</sub>申、持<sub>來</sub>候事<sub>ニ</sub>候<sub>ト</sub>を此方<sub>ニ</sub>者<sub>ハ</sub>其<sub>レ</sub>心<sub>ヲ</sub>付<sub>ケ</sub>無<sub>シ</sub>、朝鮮<sub>人</sub>乃<sub>ハ</sub>侮<sub>ル</sub>弄<sub>ヲ</sub>を請<sub>ケ</sub>朝<sub>三</sub>暮<sub>四</sub>之内<sub>ニ</sub>而<sub>ハ</sub>年<sub>ヲ</sub>越<sub>シ</sub>暮<sub>シ</sub>多<sub>ク</sub>〇<sub>ト</sub>候。御商<sub>賣</sub>之<sub>ノ</sub>方<sub>ニ</sub>も此<sub>レ</sub>心<sub>ヲ</sub>持<sub>テ</sub>必<sub>ズ</sub>可<sub>ク</sub>有<sub>ル</sub>之<sub>ノ</sub>事<sub>ニ</sub>候。元<sub>來</sub>右<sub>三</sub>十年<sub>以前</sub>より御買<sub>米</sub>耳<sub>未</sub>取<sub>ル</sub>之<sub>ノ</sub>出<sub>來</sub>候<sub>ト</sub>訳<sub>ハ</sub>、去<sub>ル</sub>丁<sub>丑</sub>年<sub>只</sub>今<sub>より</sub>三<sub>十三</sub>年<sub>以前</sub>、朝鮮<sub>國</sub>大<sub>ニ</sub>飢<sub>饉</sub>候<sub>ト</sub>ゆへ御買<sub>米</sub>越<sub>レ</sub>相<sub>止</sub>メ<sub>昔</sub>乃<sub>こと</sub>木<sub>綿</sub>を<sub>ハ</sub>入<sub>ル</sub>候様<sub>ニ</sub>と都<sub>より</sub>指<sub>圖</sub>有<sub>ル</sub>之、各<sub>館</sub>より木<sub>綿</sub>を<sub>ハ</sub>東<sub>來</sub>納<sub>候</sub>二<sub>付</sub>、木<sub>綿</sub>を<sub>ハ</sub>入<sub>ル</sub>可<sub>ク</sub>申<sub>ト</sub>之<sub>ノ</sub>事<sub>ニ</sub>候<sub>ト</sub>へとも、日本人<sub>ノ</sub>請<sub>取</sub>可<sub>ク</sub>申<sub>様</sub>無<sub>シ</sub>之、

其訳都へ相達し、翌戊寅年(㊤)前之通(㊤)米越入、前年、丑之分も米而入候様<sub>と</sub>登指圖有之候<sub>付</sub>、丁丑年各官より入來候木綿、東萊庫<sub>に</sub>有之候を、其後京商安錫徴と申者、引請、米<sub>を</sub>致シ館<sub>に</sub>入候様<sub>と</sub>東萊より被申付候所、安錫徴方にて不埒<sub>に</sub>成(㊤)候より丁丑一ヶ年分入來可申米無之、夫より段々未収<sub>に</sub>成(㊤)たる事<sub>候</sub>。右丁丑年飢饉<sub>に</sub>付、木綿を各官より納メさせら連候より致、違却<sub>に</sub>未収<sub>に</sub>成(㊤)候<sub>の</sub>儀<sub>ハ</sub>其砌朴僉知日本人<sub>に</sub>咄<sub>シ</sub>申<sub>上</sub>る事<sub>候</sub>へとも朝鮮人之申分<sub>候</sub>ゆへ、弥実事<sub>候</sub>哉否登(申)人<sub>ハ</sub>疑候事<sub>御座</sub>候得とも、三十年彼国之書キ物二相見へ、前後之様子を以考見候へハ、朴僉知申分<sub>成</sub>程実事<sub>に</sub>而。朝鮮人之申候事、元來虚偽多<sub>ク</sub>候へとも其人其事勢<sub>ヲ</sub>以能<sub>ク</sub>察し不申候ハ、必<sub>ハ</sub>春<sub>ニ</sub>真実<sub>なる</sub>成事<sub>越</sub>虚偽<sub>に</sub>登心得、虚偽なる事を真実<sub>に</sub>登心得申候事可有之<sub>候</sub>。此事切要なる事<sub>候</sub>。三十年以前より之未収者、滝六郎右衛門裁判之時、東萊<sub>ハ</sub>直<sub>ニ</sub>申達、一旦者皆済有之候所、近來ハ又<sub>ハ</sub>未収<sub>に</sub>致<sub>シ</sub>出<sub>來</sub>候。心越<sub>ニ</sub>可用事<sub>候</sub>。

(四十五) 木綿四百束之公作米壹万六千俵二成り候。其古、看品之代り<sub>ニ</sub>入來候千百束之木綿、皆<sub>ハ</sub>八升木長<sub>ハ</sub>四十尺有之候<sub>を</sub>入來候所、其後段々木綿悪敷成(㊤)五升木<sub>長</sub>三十五尺有之候<sub>を</sub>入來候<sub>付</sub>、點退登申候而、是越撰除<sub>ケ</sub>請取不申、雜事<sub>も</sub>争<sub>ヒ</sub>論<sub>止</sub>不申、彼方甚難儀<sub>に</sub>存、天啓甲子時、木花不出來<sub>候</sub>候而、宜キ木綿才覚難成候間、何登<sub>そ</sub>五升木三十五尺有之<sub>候</sub>越代<sub>ニ</sub>官方<sub>ニ</sub>請取、重而木花<sub>宜</sub>候節、前<sub>ハ</sub>之通<sub>ニ</sub>之木綿相渡候様<sub>に</sub>彼成<sub>彼</sub>下候<sub>へ</sub>者書簡<sub>ヲ</sub>以懇望<sub>ニ</sub>彼致候事も有之<sub>候</sub>。折節千百束余之内<sub>ニ</sub>米<sub>を</sub>換<sub>シ</sub>申<sub>上</sub>との相談<sub>初</sub>り、此分米<sub>を</sub>換<sub>シ</sub>候へハ残りハ五升米三十尺有之<sub>候</sub>越渡<sub>シ</sub>ても懇望<sub>ニ</sub>致<sub>シ</sub>點退<sub>ニ</sub>候事も無之、便利なる事<sub>候</sub>登彼存、悦候而彼指許<sub>シ</sub>登る勢<sub>に</sub>登相見<sub>へ</sub>申候。其砌<sub>ま</sub>て者乱後<sub>之餘</sub>威<sub>有</sub>之、日本人<sub>乃</sub>勢強<sub>ク</sub>彼国之恐<sub>モ</sub>甚<sub>キ</sub>時分<sub>候</sub>ゆへ、日本人<sub>之</sub>右木綿善惡之事<sub>付</sub>、目越<sub>以</sub>からし、色越阿かめ大聲<sub>を</sub>阿<sub>サ</sub>、訳官共<sub>を</sub>責付候事<sub>を</sub>越<sub>ニ</sub>彼国<sub>之</sub>書物<sub>ハ</sub>大肆<sub>に</sub>咆哮<sub>と</sub>書付有之候。咆哮<sub>と</sub>者、虎之本由<sub>類</sub>事<sub>に</sub>而、此字越<sub>以</sub>日本人<sub>之</sub>怒り候<sub>體</sub>を表<sub>シ</sub>候<sub>畜</sub>生<sub>に</sub>譬<sub>へ</sub>候<sub>言</sub>葉<sub>ニ</sub>而<sub>わ</sub>口爾<sub>者</sub>候得とも其時迄<sub>者</sub>日本人<sub>者</sub>虎<sub>の</sub>こと<sub>く</sub>恐<sub>シ</sub>起<sub>もの</sub>登<sub>彼</sub>国<sub>之</sub>人心<sub>得</sub>居<sub>候</sub>段、此文<sub>字</sub>而<sub>相</sub>知<sub>居</sub>申候。ヶ様<sub>之</sub>勢<sub>二</sub>候<sub>ゆ</sub>へ四百束<sub>之</sub>木綿<sub>に</sub>代<sub>り</sub>、惡木<sub>請</sub>取<sub>渡</sub>し何<sub>之</sub>屋<sub>が</sub>満<sub>シ</sub>起<sub>事</sub>も無<sub>之</sub>候<sub>越</sub>悦<sub>彼</sub>申<sub>答</sub>之<sub>事</sub>候。夫より最早<sub>六十八九年</sub>相立<sub>チ</sub>、今<sub>ニ</sub>而<sub>者</sub>乱後<sub>之餘</sub>威<sub>も</sub>無<sub>之</sub>、日本人<sub>者</sub>年々<sub>柔弱</sub>なり<sub>彼</sub>国<sub>之</sub>恐<sub>ハ</sub>年々<sub>薄</sub>ク、其上<sub>二</sub>三十年<sub>以</sub>

『交隣提醒』について—その5 (呉)

来者<sup>ハ</sup>五升木三十五尺之内<sup>ニ</sup>價<sup>價(カツブイ)</sup>布同然<sup>ノ</sup>之木綿<sup>木綿</sup>入<sup>入</sup>來<sup>來</sup>而<sup>而</sup>も此<sup>此</sup>已<sup>以</sup>前<sup>前</sup>咆<sup>咆</sup>哮<sup>哮</sup>致<sup>致</sup>し候<sup>候</sup>模様も無<sup>無</sup>之<sup>之</sup>、少<sup>少</sup>①ハ相争<sup>相争</sup>②候<sup>候</sup>而<sup>而</sup>も落着<sup>落着</sup>ハ請<sup>請</sup>取<sup>取</sup>置<sup>置</sup>候<sup>候</sup>様<sup>様</sup>有<sup>有</sup>之<sup>之</sup>候<sup>候</sup>。彼<sup>彼</sup>國<sup>國</sup>只<sup>只</sup>今<sup>今</sup>之<sup>之</sup>了<sup>了</sup>簡<sup>簡</sup>者<sup>者</sup>公<sup>公</sup>作<sup>作</sup>米<sup>米</sup>越<sup>越</sup>相<sup>相</sup>止<sup>止</sup>メ、千<sup>千</sup>百<sup>百</sup>束<sup>束</sup>餘<sup>餘</sup>之<sup>之</sup>木綿<sup>木綿</sup>之<sup>之</sup>な<sup>な</sup>し五升木三十五尺<sup>五升木三十五尺</sup>之<sup>之</sup>木綿<sup>木綿</sup>而<sup>而</sup>相<sup>相</sup>濟<sup>濟</sup>度<sup>度</sup>と被<sup>被</sup>存<sup>存</sup>筈<sup>筈</sup>之<sup>之</sup>事<sup>事</sup>候<sup>候</sup>。殊<sup>殊</sup>此<sup>此</sup>方<sup>方</sup>より被<sup>被</sup>遣<sup>遣</sup>候<sup>候</sup>看<sup>看</sup>品<sup>品</sup>之内<sup>之内</sup>、銅<sup>銅</sup>・蠟<sup>蠟</sup>・胡<sup>胡</sup>椒<sup>椒</sup>・丹<sup>丹</sup>木<sup>木</sup>之<sup>之</sup>類<sup>類</sup>、国家<sup>国家</sup>之<sup>之</sup>経<sup>経</sup>用<sup>用</sup>何<sup>何</sup>之<sup>之</sup>益<sup>益</sup>も無<sup>無</sup>之<sup>之</sup>、其<sup>其</sup>價<sup>價</sup>登<sup>登</sup>して違<sup>違</sup>ひハ私<sup>私</sup>貿<sup>貿</sup>易<sup>易</sup>之<sup>之</sup>直<sup>直</sup>段<sup>段</sup>より③者<sup>者</sup>十<sup>十</sup>倍<sup>倍</sup>而<sup>而</sup>、朝鮮<sup>朝鮮</sup>之<sup>之</sup>大<sup>大</sup>なる損<sup>損</sup>候<sup>候</sup>と、彼<sup>彼</sup>国<sup>國</sup>之<sup>之</sup>書<sup>書</sup>物<sup>物</sup>書<sup>書</sup>付<sup>付</sup>有<sup>有</sup>之<sup>之</sup>候<sup>候</sup>へハ、元<sup>元</sup>来<sup>来</sup>看<sup>看</sup>品<sup>品</sup>を<sup>を</sup>も止<sup>止</sup>メ申<sup>申</sup>度<sup>度</sup>筈<sup>筈</sup>之<sup>之</sup>事<sup>事</sup>候<sup>候</sup>所<sup>所</sup>、増<sup>増</sup>而<sup>而</sup>木<sup>木</sup>綿<sup>綿</sup>を<sup>を</sup>米<sup>米</sup>換<sup>換</sup>④候<sup>候</sup>事<sup>事</sup>と猶<sup>猶</sup>氣<sup>氣</sup>毒<sup>毒</sup>彼<sup>彼</sup>存<sup>存</sup>筈<sup>筈</sup>之<sup>之</sup>事<sup>事</sup>候<sup>候</sup>ゆへ、兎<sup>兎</sup>角<sup>角</sup>一<sup>一</sup>度<sup>度</sup>者<sup>者</sup>此<sup>此</sup>儀<sup>儀</sup>爾<sup>爾</sup>付<sup>付</sup>、屋<sup>屋</sup>か満<sup>満</sup>し起<sup>起</sup>事<sup>事</sup>出<sup>出</sup>來<sup>來</sup>可<sup>可</sup>致<sup>致</sup>哉<sup>哉</sup>と、後<sup>後</sup>来<sup>来</sup>を<sup>を</sup>者<sup>者</sup>か<sup>か</sup>り候<sup>候</sup>へハ寒<sup>寒</sup>心<sup>心</sup>不<sup>不</sup>少<sup>少</sup>事<sup>事</sup>候<sup>候</sup>。是<sup>是</sup>迄<sup>迄</sup>者<sup>者</sup>年<sup>年</sup>限<sup>限</sup>相<sup>相</sup>満<sup>満</sup>候<sup>候</sup>所<sup>所</sup>、裁<sup>裁</sup>判<sup>判</sup>を<sup>を</sup>以<sup>以</sup>御<sup>御</sup>乞<sup>乞</sup>彼<sup>彼</sup>成<sup>成</sup>候<sup>候</sup>へハ、最<sup>最</sup>初<sup>初</sup>者<sup>者</sup>米<sup>米</sup>も入<sup>入</sup>候<sup>候</sup>事<sup>事</sup>成<sup>成</sup>不<sup>不</sup>申<sup>申</sup>と<sup>と</sup>の返<sup>返</sup>答<sup>答</sup>而<sup>而</sup>、其<sup>其</sup>後<sup>後</sup>者<sup>者</sup>又<sup>又</sup>五<sup>五</sup>年<sup>年</sup>と年<sup>年</sup>限<sup>限</sup>を<sup>を</sup>立<sup>立</sup>彼<sup>彼</sup>指<sup>指</sup>許<sup>許</sup>、米<sup>米</sup>も相<sup>相</sup>止<sup>止</sup>可<sup>可</sup>申<sup>申</sup>と最<sup>最</sup>初<sup>初</sup>彼<sup>彼</sup>申<sup>申</sup>ハ、口<sup>口</sup>くせ<sup>せ</sup>乃<sup>乃</sup>やふ<sup>ふ</sup>相<sup>相</sup>見<sup>見</sup>へ候<sup>候</sup>得<sup>得</sup>とも実<sup>実</sup>正<sup>正</sup>止<sup>止</sup>メ申<sup>申</sup>度<sup>度</sup>登<sup>登</sup>彼<sup>彼</sup>存<sup>存</sup>候<sup>候</sup>へとも先<sup>先</sup>者<sup>者</sup>訳<sup>訳</sup>官<sup>官</sup>とも中<sup>中</sup>間<sup>間</sup>登<sup>登</sup>取<sup>取</sup>扱<sup>扱</sup>候<sup>候</sup>而<sup>而</sup>無<sup>無</sup>別<sup>別</sup>条<sup>条</sup>連<sup>連</sup>續<sup>續</sup>以<sup>以</sup>堂<sup>堂</sup>し候<sup>候</sup>事<sup>事</sup>登<sup>登</sup>相<sup>相</sup>見<sup>見</sup>へ申<sup>申</sup>候<sup>候</sup>。此<sup>此</sup>後<sup>後</sup>訳<sup>訳</sup>官<sup>官</sup>中<sup>中</sup>取<sup>取</sup>扱<sup>扱</sup>候<sup>候</sup>心<sup>心</sup>入<sup>入</sup>無<sup>無</sup>之<sup>之</sup>無<sup>無</sup>分<sup>分</sup>別<sup>別</sup>人<sup>人</sup>有<sup>有</sup>之<sup>之</sup>候<sup>候</sup>か。朝<sup>朝</sup>廷<sup>廷</sup>方<sup>方</sup>是<sup>是</sup>非<sup>非</sup>相<sup>相</sup>止<sup>止</sup>メ可<sup>可</sup>申<sup>申</sup>と議<sup>議</sup>論<sup>論</sup>を立<sup>立</sup>候<sup>候</sup>。強<sup>強</sup>仰<sup>仰</sup>之<sup>之</sup>人<sup>人</sup>有<sup>有</sup>之<sup>之</sup>者<sup>者</sup>無<sup>無</sup>心<sup>心</sup>元<sup>元</sup>事<sup>事</sup>候<sup>候</sup>ゆへ、朝<sup>朝</sup>鮮<sup>鮮</sup>幹<sup>幹</sup>事<sup>事</sup>之<sup>之</sup>人<sup>人</sup>者<sup>者</sup>常<sup>常</sup>心<sup>心</sup>掛<sup>掛</sup>可<sup>可</sup>申<sup>申</sup>事<sup>事</sup>候<sup>候</sup>。

(四十六) 御<sup>御</sup>買<sup>買</sup>米<sup>米</sup>之<sup>之</sup>年<sup>年</sup>限<sup>限</sup>分<sup>分</sup>明<sup>明</sup>裁<sup>裁</sup>判<sup>判</sup>を乞<sup>乞</sup>候<sup>候</sup>ハ白<sup>白</sup>水<sup>水</sup>奎<sup>奎</sup>兵<sup>兵</sup>衛<sup>衛</sup>裁<sup>裁</sup>判<sup>判</sup>彼<sup>彼</sup>仰<sup>仰</sup>付<sup>付</sup>罷<sup>罷</sup>渡<sup>渡</sup>り候<sup>候</sup>時<sup>時</sup>より始<sup>始</sup>り候<sup>候</sup>。最<sup>最</sup>初<sup>初</sup>御<sup>御</sup>買<sup>買</sup>米<sup>米</sup>始<sup>始</sup>り候<sup>候</sup>時<sup>時</sup>より段<sup>段</sup>々<sup>々</sup>年<sup>年</sup>限<sup>限</sup>有<sup>有</sup>之<sup>之</sup>候<sup>候</sup>事<sup>事</sup>不<sup>不</sup>存<sup>存</sup>人<sup>人</sup>が<sup>が</sup>ち<sup>ち</sup>候<sup>候</sup>へとも、成<sup>成</sup>程<sup>程</sup>、此<sup>此</sup>方<sup>方</sup>古<sup>古</sup>キ書<sup>書</sup>物<sup>物</sup>之内<sup>之内</sup>ニ相<sup>相</sup>見<sup>見</sup>へ候<sup>候</sup>、毎<sup>毎</sup>度<sup>度</sup>年<sup>年</sup>限<sup>限</sup>有<sup>有</sup>之<sup>之</sup>たる<sup>たる</sup>二<sup>二</sup>ま<sup>ま</sup>が<sup>が</sup>ひ無<sup>無</sup>之<sup>之</sup>候<sup>候</sup>。殊<sup>殊</sup>奎<sup>奎</sup>兵<sup>兵</sup>衛<sup>衛</sup>彼<sup>彼</sup>指<sup>指</sup>渡<sup>渡</sup>候<sup>候</sup>節<sup>節</sup>者<sup>者</sup>猶<sup>猶</sup>々<sup>々</sup>年<sup>年</sup>限<sup>限</sup>な<sup>な</sup>し登<sup>登</sup>者<sup>者</sup>難<sup>難</sup>彼<sup>彼</sup>仰<sup>仰</sup>付<sup>付</sup>可<sup>可</sup>有<sup>有</sup>之<sup>之</sup>、委<sup>委</sup>細<sup>細</sup>御<sup>御</sup>実<sup>実</sup>録<sup>録</sup>相<sup>相</sup>見<sup>見</sup>へ候<sup>候</sup>ゆへ、略<sup>略</sup>之<sup>之</sup>候<sup>候</sup>。

(四十七) 御<sup>御</sup>国<sup>國</sup>船<sup>船</sup>、左<sup>左</sup>右<sup>右</sup>道<sup>道</sup>江<sup>江</sup>渡<sup>渡</sup>漂<sup>漂</sup>流<sup>流</sup>候<sup>候</sup>時<sup>時</sup>、古<sup>古</sup>來<sup>来</sup>彼<sup>彼</sup>地<sup>地</sup>之<sup>之</sup>馳<sup>馳</sup>走<sup>走</sup>何<sup>何</sup>程<sup>程</sup>登<sup>登</sup>定<sup>定</sup>り多<sup>多</sup>る事<sup>事</sup>無<sup>無</sup>之<sup>之</sup>、問<sup>問</sup>情<sup>情</sup>參<sup>參</sup>り候<sup>候</sup>別<sup>別</sup>差<sup>差</sup>圖<sup>圖</sup>而<sup>而</sup>見<sup>見</sup>合<sup>合</sup>相<sup>相</sup>渡<sup>渡</sup>多<sup>多</sup>寡<sup>寡</sup>有<sup>有</sup>之<sup>之</sup>候<sup>候</sup>所<sup>所</sup>、訳<sup>訳</sup>官<sup>官</sup>中<sup>中</sup>願<sup>願</sup>而<sup>而</sup>別<sup>別</sup>差<sup>差</sup>問<sup>問</sup>情<sup>情</sup>參<sup>參</sup>り候<sup>候</sup>事<sup>事</sup>相<sup>相</sup>止<sup>止</sup>ミ候<sup>候</sup>ゆへ、水<sup>水</sup>夫<sup>夫</sup>ともよ<sup>よ</sup>り馳<sup>馳</sup>走<sup>走</sup>之<sup>之</sup>事<sup>事</sup>中<sup>中</sup>掛<sup>掛</sup>候<sup>候</sup>時<sup>時</sup>、其<sup>其</sup>所<sup>所</sup>之<sup>之</sup>役<sup>役</sup>人<sup>人</sup>指<sup>指</sup>圖<sup>圖</sup>を請<sup>請</sup>可<sup>可</sup>申<sup>申</sup>人<sup>人</sup>無<sup>無</sup>之<sup>之</sup>、水<sup>水</sup>夫<sup>夫</sup>とも次<sup>次</sup>第<sup>第</sup>相<sup>相</sup>渡<sup>渡</sup>候<sup>候</sup>付<sup>付</sup>、段<sup>段</sup>々<sup>々</sup>申<sup>申</sup>掛<sup>掛</sup>二<sup>二</sup>三<sup>三</sup>年<sup>年</sup>後<sup>後</sup>者<sup>者</sup>大<sup>大</sup>分<sup>分</sup>成<sup>成</sup>り其<sup>其</sup>旨<sup>旨</sup>任<sup>任</sup>訳<sup>訳</sup>より度<sup>度</sup>々<sup>々</sup>館<sup>館</sup>守<sup>守</sup>相<sup>相</sup>訴<sup>訴</sup>候<sup>候</sup>所<sup>所</sup>、折<sup>折</sup>節<sup>節</sup>味<sup>味</sup>木<sup>木</sup>弥<sup>弥</sup>三<sup>三</sup>郎<sup>郎</sup>罷<sup>罷</sup>渡<sup>渡</sup>り、致<sup>致</sup>下<sup>下</sup>乘<sup>乘</sup>候<sup>候</sup>時<sup>時</sup>、水<sup>水</sup>夫<sup>夫</sup>とも馳<sup>馳</sup>走<sup>走</sup>之<sup>之</sup>事<sup>事</sup>申<sup>申</sup>掛<sup>掛</sup>、心<sup>心</sup>叶<sup>叶</sup>不<sup>不</sup>申<sup>申</sup>候<sup>候</sup>とて萬<sup>萬</sup>戸<sup>戸</sup>を棒<sup>棒</sup>越<sup>越</sup>以<sup>以</sup>た起<sup>起</sup>候<sup>候</sup>ゆへ、彼<sup>彼</sup>方<sup>方</sup>軍<sup>軍</sup>官<sup>官</sup>とも指<sup>指</sup>揃<sup>揃</sup>ひ水<sup>水</sup>夫<sup>夫</sup>とも越<sup>越</sup>致<sup>致</sup>、打<sup>打</sup>擲<sup>擲</sup>其<sup>其</sup>内<sup>内</sup>者<sup>者</sup>半<sup>半</sup>死<sup>死</sup>半<sup>半</sup>生<sup>生</sup>成<sup>成</sup>り多<sup>多</sup>るものも有<sup>有</sup>之<sup>之</sup>候<sup>候</sup>。其<sup>其</sup>砌<sup>砌</sup>杉<sup>杉</sup>村<sup>村</sup>采<sup>采</sup>女<sup>女</sup>參<sup>參</sup>判<sup>判</sup>使<sup>使</sup>而<sup>而</sup>彼<sup>彼</sup>相<sup>相</sup>渡<sup>渡</sup>右<sup>右</sup>之<sup>之</sup>次<sup>次</sup>第<sup>第</sup>彼<sup>彼</sup>聞<sup>聞</sup>届<sup>届</sup>任<sup>任</sup>訳<sup>訳</sup>館<sup>館</sup>守<sup>守</sup>談<sup>談</sup>以<sup>以</sup>、漂<sup>漂</sup>流<sup>流</sup>馳<sup>馳</sup>走<sup>走</sup>之<sup>之</sup>格<sup>格</sup>式<sup>式</sup>相<sup>相</sup>定<sup>定</sup>り一<sup>一</sup>冊<sup>冊</sup>砲<sup>砲</sup>船<sup>船</sup>頭<sup>頭</sup>彼<sup>彼</sup>成<sup>成</sup>御<sup>御</sup>渡<sup>渡</sup>、向<sup>向</sup>後<sup>後</sup>右<sup>右</sup>之<sup>之</sup>外<sup>外</sup>、請<sup>請</sup>取<sup>取</sup>不<sup>不</sup>申<sup>申</sup>候<sup>候</sup>様<sup>様</sup>と彼<sup>彼</sup>仰<sup>仰</sup>付<sup>付</sup>た事<sup>事</sup>二<sup>二</sup>候<sup>候</sup>。右<sup>右</sup>二<sup>二</sup>三<sup>三</sup>年<sup>年</sup>之<sup>之</sup>間<sup>間</sup>者<sup>者</sup>致<sup>致</sup>漂<sup>漂</sup>流<sup>流</sup>候<sup>候</sup>得<sup>得</sup>者<sup>者</sup>、馳<sup>馳</sup>走<sup>走</sup>を過<sup>過</sup>分<sup>分</sup>候<sup>候</sup>益<sup>益</sup>有<sup>有</sup>之<sup>之</sup>候<sup>候</sup>付<sup>付</sup>、

『交隣提醒』について—その5 (呉)

年中一二艘なならて者直<sub>ハ</sub>乗取候船無之、盡ク態と致漂流候。右之馳走水夫の  
 ミ請取候<sub>テ</sub>而も無之、一船<sub>乗</sub>り<sub>〇</sub>候侍中迄も意外之米を大分<sub>所務</sub>致し候ゆへ  
 誰<sub>ありて</sub>有之急度申上候者も無之、ケ様<sub>者</sub>之間敷事<sub>候</sub>と二三年之間沙汰者かり<sub>ニ</sub>  
 而相済<sub>新</sub>、参判渡海之時、相改り候。此後若又猥り<sub>ニ</sub>漂流船多<sub>り</sub>成り候ハ、上  
 より御氣越彼附、其弊端之所<sub>由</sub>出<sub>ル</sub>を御吟味被成、早速耳御處置可被成事<sub>候</sub>。  
 (四十八) 日本人漂流有之候時、館主多太浦又牛岩浦<sub>ニ</sub>彼罷越候事、彼岸<sub>ニ</sub>館内  
 之人古館江参り候事、遠見嶽江日本人登り候事、ケ様之類、朝鮮人不好事<sub>候</sub>  
 へハ日本人之足<sub>を</sub>く<sub>〇</sub>飛り候様<sub>成</sub>候而者如何<sub>候</sub>ゆへ、以川迄も古式之通有度  
 事<sub>候</sub>。且又閑曠<sub>カクワカ</sub>之地物力<sub>ヲ</sub>へ<sub>〇</sub>致し彼方<sub>ニ</sub>取戻<sub>ル</sub>度との義、や<sub>と</sub>も<sub>〇</sub>春<sub>連</sub>ハ  
 訳官<sub>具</sub>とも申事<sub>候</sub>。是又決而彼指許間敷事<sub>候</sub>。其訳御実録<sub>有</sub>之候ゆへ、略<sub>候</sub>。  
 (四十九) 朝鮮人乃嫌<sub>〇</sub>申事越構ひ不申、日本人之不埒を不相改候而<sub>者</sub> 落着  
 日本人之難儀<sub>成</sub>り<sub>〇</sub>候事有之候。ケ様之儀も心得居可申事<sub>候</sub>。彼方よりハ交  
 好<sub>之</sub>儀<sub>〇</sub>、深く彼禁候所、館内之もの其法を守り不申候<sub>付</sub>、最初館近邊<sub>ニ</sub>有之  
 候百姓家を悉ク取拂<sub>ニ</sub>、一ツ屋<sub>ニ</sub>遷し、其呼崎之石垣不堅固候所より、女越呼  
 入候段、相知<sub>レ</sub>彼方より石垣を築可申とて倭主税館主之時、人夫多勢<sub>ニ</sub>而、石  
 を運び候所、折節参判使在留之時<sub>而</sub>無用<sub>ニ</sub>致し候様<sub>と</sub>下知有之候<sub>付</sub>、呼崎  
 之石垣を築候事<sub>ハ</sub>相止メ<sub>〇</sub>引取上方<sub>ニ</sub>石垣を築、坂の下<sub>ニ</sub>新門を立候より館内  
<sub>ニ</sub>朝鮮人、入來候事不自由<sub>ニ</sub>成り、其義、白水源七交好之事、有之候より、坂  
 下之百姓家、悉ク取拂<sub>ひ</sub> 館内之手番<sub>〇</sub>不<sub>〇</sub>宜事<sub>〇</sub>の<sub>三</sub>候。  
 総体一時之勝を主<sub>と</sub>登し、後來を不慮候者日本人之風儀、當時盤穩便<sub>〇</sub>致し置  
 後來之勝を取候者朝鮮之深<sub>計</sub>斗<sub>〇</sub>而<sub>候</sub>。智慮之優劣無是非事<sub>候</sub>。兼<sub>〇</sub>交好之禁  
 を厳密爾彼成候ハ百姓家越取拂<sub>ひ</sub>候事有之筈<sub>候</sub>へとも、左無之候ゆへ、今  
<sub>ニ</sub>而者館所人倫絶たる所<sub>有</sub>之。館中衰微之一端と成りたる<sub>三</sub>候。  
 (五十) 東萊入登申<sub>〇</sub>事越東萊と打果し参り候事之様も相心得、又生て歸申  
 さぬ事之様も相心得、東萊入<sub>り</sub>〇<sub>〇</sub>致<sub>候</sub>而者、是非其<sub>〇</sub>事之埒を明、不申候  
 而ハ不叶事之様も相心得候。是ハ了簡違<sub>〇</sub>而<sub>候</sub>。事之品<sub>ニ</sub>より延享<sub>次手</sub>之席<sub>ニ</sub>  
 参言致し候分<sub>而</sub>〇<sub>〇</sub>委細<sub>難</sub>申盡、訳官を以申遣候而者意味難相違候間、兎角  
 東萊<sub>〇</sub>罷越、面上<sub>ニ</sub>委細可申入候者申<sub>〇</sub>御用之儀、必<sub>ハ</sub>可有之事<sub>候</sub>。其<sub>〇</sub>節  
 ハ兼而届置、東萊人可致事<sub>而</sub>日本向を以申候得者、田代之役人柳川又ハ久留

『交隣提醒』について一その5 (呉)

米<sub>ニ</sub>罷越、彼方<sub>ニ</sub>之役人<sub>ト</sub>對談致し候同然<sub>ニ</sub>之<sub>事</sub>候。時<sub>ハ</sub>左候得<sub>テ</sub>ハ面談之上其事之  
 埒明候事<sub>モ</sub>有<sub>ル</sub>之<sub>候</sub>也。又ハ埒明不申事も是又有之<sub>事</sub>ニ而、東萊<sub>ニ</sub>さへ参<sub>リ</sub>候得<sub>テ</sub>ハ何事<sub>ニ</sub>而も相濟候儀  
 と心得可申様も無<sub>シ</sub>之。猥<sub>ニ</sub>二打果可申様も無<sub>シ</sub>之候。其内境<sub>ニ</sub>犯し彼方<sub>ニ</sub>参候事ハ、  
 元来容易<sub>ニ</sub>ハ致ス間敷事<sub>ニ</sub>候。右<sub>ハ</sub>可及面談程之事<sub>ニ</sub>而も無<sub>シ</sub>之所<sub>ト</sub>東萊<sub>ニ</sub>参候事ハ  
 訳官共難<sub>カ</sub>候事と存、訳官<sub>ニ</sub>痛手<sub>ヲ</sub>當<sub>テ</sub>、其事越埒明させ可申<sub>ル</sub>之<sub>斗</sub>策<sub>ニ</sub>而東  
 萊入可致<sub>ナ</sub>と申候ハ、可<sub>ク</sub>●ふ<sub>ル</sub>簡候。

(五十一) 館内<sub>ニ</sub>朝鮮人盗<sub>ニ</sub>入候時、急度死罪<sub>ニ</sub>卜仰付候様<sub>ト</sub>と毎度館守より任  
 訳<sub>ニ</sub>申渡<sub>シ</sub>候而も其通<sub>シ</sub>不被行、落着いひ志<sub>ラ</sub>け<sub>テ</sub>成候事有<sub>ル</sub>之候。元来盗<sub>ニ</sub>も軽  
 重有<sub>ル</sub>之候処、其差別無<sub>シ</sub>之、是非死罪<sub>ニ</sub>彼行候様<sub>ト</sub>と申候ハ此方<sub>ニ</sub>之無理<sub>ニ</sub>而御座候。  
 交奸之もの、彼方<sub>ニ</sub>而者、彼<sub>ノ</sub>死罪<sub>ニ</sub>候得<sub>テ</sub>とも、此方<sub>ニ</sub>而者、永<sub>ク</sub>流罪<sub>ト</sub>仰<sub>テ</sub>時<sub>ハ</sub>  
 同然<sub>ニ</sub>之事<sub>ニ</sub>而、国々之法式有<sub>ル</sub>之事<sub>ニ</sub>候ゆへ、向後盗<sub>ヲ</sub>捕<sub>メ</sub>候ハ<sub>ハ</sub>繩下<sub>ニ</sub>致し訳官  
 相<sub>ニ</sub>相渡、盗<sub>ノ</sub>之輕重爾應<sub>シ</sub>、彼國國法<sub>ニ</sub>之通被致處置候様<sub>ト</sub>と●館守より可被申事  
 御座候。朝鮮<sub>國</sub>之内<sub>ニ</sub>而盗<sub>ニ</sub>致<sub>シ</sub>候者、其罪<sub>ヲ</sub>を糺し、館内<sub>ニ</sub>而致<sub>シ</sub>候ハ指許候と  
 申事決<sub>テ</sub>而無<sub>シ</sub>之<sub>事</sub>而、万一<sub>ニ</sub>訳官共<sub>方</sub>方<sub>ニ</sub>而私<sub>ニ</sub>を致<sub>シ</sub>可申<sub>ル</sub>ハ難<sub>シ</sub>斗候とも東萊  
 以上之人<sub>ノ</sub>之耳<sub>ニ</sub>入候而ハ其俣<sub>ニ</sub>而可被指置哉との氣遣<sub>ハ</sub>會<sub>テ</sub>而無<sub>シ</sub>之<sub>事</sub>而候。

(五十二) 東五郎廿二歳之時、御奉公<sub>ニ</sub>彼召出、江戸<sub>ニ</sub>罷在候所<sub>ニ</sub>在勤<sub>ニ</sub>之面々  
 咄<sub>テ</sub>彼申候ハ朝鮮人程、鈍なる者無<sub>シ</sub>之候。炭唐人<sub>ト</sub>申、炭<sub>ヲ</sub>持來候者有<sub>ル</sub>之候所、  
 若も炭<sub>ヲ</sub>を不持來候得<sub>テ</sub>ハ其手<sub>ニ</sub>印判致し、明日持來候得<sub>テ</sub>共<sub>ニ</sub>、言<sub>ハ</sub>付候得<sub>テ</sub>ハ、翌日<sub>ハ</sub>  
 者必炭<sub>ヲ</sub>を持來り右之印判<sub>ヲ</sub>を除<sub>ケ</sub>くれ候様<sub>ト</sub>と申候。大勢<sub>ニ</sub>之事<sub>ニ</sub>候へハとれと申  
 覺<sub>モ</sub>無<sub>シ</sub>之<sub>事</sub>而、殊<sub>ニ</sub>其印判<sub>ヲ</sub>を手前に而洗落候而も相濟事<sub>ニ</sub>候所、必<sub>ハ</sub>ケ様  
 致<sub>シ</sub>たしおかしき事<sub>ニ</sub>候と者<sub>申</sub>候ゆへ、東五郎存候ハ鈍なる<sub>ニ</sub>爾<sub>テ</sub>ハ有<sub>ル</sub>之<sub>満</sub>數<sub>ク</sub>  
 候。定<sub>ル</sub>爾<sub>今</sub>、乱後<sub>ニ</sub>之餘威強<sub>キ</sub>ゆへ<sub>ニ</sub>而可有<sub>ル</sub>之<sub>と</sub>存居候處、其後<sub>ニ</sub>三十六才<sub>ノ</sub>之  
 時、朝鮮<sub>ノ</sub>言葉<sub>ヲ</sub>を稽古<sub>ト</sub>として彼地<sub>ニ</sub>へ罷渡<sub>リ</sub>候所、或日<sub>ハ</sub>町代官之内、前<sub>ニ</sub>之仕  
 形<sub>ヲ</sub>を覺居候者<sub>有</sub>之、炭唐人<sub>ノ</sub>之炭<sub>ヲ</sub>を不持來候<sub>ヲ</sub>を叱り、上着<sub>ノ</sub>之袖越繩<sub>ニ</sub>て<sub>テ</sub>く<sub>り</sub>  
 可申<sub>ル</sub>と致<sub>シ</sub>之<sub>ハ</sub>右<sub>ニ</sub>之朝鮮人<sub>ノ</sub>殊外、立腹<sub>ニ</sub>致し、傍<sub>ニ</sub>金別將<sub>ト</sub>と申候訓導<sub>候</sub>方<sub>ニ</sub>之書  
 手居申候所、是又目越怒<sub>ラ</sub>し我國<sub>ノ</sub>之人<sub>ノ</sub>越辱<sub>メ</sub>候<sub>ハ</sub>い<sub>可</sub>成事<sub>ニ</sub>候哉と散<sub>テ</sub>申候  
 ゆへ<sub>ニ</sub>町代官<sub>ノ</sub>愧縮<sub>致</sub>し相止<sub>メ</sub>候。此事<sub>ニ</sub>付候而も僅<sub>ニ</sub>十四五年之内<sub>ニ</sub>風  
 儀<sub>ケ</sub>様<sub>ニ</sub>二変<sub>シ</sub>候。大概、壬辰<sub>ニ</sub>乱後、万松院様<sub>ノ</sub>一代より光雲院様<sub>ノ</sub>御幼年迄<sub>ハ</sub>  
 怖<sub>レ</sub>之<sub>ヲ</sub>を<sub>タ</sub>る<sub>ニ</sub>而候。光雲院様<sub>ノ</sub>頃より天龍院様<sub>ノ</sub>御初年<sub>ニ</sub>まで<sub>ハ</sub>避<sub>レ</sub>之<sub>ヲ</sub>を<sub>タ</sub>る<sub>ニ</sub>而

『交隣提醒』について—その5 (呉)

候。天龍院様中比より以後 者 之ヲ<sup>ナレ</sup>扭<sup>ハ</sup>らるゝ<sup>ハ</sup>而候。恤<sup>オソレ</sup>之<sup>サケ</sup>之<sup>ハ</sup>避<sup>ハ</sup>之<sup>ハ</sup>候時者彼  
 方下<sup>ナレ</sup>⊗手<sup>ナレ</sup>二成り、扭<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>候時ハ強きハ上<sup>ナレ</sup>⊗手<sup>ナレ</sup>二成り弱い下<sup>ナレ</sup>⊗手<sup>ナレ</sup>二成候筈之事<sup>ナレ</sup>  
 候。天龍院様御代中比者まだ 乘<sup>ハ</sup>之<sup>ハ</sup>之<sup>ハ</sup>之<sup>ハ</sup>候。天龍院様御代中比者まだ 乘<sup>ハ</sup>之<sup>ハ</sup>之<sup>ハ</sup>候。天龍院様御代中比者まだ 乘<sup>ハ</sup>之<sup>ハ</sup>之<sup>ハ</sup>候。

凌<sup>ハ</sup>之<sup>ハ</sup>と申候而 威柄<sup>イヘイ</sup>彼方<sup>ナレ</sup>移り此方<sup>ナレ</sup>ハ却<sup>ヒクツ</sup>而<sup>ナレ</sup>卑屈<sup>いた</sup>致<sup>ナレ</sup>し候様<sup>ナレ</sup>成<sup>ナレ</sup>可<sup>ナレ</sup>申<sup>ナレ</sup>時勢<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>ゆへ、  
 以<sup>ヨ</sup>正<sup>シ</sup>大<sup>キ</sup>為<sup>シ</sup>心<sup>ニ</sup>理<sup>義</sup>為<sup>シ</sup>務<sup>メ</sup>ノ前後<sup>ハ</sup>を斗<sup>ハ</sup>處置<sup>ハ</sup>可<sup>ナレ</sup>致<sup>ナレ</sup>事<sup>ナレ</sup>候。不<sup>オソレ</sup>畏<sup>レ</sup>強<sup>キ</sup>に御<sup>オソレ</sup>禦<sup>レ</sup>之<sup>ハ</sup>  
 蠲<sup>ケラシクワ</sup>寡<sup>アチド</sup>不<sup>コソキ</sup>侮<sup>ハカ</sup>之<sup>ハ</sup>剛<sup>ヤワラカナル</sup>亦<sup>ケラハ</sup>不<sup>ニ</sup>吐<sup>ハ</sup>柔<sup>ニ</sup>亦<sup>ハ</sup>不<sup>ニ</sup>茹<sup>ハ</sup>申<sup>ハ</sup>、世<sup>ニ</sup>處<sup>ハ</sup>するの道<sup>ニ</sup>越<sup>ハ</sup>申<sup>ハ</sup>たる  
 言葉<sup>ヘトモ</sup>候<sup>ナレ</sup>得<sup>ナレ</sup>共、朝鮮<sup>ヘトモ</sup>と御<sup>ヘトモ</sup>隣<sup>ヘトモ</sup>交<sup>ヘトモ</sup>之際<sup>ヘトモ</sup>ハ此<sup>ヘトモ</sup>心得<sup>ヘトモ</sup>可<sup>ヘトモ</sup>為<sup>ヘトモ</sup>要<sup>ヘトモ</sup>候。

(五十三) 古館最初之時分、訳官共<sup>ナレ</sup>對<sup>ナレ</sup>し東萊<sup>ナレ</sup>は裁判<sup>ナレ</sup>同然<sup>ナレ</sup>之人<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>と申<sup>ナレ</sup>たる者<sup>ナレ</sup>有<sup>ナレ</sup>  
 之<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>由、是<sup>ナレ</sup>ハ不<sup>ナレ</sup>敬<sup>ナレ</sup>とも何<sup>ナレ</sup>申<sup>ナレ</sup>又<sup>ナレ</sup>ハ文<sup>ナレ</sup>盲<sup>ナレ</sup>成<sup>ナレ</sup>とも何<sup>ナレ</sup>申<sup>ナレ</sup>候。忽<sup>ナレ</sup>体<sup>ナレ</sup>其<sup>ナレ</sup>節<sup>ナレ</sup>、乱<sup>ナレ</sup>後<sup>ナレ</sup>引<sup>ナレ</sup>移<sup>ナレ</sup>り之<sup>ナレ</sup>  
 事<sup>ナレ</sup>二<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>故、東萊<sup>ナレ</sup>之事<sup>ナレ</sup>を館<sup>ナレ</sup>守<sup>ナレ</sup>などへ被<sup>ナレ</sup>仰<sup>ナレ</sup>遣<sup>ナレ</sup>候、御<sup>ナレ</sup>年<sup>ナレ</sup>寄<sup>ナレ</sup>中<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>書<sup>ナレ</sup>狀<sup>ナレ</sup>控<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>た満<sup>ナレ</sup>さか残<sup>ナレ</sup>  
 り居<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>越<sup>ナレ</sup>見<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>而<sup>ナレ</sup>も多<sup>ナレ</sup>くハ東萊<sup>ナレ</sup>と相<sup>ナレ</sup>恭<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>様<sup>ナレ</sup>相<sup>ナレ</sup>見<sup>ナレ</sup>訳官<sup>ナレ</sup>ともハ御<sup>ナレ</sup>出<sup>ナレ</sup>入<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>町<sup>ナレ</sup>人<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>如<sup>ナレ</sup>キ  
 御<sup>ナレ</sup>挨<sup>ナレ</sup>拶<sup>ナレ</sup>登<sup>ナレ</sup>相<sup>ナレ</sup>見<sup>ナレ</sup>、甚<sup>ナレ</sup>尊<sup>ナレ</sup>大<sup>ナレ</sup>なる事<sup>ナレ</sup>候。是<sup>ナレ</sup>ハ過<sup>ナレ</sup>キ申<sup>ナレ</sup>たる<sup>ナレ</sup>て候。其<sup>ナレ</sup>後<sup>ナレ</sup>竹<sup>ナレ</sup>島<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>事<sup>ナレ</sup>起<sup>ナレ</sup>  
 候<sup>ナレ</sup>而<sup>ナレ</sup>朝鮮<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>存<sup>ナレ</sup>入<sup>ナレ</sup>何<sup>ナレ</sup>分<sup>ナレ</sup>可<sup>ナレ</sup>有<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>哉。隣<sup>ナレ</sup>交<sup>ナレ</sup>諸<sup>ナレ</sup>事<sup>ナレ</sup>異<sup>ナレ</sup>變<sup>ナレ</sup>ハ有<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>間<sup>ナレ</sup>敷<sup>ナレ</sup>哉と人<sup>ナレ</sup>ノ危<sup>ナレ</sup>懼<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>心<sup>ナレ</sup>  
 越<sup>ナレ</sup>懐<sup>ナレ</sup>キ候<sup>ナレ</sup>より東萊<sup>ナレ</sup>ヲ殊<sup>ナレ</sup>外<sup>ナレ</sup>あ<sup>ナレ</sup>可<sup>ナレ</sup>免<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>而<sup>ナレ</sup>、能<sup>ナレ</sup>ク承<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>へハ、東萊<sup>ナレ</sup>ハ三<sup>ナレ</sup>品<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>人<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>ゆへ  
 殿<sup>ナレ</sup>様<sup>ナレ</sup>より高<sup>ナレ</sup>階<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>へハ慮<sup>ナレ</sup>外<sup>ナレ</sup>らしく可<sup>ナレ</sup>申<sup>ナレ</sup>事<sup>ナレ</sup>無<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>とて、半<sup>ナレ</sup>主<sup>ナレ</sup>人<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>事<sup>ナレ</sup>越<sup>ナレ</sup>申<sup>ナレ</sup>様<sup>ナレ</sup>申<sup>ナレ</sup>  
 たる人<sup>ナレ</sup>も有<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>候。御<sup>ナレ</sup>國<sup>ナレ</sup>者<sup>ナレ</sup>土<sup>ナレ</sup>地<sup>ナレ</sup>人<sup>ナレ</sup>民<sup>ナレ</sup>を御<sup>ナレ</sup>代<sup>ナレ</sup>ノ被<sup>ナレ</sup>相<sup>ナレ</sup>伝<sup>ナレ</sup>候。候<sup>ナレ</sup>伯<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>御<sup>ナレ</sup>身<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>へハ東萊<sup>ナレ</sup>  
 比<sup>ナレ</sup>較<sup>ナレ</sup>致<sup>ナレ</sup>へキ候<sup>ナレ</sup>様<sup>ナレ</sup>無<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>と申<sup>ナレ</sup>所<sup>ナレ</sup>心<sup>ナレ</sup>付<sup>ナレ</sup>無<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>段、是<sup>ナレ</sup>ハ非<sup>ナレ</sup>不<sup>ナレ</sup>及<sup>ナレ</sup>而<sup>ナレ</sup>候。忽<sup>ナレ</sup>体<sup>ナレ</sup>義<sup>ナレ</sup>を  
 以<sup>ナレ</sup>事<sup>ナレ</sup>越<sup>ナレ</sup>制<sup>ナレ</sup>不<sup>ナレ</sup>申<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>得<sup>ナレ</sup>ハ、彼<sup>ナレ</sup>方<sup>ナレ</sup>驕<sup>ナレ</sup>慢<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>得<sup>ナレ</sup>ハ其<sup>ナレ</sup>勢<sup>ナレ</sup>越<sup>ナレ</sup>恐<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>而<sup>ナレ</sup>卑<sup>ナレ</sup>屈<sup>ナレ</sup>致<sup>ナレ</sup>し、彼<sup>ナレ</sup>方<sup>ナレ</sup>卑<sup>ナレ</sup>屈<sup>ナレ</sup>  
 致<sup>ナレ</sup>し候<sup>ナレ</sup>得<sup>ナレ</sup>ハ、其<sup>ナレ</sup>弱<sup>ナレ</sup>を侮<sup>ナレ</sup>り此<sup>ナレ</sup>方<sup>ナレ</sup>驕<sup>ナレ</sup>慢<sup>ナレ</sup>二<sup>ナレ</sup>成<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>事<sup>ナレ</sup>人<sup>ナレ</sup>情<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>常<sup>ナレ</sup>弊<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>ゆへ、彼<sup>ナレ</sup>方<sup>ナレ</sup>ハ如何<sup>ナレ</sup>  
 様<sup>ナレ</sup>變<sup>ナレ</sup>し候<sup>ナレ</sup>共 此<sup>ナレ</sup>方<sup>ナレ</sup>其<sup>ナレ</sup>權<sup>ナレ</sup>度<sup>ナレ</sup>を<sup>ナレ</sup>シ<sup>ナレ</sup>不<sup>ナレ</sup>申<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>様<sup>ナレ</sup>有<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>度<sup>ナレ</sup>事<sup>ナレ</sup>御<sup>ナレ</sup>座<sup>ナレ</sup>候。韓<sup>ナレ</sup>同<sup>ナレ</sup>知<sup>ナレ</sup>破<sup>ナレ</sup>船<sup>ナレ</sup>致<sup>ナレ</sup>  
 し候<sup>ナレ</sup>渡<sup>ナレ</sup>時 偏<sup>ナレ</sup> 裁<sup>ナレ</sup>判<sup>ナレ</sup>不<sup>ナレ</sup>念<sup>ナレ</sup>ゆへ<sup>ナレ</sup>付<sup>ナレ</sup>、裁<sup>ナレ</sup>判<sup>ナレ</sup>事<sup>ナレ</sup>吃<sup>ナレ</sup>と可<sup>ナレ</sup>被<sup>ナレ</sup>仰<sup>ナレ</sup>付<sup>ナレ</sup>事<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>と訳<sup>ナレ</sup>官<sup>ナレ</sup>とも申<sup>ナレ</sup>  
 候<sup>ナレ</sup> ⑦情<sup>ナレ</sup>意<sup>ナレ</sup>互<sup>ナレ</sup>測<sup>ナレ</sup>模<sup>ナレ</sup>様<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>故、兎<sup>ナレ</sup>角<sup>ナレ</sup>重<sup>ナレ</sup>キ御<sup>ナレ</sup>叱<sup>ナレ</sup>無<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>而<sup>ナレ</sup> ⑧朝<sup>ナレ</sup>鮮<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>思<sup>ナレ</sup>入<sup>ナレ</sup>不<sup>ナレ</sup>  
 宜<sup>ナレ</sup>と館<sup>ナレ</sup>内<sup>ナレ</sup>より申<sup>ナレ</sup>來<sup>ナレ</sup> 御<sup>ナレ</sup>國<sup>ナレ</sup>而<sup>ナレ</sup>も一<sup>ナレ</sup>廉<sup>ナレ</sup>被<sup>ナレ</sup>仰<sup>ナレ</sup>付<sup>ナレ</sup>可<sup>ナレ</sup>燃<sup>ナレ</sup>事<sup>ナレ</sup>二<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>と申<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>而<sup>ナレ</sup>媚<sup>ナレ</sup>を異<sup>ナレ</sup>邦<sup>ナレ</sup>  
 取<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>所<sup>ナレ</sup>見<sup>ナレ</sup>多<sup>ナレ</sup>有<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>所 左<sup>ナレ</sup>傳<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>内<sup>ナレ</sup>有<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>候。寧<sup>ナレ</sup>以<sup>ナレ</sup>國<sup>ナレ</sup>斃<sup>ナレ</sup>不<sup>ナレ</sup>可<sup>ナレ</sup>レ<sup>ナレ</sup>從<sup>ナレ</sup>也<sup>ナレ</sup>と  
 申<sup>ナレ</sup>語<sup>ナレ</sup>越<sup>ナレ</sup>引<sup>ナレ</sup>、此<sup>ナレ</sup>方<sup>ナレ</sup>より被<sup>ナレ</sup>仰<sup>ナレ</sup>遣<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>ハ海<sup>ナレ</sup>上<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>儀<sup>ナレ</sup>ハ 潮<sup>ナレ</sup>より、父<sup>ナレ</sup>子<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>間<sup>ナレ</sup>而<sup>ナレ</sup>も咫<sup>ナレ</sup>尺<sup>ナレ</sup>  
 越<sup>ナレ</sup>隔<sup>ナレ</sup>、互<sup>ナレ</sup>相<sup>ナレ</sup>救<sup>ナレ</sup>申<sup>ナレ</sup>事<sup>ナレ</sup>成<sup>ナレ</sup>申<sup>ナレ</sup>さぬもの<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>得<sup>ナレ</sup>ハ、韓<sup>ナレ</sup>同<sup>ナレ</sup>知<sup>ナレ</sup>破<sup>ナレ</sup>船<sup>ナレ</sup>致<sup>ナレ</sup>し候<sup>ナレ</sup>事<sup>ナレ</sup>、裁<sup>ナレ</sup>判<sup>ナレ</sup>存<sup>ナレ</sup>  
 たる事<sup>ナレ</sup>而<sup>ナレ</sup>無<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>候。若<sup>ナレ</sup>も裁<sup>ナレ</sup>判<sup>ナレ</sup>越<sup>ナレ</sup>科<sup>ナレ</sup>行<sup>ナレ</sup>不<sup>ナレ</sup>申<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>ハ隣<sup>ナレ</sup>交<sup>ナレ</sup>可<sup>ナレ</sup>致<sup>ナレ</sup>断<sup>ナレ</sup>絶<sup>ナレ</sup>と有<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>而<sup>ナレ</sup>  
 者、左<sup>ナレ</sup>傳<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>本<sup>ナレ</sup>語<sup>ナレ</sup>のこ<sup>ナレ</sup>と決<sup>ナレ</sup>而<sup>ナレ</sup>御<sup>ナレ</sup>許<sup>ナレ</sup>容<sup>ナレ</sup>不<sup>ナレ</sup>被<sup>ナレ</sup>成<sup>ナレ</sup>事<sup>ナレ</sup>候<sup>ナレ</sup>間、此<sup>ナレ</sup>度<sup>ナレ</sup>訳<sup>ナレ</sup>官<sup>ナレ</sup>急<sup>ナレ</sup>度<sup>ナレ</sup>被<sup>ナレ</sup>申<sup>ナレ</sup>聞<sup>ナレ</sup>様<sup>ナレ</sup>  
 二<sup>ナレ</sup>被<sup>ナレ</sup>仰<sup>ナレ</sup>遣<sup>ナレ</sup>候。其<sup>ナレ</sup>後<sup>ナレ</sup>ハ浮<sup>ナレ</sup>言<sup>ナレ</sup>も段<sup>ナレ</sup>相<sup>ナレ</sup>止<sup>ナレ</sup>候。諸<sup>ナレ</sup>事<sup>ナレ</sup>此<sup>ナレ</sup>心<sup>ナレ</sup>得<sup>ナレ</sup>有<sup>ナレ</sup>之<sup>ナレ</sup>度<sup>ナレ</sup>事<sup>ナレ</sup>御<sup>ナレ</sup>座<sup>ナレ</sup>候。兎

『交隣提醒』について—その5 (呉)

角以<sup>マ</sup>義自守<sup>ニ</sup>候時<sup>ニ</sup>ハ猥<sup>ニ</sup>躁感<sup>ニ</sup>萎縮<sup>ニ</sup>致<sup>シ</sup>候事<sup>ハ</sup>無<sup>ク</sup>之<sup>レ</sup>筈<sup>ニ</sup>候。

(五十四) 誠信之交と申事、人々<sup>ハ</sup>申事<sup>ニ</sup>候得とも多<sup>ク</sup>者、字義を分明<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>仕事有<sup>ル</sup>之候。誠信と申<sup>ハ</sup>実意と申事<sup>ニ</sup>而、互<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>欺<sup>ハ</sup>不<sup>レ</sup>争<sup>ハ</sup>真実を以<sup>テ</sup>交<sup>リ</sup>候越<sup>テ</sup>誠信とハ申候。朝鮮と誠<sup>ノ</sup>の誠信<sup>ノ</sup>の交<sup>リ</sup>越<sup>テ</sup>可<sup>ク</sup>被<sup>テ</sup>取<sup>リ</sup>取<sup>ル</sup>と思<sup>フ</sup>召<sup>ス</sup>候<sup>ニ</sup>成<sup>ル</sup>候而<sup>ハ</sup>送<sup>リ</sup>使<sup>ハ</sup>をも悉<sup>ク</sup>御<sup>ノ</sup>辞<sup>ヲ</sup>退<sup>ク</sup>被<sup>テ</sup>成<sup>ル</sup>、少<sup>ク</sup>も彼<sup>ノ</sup>國<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>造<sup>作</sup>御<sup>ノ</sup>成<sup>ル</sup>不<sup>レ</sup>被<sup>テ</sup>成<sup>ル</sup>候時<sup>ニ</sup>な<sup>ク</sup>て<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>こ<sup>ノ</sup>の誠<sup>ニ</sup>信<sup>ト</sup>ハ難<sup>ク</sup>申<sup>ス</sup>、其<sup>ノ</sup>誤<sup>リ</sup>ハ<sup>ハ</sup>彼<sup>ノ</sup>國<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>書<sup>籍</sup>越<sup>テ</sup>見<sup>テ</sup>申<sup>ス</sup>得<sup>ル</sup>ハ底<sup>ノ</sup>意<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>有<sup>ル</sup>所<sup>ニ</sup>相<sup>シ</sup>知<sup>ル</sup>申<sup>ス</sup>候。志<sup>シ</sup>可<sup>ク</sup>此<sup>ノ</sup>段<sup>ニ</sup>容<sup>易</sup>成<sup>ル</sup>候<sup>ニ</sup>事<sup>ニ</sup>而<sup>レ</sup>無<sup>ク</sup>之<sup>レ</sup>、只<sup>レ</sup>今<sup>マ</sup>て<sup>ハ</sup>仕<sup>メ</sup>來<sup>ル</sup>候<sup>ニ</sup>事<sup>ハ</sup>彼<sup>ノ</sup>國<sup>ノ</sup>より<sup>モ</sup>容<sup>易</sup>相<sup>改</sup>可<sup>ク</sup>申<sup>ス</sup>とも<sup>モ</sup>被<sup>テ</sup>申<sup>間</sup>敷<sup>ク</sup>候間、何<sup>ト</sup>そ<sup>ノ</sup>仕<sup>メ</sup>來<sup>ル</sup>者<sup>ノ</sup>先<sup>ニ</sup>其<sup>ノ</sup>通<sup>ル</sup>被<sup>テ</sup>成<sup>ル</sup>被<sup>テ</sup>置<sup>ク</sup>、此<sup>ノ</sup>上<sup>ニ</sup>爾<sup>ノ</sup>実<sup>意</sup>御<sup>ノ</sup>取<sup>リ</sup>失<sup>ヒ</sup>無<sup>ク</sup>之<sup>レ</sup>様<sup>ニ</sup>被<sup>テ</sup>成<sup>ル</sup>度<sup>ノ</sup>事<sup>ニ</sup>候。日<sup>ノ</sup>本<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>ハ其<sup>ノ</sup>性<sup>質</sup>難<sup>ク</sup>以<sup>テ</sup>義<sup>ヲ</sup>屈<sup>ク</sup>と<sup>シ</sup>申<sup>ス</sup>叔<sup>ノ</sup>丹<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>文<sup>ヲ</sup>も<sup>モ</sup>相<sup>シ</sup>見<sup>ル</sup>へ<sup>ク</sup>候。彼<sup>ノ</sup>國<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>整<sup>齊</sup>大<sup>分</sup>候<sup>ニ</sup>得<sup>ル</sup>とも<sup>モ</sup>送<sup>リ</sup>使<sup>ハ</sup>接<sup>待</sup>を<sup>シ</sup>初<sup>メ</sup>耳<sup>ニ</sup>今<sup>ニ</sup>無<sup>ク</sup>別<sup>ニ</sup>条<sup>ヲ</sup>連<sup>續</sup>致<sup>シ</sup>候<sup>ハ</sup>難<sup>ク</sup>悍<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>性<sup>ヲ</sup>を<sup>シ</sup>被<sup>テ</sup>恐<sup>レ</sup>候<sup>ニ</sup>より<sup>モ</sup>事<sup>ヲ</sup>起<sup>リ</sup>た<sup>ル</sup>る<sup>ニ</sup>習<sup>テ</sup>御<sup>ノ</sup>座<sup>ニ</sup>候。後<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>餘<sup>ニ</sup>威<sup>ヲ</sup>今<sup>ニ</sup>而<sup>テ</sup>ハ甚<sup>ク</sup>薄<sup>ク</sup>成<sup>ル</sup>候<sup>ニ</sup>得<sup>ル</sup>者、此<sup>ノ</sup>後<sup>ニ</sup>對<sup>シ</sup>州<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>從<sup>テ</sup>前<sup>ニ</sup>武<sup>義</sup>之<sup>ノ</sup>習<sup>ヲ</sup>ひ<sup>ヲ</sup>を<sup>シ</sup>失<sup>ヒ</sup>、惰<sup>ノ</sup>慢<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>心<sup>ニ</sup>成<sup>ル</sup>候<sup>ハ</sup>必<sup>ズ</sup>前<sup>ニ</sup>申<sup>ス</sup>候<sup>ニ</sup>通<sup>ル</sup>、何<sup>ノ</sup>某<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>木<sup>ノ</sup>刀<sup>ヲ</sup>申<sup>ス</sup>如<sup>ク</sup>成<sup>ル</sup>行<sup>可</sup>申<sup>ス</sup>ゆ<sup>へ</sup>、朝<sup>鮮</sup>幹<sup>事</sup>之<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>ハ其<sup>ノ</sup>心<sup>ヲ</sup>得<sup>ル</sup>肝<sup>ノ</sup>要<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>事<sup>ニ</sup>御<sup>ノ</sup>座<sup>ニ</sup>候。ど<sup>ク</sup>か<sup>ク</sup>朝<sup>鮮</sup>之<sup>ノ</sup>事<sup>情</sup>を<sup>シ</sup>精<sup>ク</sup>知<sup>ル</sup>り<sup>不</sup>申<sup>ス</sup>候<sup>ニ</sup>而<sup>ハ</sup>、事<sup>ニ</sup>臨<sup>ミ</sup>何<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>了<sup>ル</sup>簡<sup>ニ</sup>可<sup>ク</sup>仕<sup>メ</sup>様<sup>も</sup>無<sup>ク</sup>之<sup>レ</sup>、浮<sup>言</sup>雜<sup>説</sup>い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>か<sup>ノ</sup>程<sup>ニ</sup>有<sup>ル</sup>之<sup>レ</sup>候<sup>ニ</sup>而<sup>モ</sup>益<sup>無</sup>之<sup>レ</sup>候<sup>ニ</sup>故<sup>ニ</sup>、經<sup>テ</sup>國<sup>ノ</sup>大<sup>典</sup>、攻<sup>事</sup>撮<sup>要</sup>之<sup>ノ</sup>書<sup>、</sup>并<sup>ニ</sup>阿<sup>比</sup>留<sup>兵</sup>衛<sup>士</sup>候<sup>ニ</sup>善<sup>ク</sup>隣<sup>通</sup>交<sup>、</sup>松<sup>浦</sup>儀<sup>右</sup>衛<sup>門</sup>仕<sup>立</sup>候<sup>ニ</sup>通<sup>交</sup>大<sup>記</sup>及<sup>分</sup>類<sup>記</sup>事<sup>大</sup>綱<sup>を</sup>常<sup>ニ</sup>致<sup>シ</sup>熟<sup>ク</sup>繼<sup>テ</sup>前<sup>後</sup>越<sup>テ</sup>考<sup>ヘ</sup>可<sup>ク</sup>致<sup>シ</sup>處<sup>ニ</sup>置<sup>キ</sup>事<sup>ニ</sup>候。

享保十三<sup>年</sup>戊申年十二月廿日

雨森東五郎 撰

### 3. あとがき

本稿は「まえがき」でも記述したごとく、本書は、18世紀初期の対朝鮮外交の指針書というべきものであるが、当時、江戸幕府から対朝鮮外交の政治、経済、交易、文化交流、異文化理解を委ねられ、最前線で対朝鮮との交渉に活躍した雨森芳洲個人の見識としてのみならず、当時の対朝鮮との総合的理解に今日的価値を有しているところに意味がある。日韓・朝両国の交渉と交流は地勢的にも政治的にも唇齒輔車の関係から永遠に脱する事はできない。ゆえに双

## 『交隣提醒』について—その5（呉）

方は宿命的な関係を有していると言える。現日本政府が提唱する「東アジア外交」の意義と実現が今後ますます期待されるところである。温故知新。今後日朝・韓・中の唇齒輔車の関係がますます強調されようし、三国は遠い関係から近くて近い関係に移行しつつ、緊密な相互作用が増進していくであろう。特に、北朝鮮との関係は今後の東アジアの平和と安全にとって国際的焦眉の重要課題である。その意味で『交隣提醒』の内容は今後の相互理解において示唆するものが何であるかを訴えて余りあるといえよう。

ところで、『交隣提醒』は、これまで部分的に取り上げられ言及されることはあっても、その全体が解説され、論述されることはなかったのみならず、原典と現存の他の写本との比較照合も未だ明らかにされていない。筆者はそのことを痛感し、その先駆けとして浅学を省みず果敢に両書の異同の考察を試みた。

なお、他の写本は未見であるので、機会を見て『交隣提醒』の原本の実相と当時の日朝関係及び今日の問題の所在と意義を考察してみたいと思う。

末尾ながら、平成21年9月、『国文学年次別論文集』刊行の案内が郵送された。これは紀要・学会誌の論文・資料を写真製版によって複製、収録し、時代別・ジャンル別に分類し一年毎に刊行される「年次別論文集」との由。その中に拙論「雨森芳洲著『交隣提醒』（韓国国史編纂委員会所蔵本）について—その二〈大阪経済法科大学・論集92〉、所収誌名「番号5-216」が採択され、掲載されることになった。案内によると、「平成十九年版国文学文献目録」に収録論文を明記、2010年5月作成の予定とのことである。深謝する次第である。

[2009年10月脱稿]

### [参考文献]

- 1) 『訳注「交隣提醒」』（国学資料院、韓日関係史学会編、2001年2月）
- 2) 呉 満著「雨森芳洲著『交隣提醒』について—その1（『大阪経済法科大学論集』第90号、大阪経済法科大学経法学会、2006年2月）
- 3) 呉 満著「雨森芳洲著『交隣提醒』（韓国国史編纂委員会所蔵本）について—その二（『大阪経済法科大学論集』第92号、大阪経済法科大学経法学会、2007年2月）



『交隣提醒』について—その5（呉）

- 4) 呉 満著「雨森芳洲著『交隣提醒』（現代語訳）—その3（『大阪経済法科大学論集』第94号、大阪経済法科大学経法学会、2008年3月）
- 5) 呉 満著『交隣提醒』（韓国立国史編纂委員会蔵本）、《原典解読》—その4（『大阪経済法科大学論集』第96号、大阪経済法科大学経法学会、2009年1月）
- 6) 『交隣提醒』（全）、高月町古文書クラブ編集、芳洲会発行、〈有〉白水社印刷、1990年10月30日。
- 7) 関西大学東西学術研究所資料集刊11-3『芳洲書簡集 雨森芳洲全書三』、雨森芳洲編著者、関西大学出版部、1982年6月10日。

